

FUJITSU Server

PRIMEQUEST 2000 シリーズ

REMCS サービス導入マニュアル

---



# はじめに

本書は、REMCS サービスの導入と操作について説明しています。本書は、システム管理者を対象に書かれています。なお、各種基準、規格への適合状況や安全上のご注意などは、『PRIMEQUEST 2000 シリーズ安全にご使用いただくために』（CA92344-0523）を参照してください。

## 本書の構成

本書の構成は以下のとおりです。

### 第 1 章 REMCS サービスの概要

REMCS サービスの概要について説明しています。

### 第 2 章 REMCS サービスを利用する前に

REMCS サービス利用時に必要な OSC との接続について説明しています。

### 第 3 章 REMCS サービス開始手順

REMCS サービスを開始する手順について説明しています。

### 第 4 章 REMCS サービス操作手順

REMCS サービスの操作手順について説明しています。

### 第 5 章 REMCS の詳細設定について

REMCS サービスの詳細設定について説明しています。

### 第 6 章 ソフトウェア調査資料収集

ソフトウェア障害発生時の調査資料収集について説明しています。

### 第 7 章 QSS 収集ツール

ソフトウェア障害発生時の調査データ収集ツールである QSS 収集ツールについて説明しています。

### 第 8 章 REMCS のメッセージ

画面に表示される主なエラーメッセージについて説明しています。

### 第 9 章 MMB のログ収集について

MMB のログ収集について説明しています。

### 第 10 章 REMCS GUI 使用上の注意点

REMCS の GUI を使用するときの注意点について説明しています。

## 改版履歴表

版数	日付	変更箇所（変更種別）	変更内容
01	2014-08-12	全体	- マニュアルコード変更にあたり版数を 1 に初期化
02	2014-10-07	3 章	- REMCS 設定の注意事項追加
03	2015-05-01	2 章 6 章	- VPN の記述追加 - Windows Server 2012 R2 の記述追加
04	2016-07-26	はじめに	-SUSE Linux に関する記述を追加
05	2016-11-28	5 章	- 環境詳細情報の記述の修正
06	2016-12-25	全体	- Windows Server 2016 の記述追加
07	2017-08-08	4 章	- 記述の修正
		3 章	- 記述の修正
08	2018-09-04	全体	- SLES15 の記述追加
09	2019-06-13	全体	- Windows Server 2019 の記述追加
10	2020-04-28	全体	- VMware7 の記述追加

## 製品の使用環境

本製品は電子計算機室での使用を前提とした電子計算機です。なお、使用環境の詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

『PRIMEQUEST 2000 シリーズ設置マニュアル』（CA92344-0525）

## 安全上の注意事項

### 警告表示

このマニュアルでは、使用者や周囲の方の身体や財産に損害を与えないために以下の警告表示をしています。



「警告」とは、正しく使用しない場合、死亡する、または重傷を負うことがあり得ることを示しています。



「注意」とは、正しく使用しない場合、軽傷、または中程度の傷害を負うことがあり得ることと、当該製品自身またはその他の使用者などの財産に、損害が生じる危険性があることを示しています。

### 重要

「重要」とは、効果的な使い方など、使用者にとって価値のある情報であることを示しています。

### 本文中の警告表示の仕方

警告レベルの記号の後ろに警告文が続きます。警告文は、通常の記述と区別するため、行端を変えています。さらに、通常の記述行からは、前後 1 行ずつ空けています。



本製品および当社提供のオプション製品について、以下に示す作業は当社技術員が行います。お客様は絶対に作業しないようお願いします。感電・負傷・発火のおそれがあります。

- 各装置の新規設置と移設
- 前面、後面と側面カバーの取外し
- 内蔵オプション装置の取付け／取外し
- 外部インターフェースケーブルの抜き差し
- メンテナンス（修理と定期的な診断と保守）

また、重要な警告表示は「重要警告事項の一覧」としてまとめて記載しています。

### 重要警告事項の一覧

本マニュアルには、重要な警告事項は記載されていません。

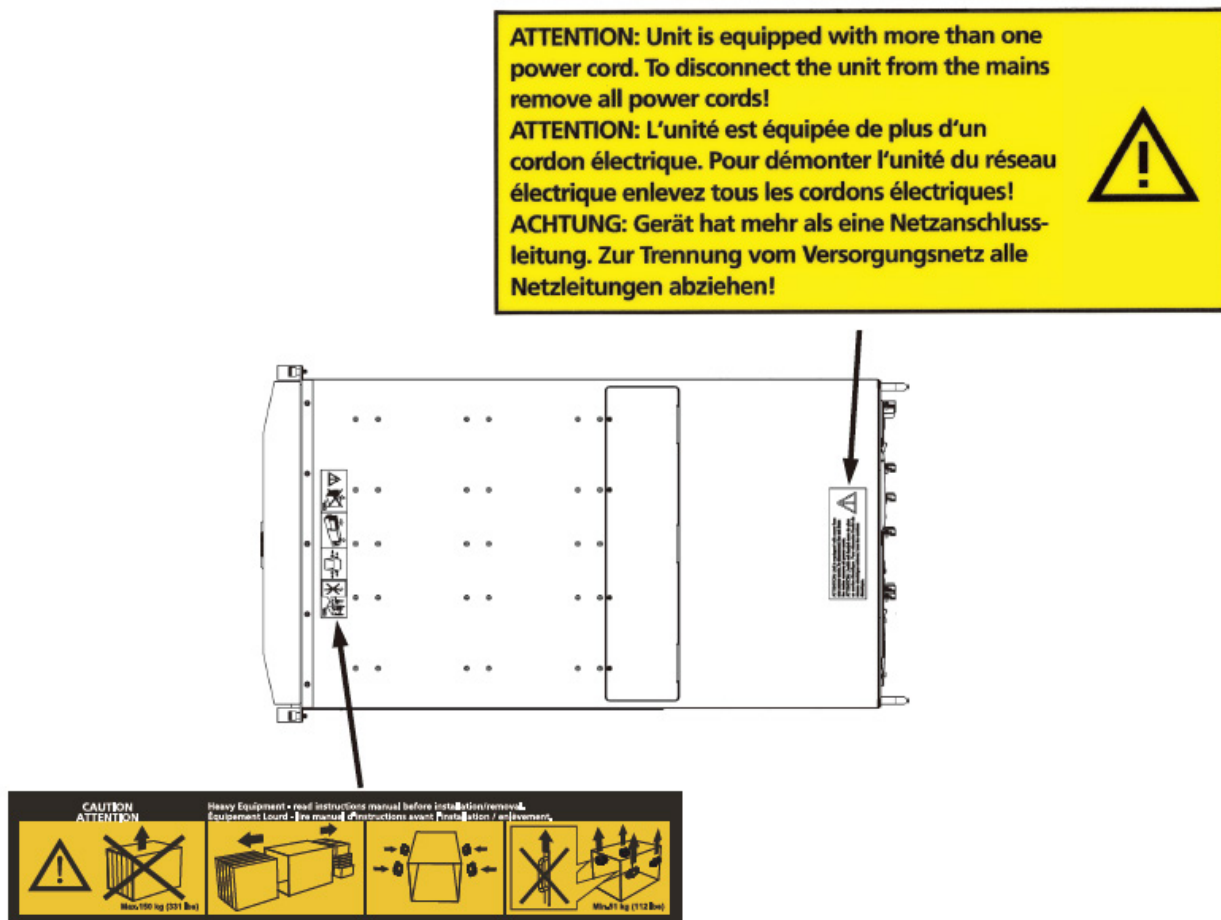
## 警告ラベル

当製品には以下のようにラベルが貼付してあります。以下のラベルは当製品の使用者を対象としています。

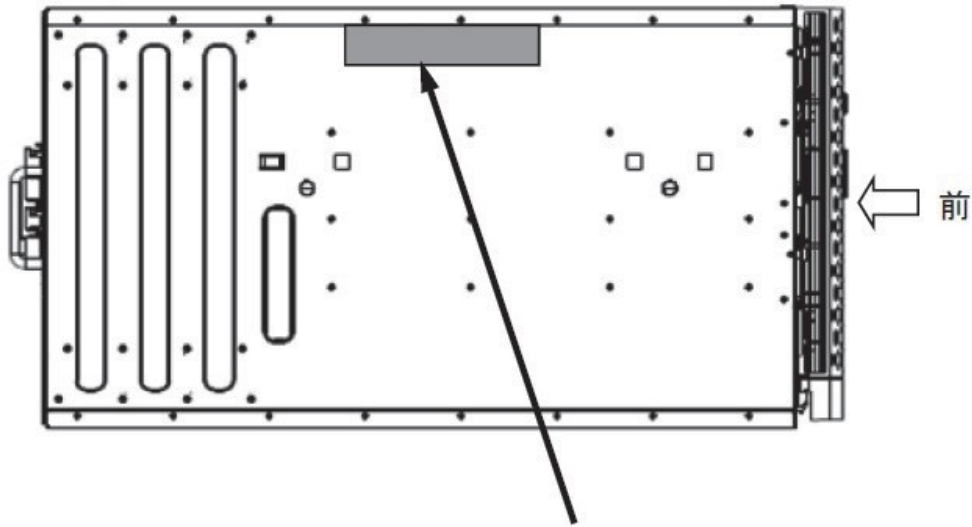
### ⚠ 注意

ラベルは絶対にはがさないでください。

警告ラベル位置(本体装置上面)



警告ラベル位置(本体装置左側面)



<p><b>注意 CAUTION ATTENTION</b>                  感電 触电                  内部には高電圧部分があり、感電する恐れがあります。保守担当者以外の方は内部に触れないでください。                  HAZARDOUS VOLTAGE. SERVICE ENGINEER ONLY TOUCH THE INSIDE.                  装置内有高电压部分，有引起触电的危险。除保养担当者之外，请勿触摸装置内部。                  TENSIONS DANGEREUSES. SEUL UN INGENIEUR PEUT VÉRIFIER L'INTÉRIEUR.</p>	<p><b>注意 CAUTION ATTENTION</b>                  本機器を搭載する前に、設置マニュアルを見てください。                  SEE INSTALLATION INSTRUCTIONS BEFORE INSTALLING THIS UNIT.                  请务必先阅读本装置安装手册之后，再进行机器的安装。                  VOIR LE MANUEL D'INSTRUCTIONS AVANT D'INSTALLER CET UNITÉ.</p>	<p><b>注意 CAUTION ATTENTION</b>                  保守時は静電気を除去すること。                  ELECTROSTATIC SENSITIVE DEVICES.                  维护保养时必须采取防静电措施。                  CIRCUITS SENSIBLES A L'ELECTRICITÉ STATIQUE.</p>
--	---	--

警告ラベル位置(PCI ボックス)

<p><b>注意 CAUTION</b>                  感電 触电                  内部には高電圧部分があり、感電する恐れがあります。保守担当者以外の方は内部に触れないでください。                  HAZARDOUS VOLTAGE. SERVICE ENGINEER ONLY TOUCH THE INSIDE.                  TENSIONS DANGEREUSES. SEUL UN INGENIEUR PEUT VÉRIFIER L'INTÉRIEUR.</p>	<p><b>注意 CAUTION</b>                  感電 触电                  内部には高電圧部分があり、感電する恐れがあります。保守担当者以外の方は内部に触れないでください。                  HAZARDOUS VOLTAGE. SERVICE ENGINEER ONLY TOUCH THE INSIDE.</p>
<p><b>注意 CAUTION</b>                  本機器を搭載する前に、設置マニュアルを見てください。                  SEE INSTALLATION INSTRUCTIONS BEFORE INSTALLING THIS UNIT.</p>	<p><b>注意 CAUTION</b>                  保守時は静電気を除去すること。                  ELECTROSTATIC SENSITIVE DEVICES.</p>

**注意 CAUTION**  
 本機器を搭載する前に、設置マニュアルを見てください。  
 请务必先阅读本装置安装手册之后，再进行机器的安装。  
 SEE INSTALLATION INSTRUCTIONS BEFORE INSTALLING THIS UNIT.

## 製品取扱い上の注意事項

### 本製品について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではございません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

### 添付品の保管について

添付品はサーバの運用上必要になりますので、大切に保管してください。

### オプション製品の増設

PRIMEQUEST 2000 シリーズを安定してご使用いただくために、オプション製品の増設時には弊社指定のオプション製品をご使用ください。

弊社指定以外のオプション製品をご使用いただく場合、PRIMEQUEST 2000 シリーズの動作保証は一切いたしかねますので、ご注意ください。

### 本製品の輸出または提供について

本製品を輸出又は提供する場合は、外国為替及び外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。

### メンテナンス



本製品および当社提供のオプション製品について、以下に示す作業は当社技術員が行います。お客様は絶対に作業しないようお願いします。感電・負傷・発火のおそれがあります。

- 各装置の新規設置と移設
- 前面、後面と側面カバーの取外し
- 内蔵オプション装置の取付け／取外し
- 外部インターフェースケーブルの抜差し
- メンテナンス（修理と定期的な診断と保守）



製品および当社提供のオプション製品について、以下に示す作業は当社技術員が行います。お客様は絶対に作業しないようお願いします。故障の原因となるおそれがあります。

- お客様のお手元に届いたオプションアダプターなどの開梱

### 本製品の改造／再生



本製品に改造を加えたり、本製品の中古品を富士通に無断でオーバーホールなどによって再生したりして使用する場合、使用者や周囲の方の身体や財産に予期しない損害が生じるおそれがあります。

## ご不要になったときの廃棄・リサイクル

法人、企業のお客様へ当社では、法人のお客様から排出される富士通製 ICT 製品を回収・リサイクル（有償）し、資源の有効利用に積極的に取り組んでいます。詳細は、当社ホームページ「IT 製品の処分・リサイクル」

（<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/society/recycleinfo/>）をご覧ください。

## 廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

本機器を使用していた状態のまま廃棄・譲渡すると、ハードディスク内のデータを第三者に読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。機密情報や重要なデータの流出を防ぐためには、本機器を廃棄・譲渡するさいに、ハードディスク上のすべてのデータを消去することが必要となります。ところが、ハードディスク上のデータを消去するというのは、それほど容易なことではありません。ハードディスクを初期化（フォーマット）したり、OS 上からファイルを削除したりする操作をただけでは、一見データが消去されたように見えますが、ただ単に OS 上でそれらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけあり、悪意を持った第三者によってデータが復元されるおそれがあります。従って、お客様の機密情報や重要なデータをハードディスク上に保存していた場合には、上に挙げるような操作をするだけでなく、データ消去のサービスを利用するなどして、これらのデータを完全に消去し、復元されないようにすることをお勧めします。お客様が、廃棄・譲渡等を行うさいに、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。

なお、ソフトウェア使用許諾（ライセンス）契約により、ソフトウェア（OS やアプリケーション・ソフトウェア）の第三者への譲渡が制限されている場合、ハードディスク上のソフトウェアを削除することなくサーバなどを譲渡すると、契約違反となる可能性があるため、そうした観点からも十分な確認を行う必要があります。

弊社では、お客様の機密情報や重要なデータの漏洩を防止するため、お客様が本機器を廃棄・譲渡するさいにハードディスク上のデータやソフトウェアを消去するサービスを提供しておりますので、是非ご利用ください。

### - データ消去サービス

弊社の専門スタッフがお客様のもとにお伺いし、短時間で、磁気ディスクおよび磁気テープ媒体上のデータなどを消去するサービスです。

詳しくは、データ消去サービス（<https://www.fujitsu.com/jp/services/infrastructure/maintenance/lcm/service-phase4/h-elimination/>）をご覧ください。

## サポート&サービス

### ■ SupportDesk について（有償）

システムの安定稼働に向け、保守・運用支援サービス「SupportDesk」のご契約をお勧めします。ご契約により、ハードウェア障害時の当日訪問修理対応、定期点検、障害予兆／異常情報のリモート通報、電話によるハードウェア／ソフトウェアの問題解決支援、お客様専用ホームページでの運用支援情報提供などのサービスが利用できます。詳しくは、SupportDesk 紹介ページ「製品サポート」

（<https://www.fujitsu.com/jp/services/infrastructure/service-desk/>）を参照してください。

### ■ 製品・サービスに関するお問い合わせ

製品の使用方法や技術的なお問い合わせ、ご相談については、製品を購入されたさいの販売会社、又は弊社担当営業員・システムエンジニア（SE）にご連絡ください。PRIMEQUEST 2000 シリーズに関するお問い合わせ先がご不明なときやお困りのときには、「富士通コンタクトライン」にご相談ください。

### ■ 富士通コンタクトライン

- 電話によるお問い合わせ



電話：0120-933-200（通話料無料）

ご利用時間：9:00～17:30（土曜・日曜・祝日・当社指定の休業日を除く） 富士通コンタクトラインでは、お問い合わせ内容の正確な把握、およびお客様サービス向上のため、お客様との会話を記録・録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。

- Web によるお問い合わせ

Web によるお問い合わせも承っております。詳細については、富士通ホームページをご覧ください。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/contact/>

## ■ 保証について

保証期間中に故障が発生した場合には、保証書に記載の内容に基づき無償修理いたします。詳細については、保証書をご覧ください。

## ■ 修理ご依頼の前に

本体装置に異常が発生した場合は、『PRIMEQUEST 2000 シリーズ運用管理マニュアル』（CA92344-0527）の「11.2 トラブル対応」を参照して、内容をご確認ください。それでも解決できない異常については、修理相談窓口または担当営業員に連絡してください。

ご連絡のさいは、本体装置前面部右側にある貼付ラベルに記載の型名、および製造番号を確認し、お伝えください。また、事前に『PRIMEQUEST 2000 シリーズ運用管理マニュアル』（CA92344-0527）の「11.2 トラブル対応」をご覧ください。必要事項を確認してください。お客様が退避したシステム設定情報は、保守時に使用します。

## マニュアルについて

### このマニュアルの取扱いについて

このマニュアルには本製品を安全に使用していただくための重要な情報が記載されています。本製品を使用する前に、このマニュアルを熟読し理解したうえで当製品を使用してください。また、このマニュアルは大切に保管してください。富士通は、使用者および周囲の方の身体や財産に被害を及ぼすことなく安全に使っていただくために細心の注意を払っています。本製品を使用するさいは、マニュアルの説明に従ってください。

本ドキュメントを輸出又は提供する場合は、外国為替及び外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。

## PRIMEQUEST 2000 シリーズのマニュアル体系

PRIMEQUEST 2000 シリーズをご利用いただくためのマニュアルとして、以下のマニュアルが用意されています。マニュアルは以下のサイトから閲覧できます。

日本語版マニュアル：

<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/2000/catalog/manual/2000/>

英語版マニュアル：

<http://manuals.ts.fujitsu.com/>

タイトル	説明	マニュアルコード
PRIMEQUEST 2000 シリーズ はじめにお読みください	PRIMEQUEST 2000 シリーズの開梱後、参照すべきマニュアルおよび重要な情報へのアクセス方法について説明しています。(製品添付マニュアル)	CA92344-0522
PRIMEQUEST 2000 シリーズ 安全にご使用いただくために	PRIMEQUEST 2000 シリーズを安全にご使用いただくための重要な情報について説明しています。	CA92344-0523
PRIMEQUEST 2000 シリーズ 製品概説	PRIMEQUEST 2000 シリーズの機能や特長について説明しています。	CA92344-0524
SPARC M10 システム/SPARC Enterprise/PRIMEQUEST 共通設置計画マニュアル	SPARC M10 システム/SPARC Enterprise および PRIMEQUEST を設置するための、設置計画および設備計画に必要な事項や考え方を説明しています。	C120-H007
PRIMEQUEST 2000 シリーズ 設置マニュアル	PRIMEQUEST 2000 シリーズを設置するための仕様や設置場所の要件について説明しています。	CA92344-0525
PRIMEQUEST 2000 シリーズ 導入マニュアル	導入のための準備や初期設定、ソフトウェアのインストールなど、PRIMEQUEST 2000 シリーズのセットアップについて説明しています。	CA92344-0526
PRIMEQUEST 2000 シリーズ ユーザーインターフェース操作 説明書	PRIMEQUEST 2000 シリーズを適切に運用するための Web-UI および UEFI の操作方法について説明しています。	CA92344-0528
PRIMEQUEST 2000 シリーズ 運用管理マニュアル	システムを運用・管理するさいに必要なツール・ソフトウェアの利用方法、および保守（コンポーネントの交換、異常通知）の方法について説明しています。	CA92344-0527
PRIMEQUEST 2000 シリーズ 運用管理ツールリファレンス	MMB、UEFI の機能の詳細など、運用のさいに必要な操作や設定方法について説明しています。	CA92344-0529
PRIMEQUEST 2000 シリーズ メッセージリファレンス	運用中にトラブルが発生したときのメッセージとその対処方法について説明しています。	CA92344-0530
PRIMEQUEST 2000 シリーズ REMCS サービス導入マニュアル	REMCS サービスの導入と操作について説明しています。	CA92344-0532
PRIMEQUEST 2000 シリーズ 用語集・略語集	PRIMEQUEST 2000 シリーズに関する用語および略語について説明しています。	CA92344-0531

## 関連するマニュアル

PRIMEQUEST 2000 シリーズに関連するマニュアルとして、以下のマニュアルが用意されています。関連するマニュアルは以下のサイトから閲覧できます。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/>

最新の ServerView Suite マニュアルは以下のサイトから閲覧できます。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/2000/catalog/manual/svs/>

タイトル	説明
Linux ユーザーズマニュアル Red Hat Enterprise Linux 6 編 (SupportDesk サービスご契約者様向け)	Red Hat 社から公開されている RHEL 向けマニュアルを補足するマニュアルです。RHEL システムの設計、導入、運用、保守に関する技術情報および参考と、SupportDesk サービスで提供されるツールの導入、運用情報および参考となる考え方を提供します。
Linux ユーザーズマニュアル Red Hat Enterprise Linux 7 編 (SupportDesk サービスご契約者様向け)	SupportDesk サービスを契約されたお客様に提供されます。本書では、Red Hat Enterprise Linux6 編および Red Hat Enterprise Linux7 編を総称して「Linux ユーザーズマニュアル」と表記しています
ServerView Suite ServerView Operations Manager Quick Installation (Windows)	Windows 環境での ServerView Operations Manager のインストールと起動方法について説明しています。
ServerView Suite ServerView Operations Manager Quick Installation (Linux)	Linux 環境での ServerView Operations Manager のインストールと起動方法について説明しています。
ServerView Suite ServerView Installation Manager	ServerView Installation Manager を使ったインストールについて説明しています。
ServerView Suite ServerView Operations Manager Server Management	ServerView Operations Manager によるサーバ監視の概要と、ServerView Operations Manager のユーザーインターフェースについて説明しています。
ServerView Suite ServerView RAID Management User Manual	ServerView RAID Manager による RAID 管理について説明しています。
ServerView Suite Basic Concepts	ServerView Suite の基本的な概念について説明しています
ServerView Operations Manager Installation ServerView Agents for Linux	ServerView Linux エージェントのインストール、および ServerView Linux エージェントのアップデートインストールについて記載しています。
ServerView Operations Manager Installation ServerView Agents for Windows	ServerView Windows エージェントのインストール、および ServerView Windows エージェントのアップデートインストールについて記載しています。
ServerView Mission Critical Option ユーザーズマニュアル	PRIMEQUEST 固有に必要な機能 (クラスタ連携) をサポートするにあたって、必要な ServerView MissionCritical Option (SVmco) について説明しています。 ServerView Suite マニュアルのサイト ( <a href="https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/2000/catalog/manual/svs/">https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/2000/catalog/manual/svs/</a> )
Modular RAID コントローラ	SAS アレイコントローラ
LSI MegaRAID SAS 2.0 Software	RAID Ctrl SAS 6Gb 1GB (D3116C)
LSI MegaRAID SAS 2.0 Device Driver	MegaRAID SAS 9286CV-8e

タイトル	説明
Installation	を使用するための技術情報を提供します。PRIMERGY サイト ( <a href="https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/manual/">https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/manual/</a> )
MegaRAID SAS ユーザーズガイド追補版	
Modular RAID コントローラ-	SAS アレイコントローラ PRAID EP400i / EP420i (D3216) PRAID EP420e
LSI MegaRAID SAS 12G Software	
LSI MegaRAID SAS 3.0 Device Driver Installation	
	を使用するための技術情報を提供します。PRIMERGY サイト ( <a href="https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/manual/">https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/manual/</a> )

## 略称

本書では、製品名を以下のように表記しています。

正式名	略称
Microsoft (R) Windows Server (R) 2019 Standard	Windows, Windows Server 2019
Microsoft (R) Windows Server (R) 2019 Datacenter	
Microsoft (R) Windows Server (R) 2016 Standard	Windows, Windows Server 2016
Microsoft (R) Windows Server (R) 2016 Datacenter	
Microsoft (R) Windows Server (R) 2012 R2 Standard	Windows, Windows Server 2012 R2
Microsoft (R) Windows Server (R) 2012 R2 Datacenter	
Microsoft (R) Windows Server (R) 2012 Standard	Windows, Windows Server 2012
Microsoft (R) Windows Server (R) 2012 Datacenter	
Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 R2 Standard	Windows, Windows Server 2008 R2
Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 R2 Enterprise	
Microsoft (R) Windows Server (R) 2008 R2 Datacenter	
Red Hat (R) Enterprise Linux (R) 7 (for Intel64)	Linux RHEL7, RHEL7.x, RHEL
Red Hat (R) Enterprise Linux (R) 6 (for Intel64)	Linux RHEL6, RHEL6.x, RHEL
VMware vSphere (R) 7	VMware, vSphere 7.x, VMware 7, VMware 7.x
VMware (R) ESXi (R) 7	ESX, ESX 7, ESX 7.x
VMware vSphere (R) 6	VMware, vSphere 6.x, VMware 6, VMware 6.x
VMware (R) ESXi (R) 6	ESX, ESX 6, ESX 6.x
VMware vSphere (R) 5	VMware, vSphere 5.x, VMware 5, VMware 5.x
VMware (R) ESXi (R) 5	ESX, ESX 5, ESX 5.x
SUSE (R) LINUX Enterprise Server 15 (x86-64)	SLES, SLES 15
SUSE (R) LINUX Enterprise Server 12 (x86-64)	SLES, SLES 12
SUSE (R) LINUX Enterprise Server 11	SLES, SLES 11

## 商標一覧

- Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V、BitLocker は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Linux は、Linus Torvalds 氏の登録商標です。
- Red Hat は米国およびその他の国において登録された Red Hat, Inc.の商標です。

- SUSE および SUSE ロゴは、米国およびその他の国における SUSE LLC の商標または登録商標です。
- Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。
- Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Intel Atom、Intel Atom Inside、Intel Core、Core Inside、Intel vPro、vPro Inside、Celeron、Celeron Inside、Itanium、Itanium Inside、Pentium、Pentium Inside、Xeon、Xeon Phi、Xeon Inside、Ultrabook は、アメリカ合衆国および/またはその他の国における Intel Corporation の商標です。
- Ethernet は、富士ゼロックス社、および米国その他の国におけるゼロックス社の登録商標です。
- VMware および VMware の製品名は、VMware, Inc.の米国および各国での商標または登録商標です。
- Xen は米国およびその他の国における Citrix Systems, Inc.またはその子会社の登録商標または商標です。
- その他、会社名と製品名はそれぞれ各社の商標、または登録商標です。
- 本資料に掲載されているシステム名、製品名などには、必ずしも商標表示 (TM、(R)) を付記していません。

## 表記上の規則

本書では、以下のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用しています。

字体または記号	意味	記述例
『 』	参照するマニュアルの書名を示します。	『PRIMEQUEST 2000 シリーズ導入マニュアル』(CA92344-0526) を参照してください。
「 」	参照する章、節、項を示します。	「1.4.1 [User List] 画面」を参照してください。
[ ]	画面名、画面のボタン名、タブ名、ドロップダウンメニューを示すときに使います。	[OK] ボタンをクリックしてください。

## CLI (コマンドラインインターフェース) の表記

コマンドの記載形式は以下のとおりです。

### ■ 入力形式

コマンドの入力形式は以下のように記載しています。

- 値を入力する変数は<> で囲んで記載
- 省略可能な要素は[] で囲んで記載
- 省略可能なキーワードの選択肢は、まとめて[] で囲み、|で区切り記載
- 定義が必須なキーワードの選択肢は、まとめて{} で囲み、|で区切り記載

なお、コマンドの入力形式は枠内に記載しています。

### 備考

PDF 形式のマニュアルでは、コマンド出力 (例を含む) において、改行を表す記号 (行末の) 以外の箇所でも改行されている箇所があります。

## 表記に関する注意事項

- 本マニュアルに関するご意見、ご要望または内容に不明瞭な部分がありましたら、下記ウェブサイト to 具体的な内容を記入のうえ送付してください。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/contact/>

- 本書は、予告なしに変更されることがあります。
- 本書では、「マネジメントボード (Management Board)」および「MMB ファームウェア」を、「MMB」

と表記しています。

- 本書では、IOU\_10GbE と IOU\_1GbE を合わせて「IOU」と表記しています。
- 本書に掲載している画面は、実際の装置の画面と一部異なることがあります。
- 本書の画面の IP アドレス、構成情報等は表示例であり、実際の運用では異なります。
- 本書 PDF は、Adobe (R) Reader (R) で「100%表示」「単一ページ」で表示することを前提として作成しています。

本書を無断で複製・転載しないようにお願いします。

Copyright 2014-2020 FUJITSU LIMITED

---

# 目次

はじめに.....	i
目次.....	xiv
図表目次.....	xvii
<b>第1章 REMCS サービスの概要</b> .....	<b>1</b>
1.1 REMCS サービスの目的 .....	1
1.2 REMCS 連携の概要.....	1
1.2.1 REMCS 機能を実現するコンポーネント .....	2
1.2.2 REMCS 機能のインストール .....	3
1.2.3 REMCS 機能でサポートする接続形態 .....	3
<b>第2章 REMCS サービスを利用する前に</b> .....	<b>4</b>
2.1 OSC への接続概要 .....	4
2.2 OSC との接続形態 .....	4
2.2.1 インターネット接続 (メール) .....	4
2.2.2 P-P 接続 (ISDN/VPN : メール) .....	5
<b>第3章 REMCS サービス開始手順</b> .....	<b>7</b>
3.1 開始手順の概要 .....	7
3.2 OSC へのレジストレーション .....	9
3.2.1 言語の設定 .....	10
3.2.2 REMCS の起動.....	14
3.2.3 接続形態設定 .....	15
3.2.4 環境設定.....	16
3.2.5 定期接続スケジュール設定.....	20
3.2.6 お客様情報設定.....	21
3.2.7 レジストレーション結果確認 .....	25
3.2.8 接続確認.....	26
3.3 レジストレーション情報のインポート.....	28
3.4 初期設定時の S/MIME 証明書の入替え .....	32
3.5 REMCS 設定のインポート、自動レジストレーションにおける注意事項.....	35
<b>第4章 REMCS サービス操作手順</b> .....	<b>40</b>
4.1 REMCS 操作の手順概要 .....	40
4.2 REMCS サービスメニュー .....	41
4.2.1 お客様情報の更新.....	41
4.2.2 再レジストレーション .....	41
4.2.3 接続情報.....	42
4.2.4 定期接続情報 .....	45

---

4.2.5	設定情報エクスポート	46
4.2.6	接続形態の変更	47
4.2.7	証明書の表示	48
4.2.8	証明書の入れ替え	50
4.2.9	前証明書への復元	52
4.2.10	接続確認	53
4.2.11	センター接続一時停止	56
4.2.12	センター接続再開	57
4.2.13	ハード構成情報送信	58
4.2.14	ソフト構成情報送信	59
<b>第5章</b>	<b>REMCSの詳細設定について</b>	<b>60</b>
5.1	REMCS詳細設定の概要	60
5.2	環境詳細情報	61
5.3	接続先 OSC 変更画面	65
5.4	日本語／英語切替え	66
5.5	装置名表示の切替え	67
5.6	個人情報削除	68
5.7	SSL 証明書の表示	69
<b>第6章</b>	<b>ソフトウェア調査資料収集</b>	<b>70</b>
6.1	調査資料収集の概要	70
6.1.1	SIRMS について	70
6.1.2	REMCS Option (FJSVrmo) について	72
6.2	調査資料収集・送信の手順	73
6.2.1	調査資料を一括収集・送信する (a)	73
6.2.2	調査資料を個別収集・送信する (b)	82
6.2.3	QSS 収集ツールを一覧表示する (c)	91
6.2.4	任意のファイルを収集・送信する (d)	94
6.3	収集結果管理	103
6.3.1	収集結果を一覧表示する (e)	103
6.3.2	収集結果を OSC へ送信する (f)	108
6.3.3	収集結果を削除する (g)	113
6.3.4	収集結果を取り出して手動でメールなどで送信する (h)	117
6.3.5	インシデント番号を変更する (i)	120
6.4	ユーザー設定	125
6.4.1	SIRMS の収集結果パスを設定する (j)	126
6.4.2	SIRMS の収集結果最大サイズを設定する (k)	131
6.4.3	SIRMS の収集結果最大保存数を設定する (l)	135
6.4.4	SIRMS の送信ファイル最大サイズを設定する (m)	139
6.4.5	送信ファイル最大合計サイズを設定する (n)	143
6.4.6	SIRMS の QSS 収集ツール実行待ち時間を設定する (o)	147
6.4.7	SIRMS の QSS 収集ツール判断待ち時間を設定する (p)	151
6.4.8	ディスク空き領域を設定する (q)	155

---



6.5	SIRMS のメッセージ.....	159
第 7 章	QSS 収集ツール .....	160
7.1	QSS 収集ツールの概要.....	160
7.2	調査資料収集 (Windows) .....	160
7.3	調査資料収集 (Linux : RHEL) .....	165
第 8 章	REMCS のメッセージ.....	169
8.1	REMCS 画面のメッセージ .....	169
8.2	通信エラーメッセージ (SMTP 通信) .....	189
8.3	その他のエラーメッセージ.....	191
第 9 章	MMB のログ収集について .....	192
第 10 章	REMCSGUI 使用上の注意点.....	193

# 図表目次

## 図目次

図 1.1 REMCS 連携.....	1
図 2.1 インターネット接続（ユーザー用ポートに接続したネットワークを使用） .....	5
図 2.2 インターネット接続（REMCS 用ポートを使用） .....	5
図 2.3 P-P 接続（ISDN など：メール）（ユーザー用ポートに接続したネットワークを使用） .....	6
図 2.4 P-P 接続（ISDN など：メール）（REMCS ポートを使用） .....	6
図 3.1 OSC への登録の流れ.....	8
図 3.2 REMCS Detaile Setup 画面 .....	10
図 3.3 REMCS FE menu 画面.....	10
図 3.4 Select language 画面（1/2） .....	11
図 3.5 Select language 画面(2/2).....	11
図 3.6 Select language 確認メッセージ（1/2） .....	12
図 3.7 Select language 確認メッセージ（2/2） .....	12
図 3.8 REMCS CE メニュー画面 .....	13
図 3.9 REMCS CE メニュー終了確認メッセージ.....	13
図 3.10 [お客様登録のご案内] 画面.....	14
図 3.11 [接続先センター情報の設定] 画面 .....	15
図 3.12 [初期設定] 画面 .....	16
図 3.13 [インターネット（メールのみ）接続の環境設定] 画面.....	17
図 3.14 [P-P 接続の環境設定] 画面 .....	18
図 3.15 [定期接続スケジュール設定] 画面 .....	20
図 3.16 [お客様情報の入力] 画面 .....	21
図 3.17 [入力情報の確認] 画面 .....	23
図 3.18 [情報送信に関する合意事項] 画面 .....	24
図 3.19 [レジストレーション結果] 画面 .....	25
図 3.20 [接続確認] 画面 .....	26
図 3.21 [接続確認結果] 画面.....	27
図 3.22 [環境情報・お客様情報のインポート] 画面 .....	28
図 3.23 [個人情報削除指定確認] 画面.....	30
図 3.24 [接続確認情報] 画面.....	30
図 3.25 [情報送信に関する合意事項]（自動設定）画面 .....	31
図 3.26 [自動レジストレーション結果] 画面.....	32

---

図 3.27 [証明書の入替え] 画面 (初期設定時) .....	33
図 3.28 [証明書の確認] 画面 (初期設定時) .....	33
図 4.1 [REMCS メニュー] 画面 (REMCS 初期) .....	40
図 4.2 [インターネット(メールのみ)接続の環境設定]画面 .....	43
図 4.3 [P-P 接続の環境設定] 画面 .....	43
図 4.4 [定期接続スケジュール設定] 画面 .....	45
図 4.5 [環境情報・設定情報エクスポート] 画面 .....	46
図 4.6 運用中の接続形態の変更画面 .....	47
図 4.7 [証明書の表示] 画面 (証明書の入替えを行っていない場合) .....	48
図 4.8 [証明書の表示] 画面 (証明書の入替えを行っている場合-使用中) .....	49
図 4.9 [証明書の表示] 画面 (証明書の入替えを行っている場合-前証明書) .....	50
図 4.10 [証明書の入替え] 画面 .....	51
図 4.11 [証明書の確認] 画面.....	51
図 4.12 [前証明書への復元] 画面 .....	52
図 4.13 [接続確認] 画面 (個人情報削除なしの場合) .....	53
図 4.14 [接続確認] 画面 (個人情報削除ありの場合) .....	54
図 4.15 [接続確認結果] 画面.....	55
図 4.16 [センター接続一時停止] 画面.....	56
図 4.17 [センター接続再開] 画面 .....	57
図 4.18 [ハード構成情報送信] 画面.....	58
図 4.19 [ソフト構成情報送信] 画面.....	59
図 5.1 CE 操作初期画面 .....	60
図 5.2 [環境詳細設定画面] (インターネット接続 (メールのみ) 時) .....	61
図 5.3 [環境詳細設定画面] (P-P 接続時) .....	63
図 5.4 [接続先 REMCS センター設定] 画面.....	65
図 5.5 [日本語/英語の切替え] 画面.....	66
図 5.6 [装置 ID/ユニーク名の切替え] 画面 .....	67
図 5.7 [個人情報削除] 画面.....	68
図 5.8 [証明容の表示]画面 (SSL) .....	69
図 6.1 SIRMS 利用による調査資料収集作業の流れ .....	72
図 6.2 エクスプローラ画面 .....	119
図 6.3 エクスプローラ画面 .....	119
図 7.1 [アクセス拒否] 画面.....	161
図 7.2 [ユーザーアカウント制御] ダイアログボックス.....	161
図 7.3 [ユーザーアカウント制御] ダイアログボックス.....	162
図 7.4 [ユーザーアカウント制御] ダイアログボックス.....	162
図 7.5 [ユーザーアカウント制御] ダイアログボックス.....	162

---

図 7.6 [ユーザーアカウント制御] ダイアログボックス.....	163
図 10.1 REMCS メッセージ画面 .....	193

## 表目次

表 3.1 [インターネット（メールのみ）接続の環境設定] 画面の入力項目 .....	17
表 3.2 [P-P 接続の環境設定] 画面の入力項目 .....	19
表 3.3 [定期接続スケジュール設定] 画面の入力項目 .....	20
表 3.4 [お客様情報の入力] 画面の入力可能文字コード .....	21
表 3.5 [お客様情報の入力] 画面の入力項目 .....	22
表 3.6 暗号化接続の設定とインポート・自動レジストレーション実施可否一覧 .....	36
表 4.1 [REMCS メニュー] 画面（REMCS 初期）の項目 .....	41
表 5.1 [環境詳細設定画面]（インターネット接続（メールのみ）時）の入力項目 .....	62
表 5.2 [環境詳細設定画面]（P-P 接続時）の入力項目 .....	64
表 6.1 接続状態 .....	72
表 6.2 収集結果 .....	76
表 6.3 送信結果 .....	80
表 6.4 収集結果 .....	85
表 6.5 送信結果 .....	89
表 6.6 QSS 収集ツール調査資料名一覧 .....	92
表 6.7 調査資料収集結果 .....	98
表 6.8 調査資料送信結果 .....	101
表 6.9 初期値として設定されている収集結果パス（環境変数を使用） .....	103
表 6.10 収集結果パス配下ファイル .....	103
表 6.11 収集結果一覧 .....	104
表 6.12 収集結果一覧－収集結果（一括収集／個別収集の収集結果） .....	104
表 6.13 収集結果一覧－送信結果（最新の送信結果） .....	104
表 6.14 調査資料一覧 .....	105
表 6.15 調査資料一覧－個別収集結果 .....	105
表 6.16 調査資料一覧－個別送信結果 .....	106
表 6.17 個別調査資料の一覧 .....	106
表 6.18 調査資料一覧－個別収集結果 .....	107
表 6.19 調査資料一覧－個別送信結果 .....	107
表 6.20 送信結果 .....	111
表 6.21 [ユーザ設定管理]（設定値） .....	126
表 6.22 SIRMS のメッセージ .....	159
表 7.1 収集ツール実行方法の一覧 .....	161
表 7.2 収集結果の出力先 .....	164
表 7.3 収集結果の出力先 .....	168
表 8.1 全画面共通のメッセージ .....	169

表 8.2 GUI 起動時のメッセージ	170
表 8.3 メニューフレームのメッセージ	170
表 8.4 状態表示フレームのメッセージ	171
表 8.5 設定進捗表示フレームのメッセージ	171
表 8.6 [お客様登録のご案内] 画面のメッセージ	171
表 8.7 初期画面のメッセージ	171
表 8.8 [初期設定] 画面のメッセージ	172
表 8.9 [環境情報・お客様情報のインポート] 画面のメッセージ	173
表 8.10 [入力情報の確認] 画面のメッセージ	173
表 8.11 [自動レジストレーション結果] 画面のメッセージ	174
表 8.12 [環境設定(インターネット(メールのみ))] 画面のメッセージ	175
表 8.13 [環境設定(P-P)] 画面のメッセージ	176
表 8.14 [定期接続スケジュール設定] 画面のメッセージ	177
表 8.15 [お客様情報] 画面のメッセージ	178
表 8.16 [お客様情報確認] 画面のメッセージ	179
表 8.17 [情報送信に関する合意事項] 画面のメッセージ	179
表 8.18 [レジストレーション結果] 画面のメッセージ	180
表 8.19 [環境情報・お客様情報のエクスポート] 画面のメッセージ	180
表 8.20 [接続確認] 画面または[接続確認情報] 画面のメッセージ	181
表 8.21 [接続確認結果] 画面のメッセージ	181
表 8.22 [センター接続一時停止] 画面または[センター接続再開] 画面のメッセージ	182
表 8.23 [ハード構成情報送信] 画面のメッセージ	182
表 8.24 [ソフト構成情報送信] 画面のメッセージ	183
表 8.25 CE 操作初期画面のメッセージ	183
表 8.26 [環境詳細設定] 画面のメッセージ	184
表 8.27 [接続先 REMCS センター設定] 画面のメッセージ	185
表 8.28 [日本語/英語の切替え] 画面のメッセージ	186
表 8.29 [装置 ID/ユニーク名の切替え] 画面のメッセージ	186
表 8.30 処理進捗表示画面のメッセージ	186
表 8.31 [個人情報削除] 画面のメッセージ	187
表 8.32 [証明書の入れ替え] 画面のメッセージ	187
表 8.33 [証明書の確認] 画面のメッセージ	188
表 8.34 [前証明書への復元] 画面のメッセージ	188
表 8.35 [証明書の表示] 画面のメッセージ	188
表 8.36 通信エラーメッセージ (SMTP 通信) 一覧	189

# 第1章 REMCS サービスの概要

ここでは、REMCS のサービス概要を説明します。

## 1.1 REMCS サービスの目的

REMCS は、PRIMEQUEST 2000 シリーズと富士通のお客様総合サポートセンターである One-stop Solution Center (OSC) をインターネットまたは P-P (ポイント・ツー・ポイント) 接続経由で接続し、サーバの構成情報の送信、障害発生時の自動通知を行うことで、迅速なトラブル対応および解決を目的とするものです。

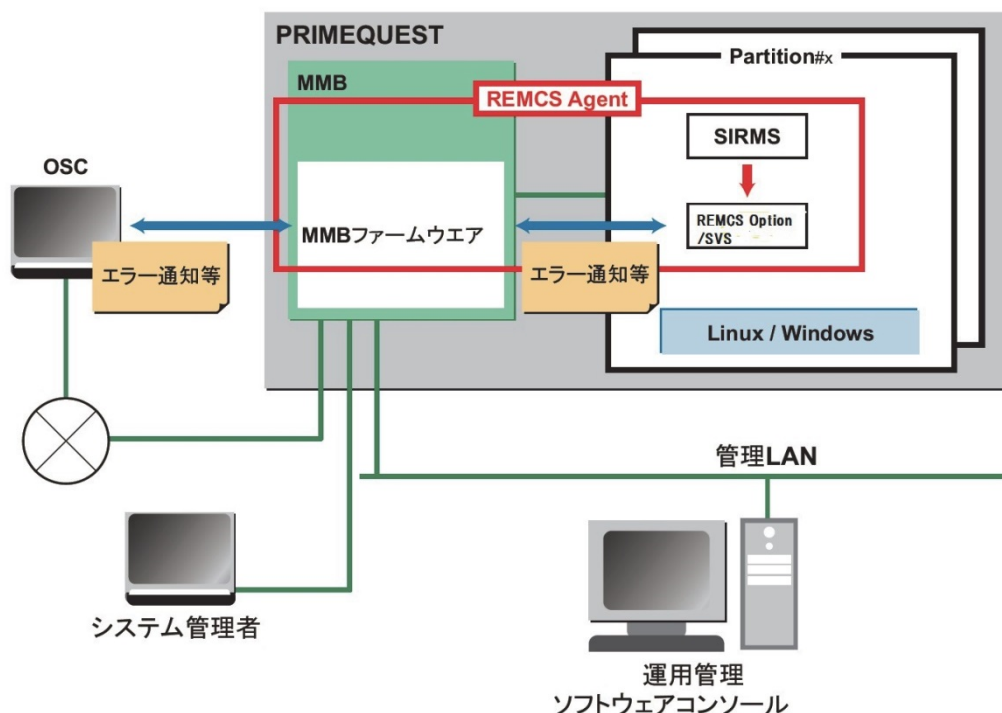
REMCS サービスを受けるためには「SupportDesk Standard」を契約する必要があります。契約していない場合、OSC への登録 (レジストレーション) はできますが、サービスを受けることはできません。

「SupportDesk Standard」については、製品を購入されたさいの販売会社、または担当営業員に確認してください。

## 1.2 REMCS 連携の概要

REMCS エージェントは、MMB と連携し、パーティション上の資源情報や異常を OSC に通知する機能です。PRIMEQUEST 2000 シリーズのシステムのエラー情報やログ情報などを、インターネットまたは P-P (ポイント・ツー・ポイント) 接続により OSC に通知します。

図 1.1 REMCS 連携



PRIMEQUEST 2000 シリーズの REMCS エージェントは、MMB ファームウェアと、各パーティションにインストールされる SVS、REMCS Option および SIRMS により構成されます。REMCS 連携に示すように、MMB ファームウェアはシステム全体の異常を監視し、異常を検出すると OSC に通知します。SVS は、パーティション上の OS が検出したハードウェア異常情報およびハードウェア構成情報を、MMB ファームウェア経由で OSC に通知します。また、REMCS Option は SIRMS で検出したソフトウェア構成情報やソフトウェア異常情報を MMB ファームウェア経由で OSC に通知します。HBA 閉塞機能により、Linux(RHEL)の OS Panic の監視および OSC への通知を行います。なお Windows の場合は HBA 閉塞機能なしに OS Stop エラーの OSC への通知が可能です。

## 1.2.1 REMCS 機能を実現するコンポーネント

PRIMEQUEST 2000 シリーズでの REMCS 機能は、以下のコンポーネントで実現されます。

- MMB  
サーバ全体のハードウェア構成情報収集、異常監視および OSC への通知。
- SVS  
パーティションで認識される PCI Express カード、SCSI 装置の構成情報収集や異常監視。
- SIRMS  
Windows : ソフトウェア構成情報の収集、ソフトウェア障害発生時の調査資料収集。  
Linux (RHEL) : ソフトウェア構成情報の収集。
- QSS 収集ツール  
パーティションのソフトウェア障害発生時の調査資料収集。
- HBA 閉塞機能  
Linux(RHEL)の OS Panic の監視および OSC への通知。

### ■ 構成情報監視

ハードウェアやソフトウェアの構成変更を検出して、最新の構成情報を OSC に通知します。

### ■ 障害通知

サーバのハードウェア異常が発生した場合には、自動で OSC に異常を通知するとともに、ログなどの障害情報を OSC に転送します。ソフトウェア異常については自動監視しません。SIRMS/QSS 収集ツールを使用し、調査資料の収集後に送付指示を行うことにより OSC に通知します。ハードウェア異常検出による通知後、同一ユニットで事象が発生した場合、OSC への通知は抑止されます。SVS が検出した事象については、OS リブートや SVS が停止・再起動された場合にも解除されます。通知抑止中に同一箇所でも抑止中のイベントよりも通知レベルの高い異常が発生した場合には、抑止時間内でも通知されます。このときは抑止時間を 0 にクリアし、通知抑止は継続されます。SVS には、抑止時間に関する処理はなく、レベルの高い異常が発生するか、異常がクリアされるまで、異常通知を抑止します。

### ■ 定期接続

あらかじめ設定した時刻に自動的に OSC に接続し、通信パスおよび REMCS エージェントの生存を確認します。



## 1.2.2 REMCS 機能のインストール

PRIMEQUEST 2000 シリーズの REMCS 機能は、MMB と、パーティション側にインストールする SVS/REMCS Option/SIRMS によって構成されます。

### ■ MMB へのインストール

MMB の REMCS 機能は標準搭載されており、インストールの必要はありません。

### ■ SIRMS、REMCS Option および HBA 閉塞機能(Linux:RHEL の場合のみ)のインストール

#### 新規インストールの場合

SVIM による OS インストール時に、SIRMS、REMCS Option および HBA 閉塞機能(Linux:RHEL の場合のみ)をインストール対象として選択することでインストール可能です。

導入手順について詳しくは『PRIMEQUEST 2000 シリーズ導入マニュアル』（CA92344-0526）の第 4 章「OS および添付ソフトのインストール」を参照してください。

#### SVIM を使用しない場合

富士通公開ページより以下のパッケージをダウンロードし、添付の README にしたがってインストールします。

- SIRMS
- REMCS Option
- HBA 閉塞機能(Linux:RHEL の場合のみ)

富士通公開ページ

<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/download/2000/>

インストール後は Internal LAN の設定が必要になる場合があります。詳しくは『PRIMEQUEST 2000 シリーズ導入マニュアル』（CA92344-0526）の「5.9 Internal LAN の設定」を参照してください。

## 1.2.3 REMCS 機能でサポートする接続形態

PRIMEQUEST 2000 シリーズでは以下の接続形態をサポートしており、いずれの接続形態においても SMTP だけを使用して OSC と通信します。

- インターネット接続（メール）  
インターネットを経由し OSC と通信する形態。
- P-P 接続（ISDN/VPN：メール）  
ISDN 回線や VPN を用いた P-P 方式で OSC と通信する形態。

## 第2章 REMCS サービスを利用する前に

ここでは、REMCS サービス利用時に必要な OSC との接続を説明します。

### 2.1 OSC への接続概要

OSC への接続形態は、ユーザーのネットワーク構成やサーバ構成により異なります。あらかじめ、どの接続形態で利用するかを決める必要があります。

PRIMEQUEST 2000 シリーズでは以下の接続形態をサポートしており、いずれの接続形態においても SMTP だけを使用して OSC と通信します。

- インターネット接続（メール）
- P-P 接続（ISDN/VPN：メール）

なお、OSC 接続のための設定は、担当保守員が行います。

### 2.2 OSC との接続形態

OSC との接続形態について説明します。以下の接続形態があります。

- [2.2.1 インターネット接続（メール）](#)
- [2.2.2 P-P 接続（ISDN/VPN：メール）](#)

#### 2.2.1 インターネット接続（メール）

インターネットを経由して OSC と通信します。

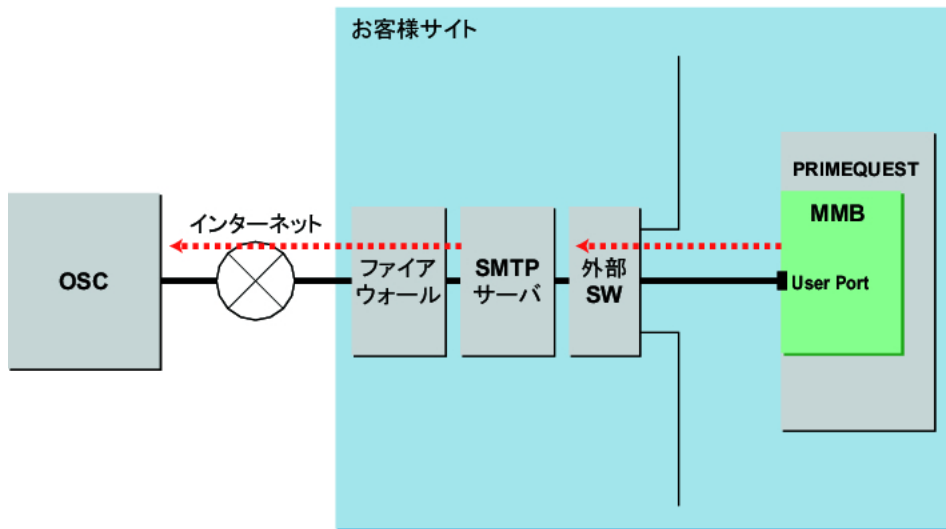
##### ■ ユーザー用ポートに接続したネットワークを使用する場合

ユーザー用ポートに接続したネットワークを使用する形態を、「[図 2.1 インターネット接続（ユーザー用ポートに接続したネットワークを使用）](#)」に示します。

##### 備考

お客様サイト内の SMTP サーバを FQDN で指定する場合は、MMB の参照先 DNS を設定する必要があります。SMTP サーバを IP アドレスで指定する場合は、この設定は不要です。

図 2.1 インターネット接続（ユーザー用ポートに接続したネットワークを使用）



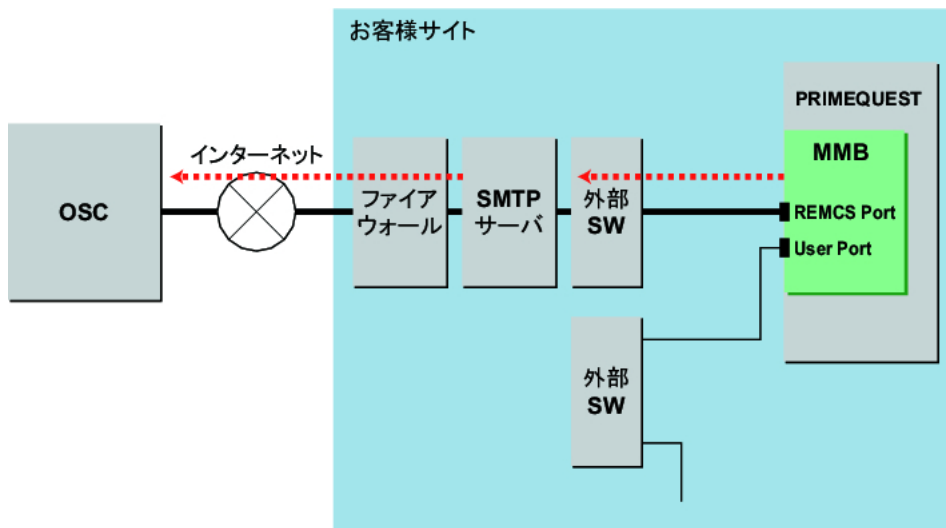
### ■ ユーザー用ポートに接続していないネットワークを使用する場合

ユーザー用ポートに接続したネットワークとは別のネットワークと接続する場合に REMCS 用ポートを使用する形態を、「[図 2.2 インターネット接続（REMCS 用ポートを使用）](#)」に示します。Internet Service Provider (ISP) の SMTP サーバは指定できません。

#### 備考

- MMB の Web-UI から [Maintenance Port] の IP アドレスを設定する必要がある
- SMTP サーバは必ず IP アドレスで指定する

図 2.2 インターネット接続（REMCS 用ポートを使用）



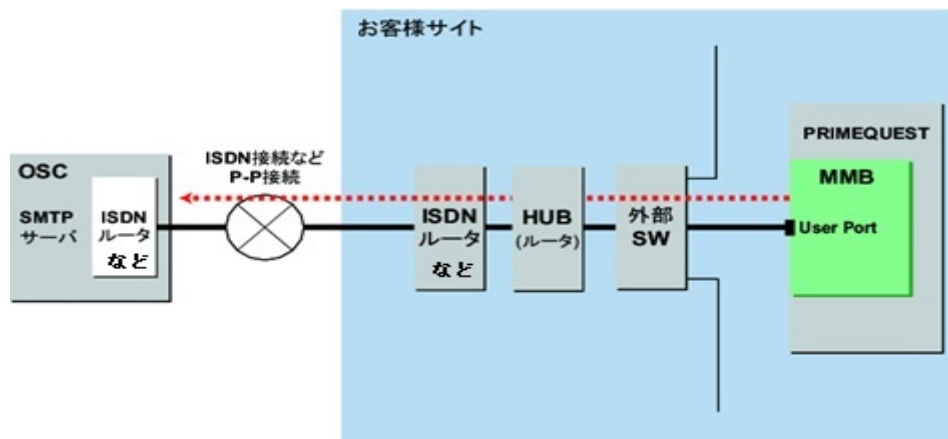
## 2.2.2 P-P 接続（ISDN/VPN：メール）

ISDN 回線や VPN を用いた P-P 方式で OSC と通信します。

### ■ ユーザー用ポートに接続したネットワークを使用する場合

ユーザー用ポートに接続したネットワークを使用する形態を、「[図 2.3 P-P 接続（ISDN など：メール）（ユーザー用ポートに接続したネットワークを使用）](#)」に示します。

図 2.3 P-P 接続 (ISDN など：メール) (ユーザー用ポートに接続したネットワークを使用)



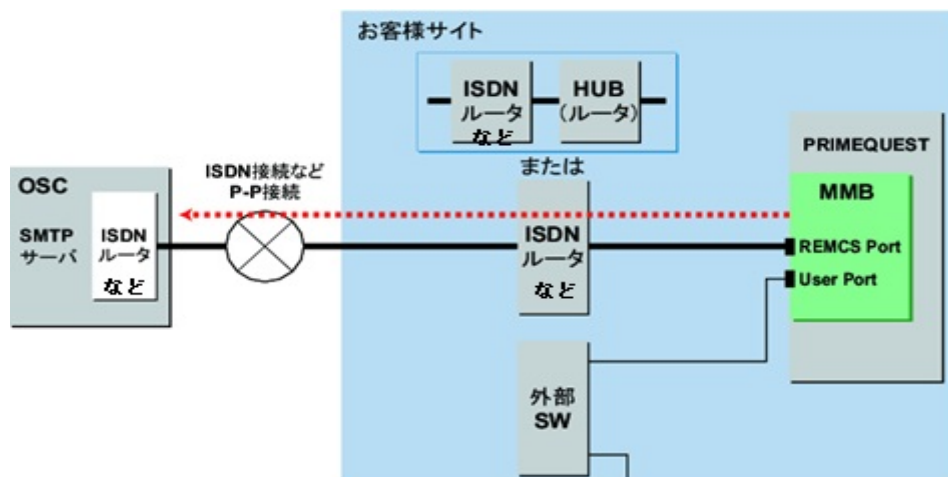
### ■ ユーザー用ポートに接続していないネットワークを使用する場合

ユーザー用ポートに接続したネットワークとは別のネットワークと接続する場合に REMCS 用ポートを使用する形態を、「[図 2.4 P-P 接続 \(ISDN など：メール\) \(REMCS ポートを使用\)](#)」に示します。REMCS ポートに直接 ISDN ルータなどを接続する場合と、HUB (ルータ) に接続してほかの装置などと専用 LAN を構成し、HUB に ISDN ルータなどを接続する形態があります。

#### 備考

MMB の Web-UI から [Maintenance Port] の IP アドレスを設定する必要があります。ただし DNS は指定できません。

図 2.4 P-P 接続 (ISDN など：メール) (REMCS ポートを使用)



## 第3章 REMCS サービス開始手順

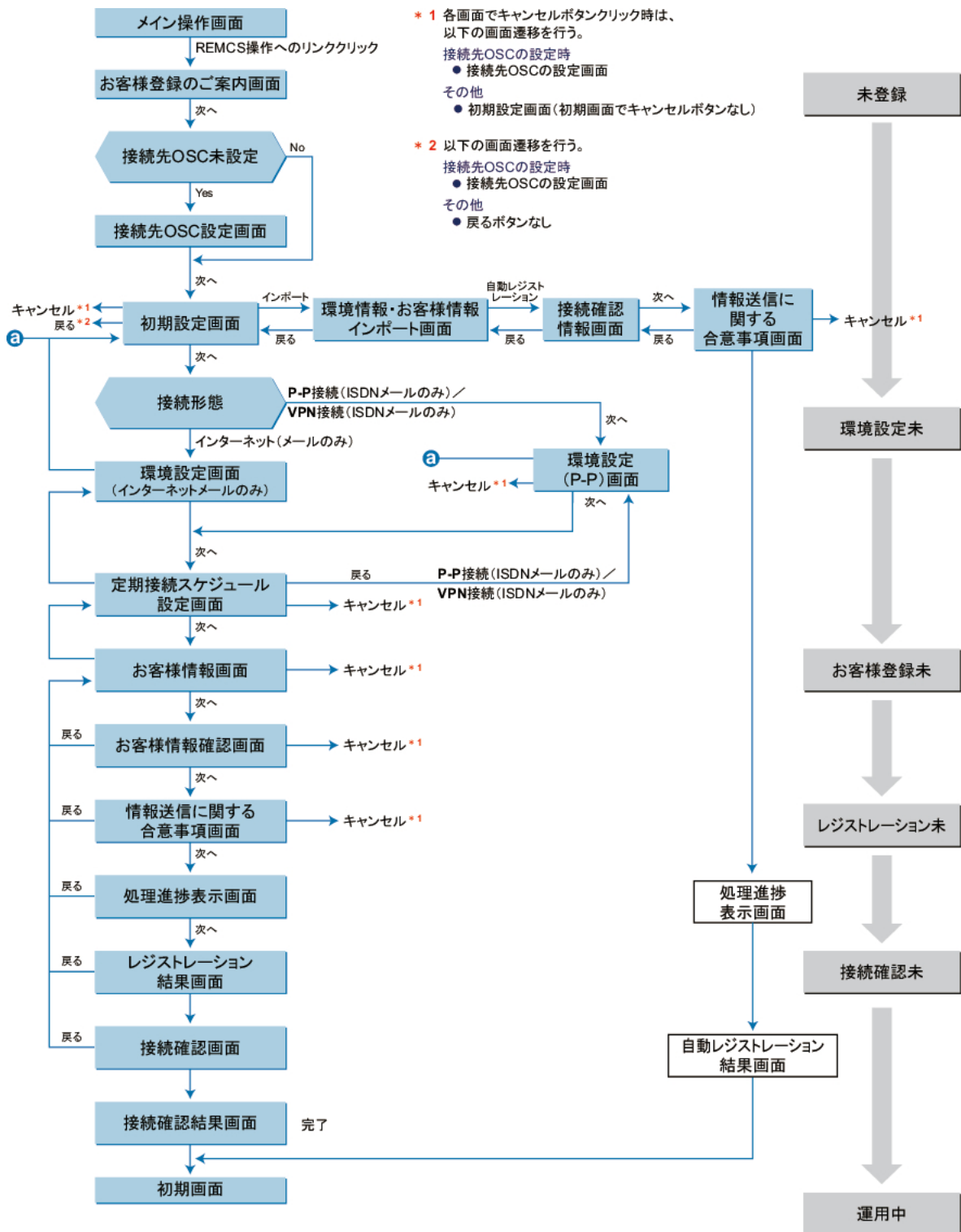
ここでは、REMCS サービスを開始する手順を説明します。

### 3.1 開始手順の概要

REMCS サービスを開始するためには、OSC への登録（レジストレーション）が必要です。レジストレーションとは、お客様の情報を OSC に登録することです。ただし、製品の設置時に担当保守員がお客様の情報を直接聞いて登録を済ませている場合は、レジストレーションを省略できます。

初期設定時の画面遷移を「[図 3.1 OSC への登録の流れ](#)」に示します。

図 3.1 OSC への登録の流れ



レジストレーションを行うときは、以下の情報を準備してください。

- 保証書（型名、チェックコード、製造番号が記載されているもの）  
 REMCS の画面下部に表示される装置 ID が一致しているか確認するために使用します。表示形式例：装置 ID 00-シリーズ名-型名-チェックコード-製造番号
- 使用するメールサーバの IP アドレスまたは FQDN  
 FQDN は、ユーザーポートを使用したインターネット接続の場合だけ指定できます。FQDN を指定する場合は、MMB の Web UI の [Network Configuration] - [Network Interface] で DNS サーバが設定されていることを確認

してください。

- 送信元メールアドレス（社外発信資格が必要）
- メールサーバのメール分割送信の可否

使用するメールサーバで分割送信ができるかどうかを確認してください。また、REMCS 用ポートを使用して OSC と接続する場合は、先に、MMB Web-UI の[Network] - [Network Interface] で Maintenance Port を設定する必要があります。あらかじめ、割り当てる IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス、宛先の SMTP サーバアドレスを準備して設定してください。

また、以下の CLI から REMCS 用ポートの IP アドレスを設定できます。

設定コマンド：REMCS 用ポートを設定

```
set maintenance_ip <ip address> <netmask> <gateway address> <SMTP address>
```

#### 注意

REMCS 接続を P-P で行う場合、<gateway address>および<SMTP address>の設定は不要です。この場合 <gateway address>および<SMTP address>には 0.0.0.0 を指定します。

表示コマンド：REMCS 用ポートの設定内容を表示する

```
show maintenance_ip
```

各コマンドの詳細について詳しくは『PRIMEQUEST 2000 シリーズ運用管理ツールリファレンス』（CA92344-0529）の「第2章 MMB の CLI（コマンドラインインターフェース）操作」を参照してください。

#### 注意

保守操作中にはレジストレーションを行わないでください。

## 3.2 OSC へのレジストレーション

OSC への登録を行うレジストレーション手順について説明します。

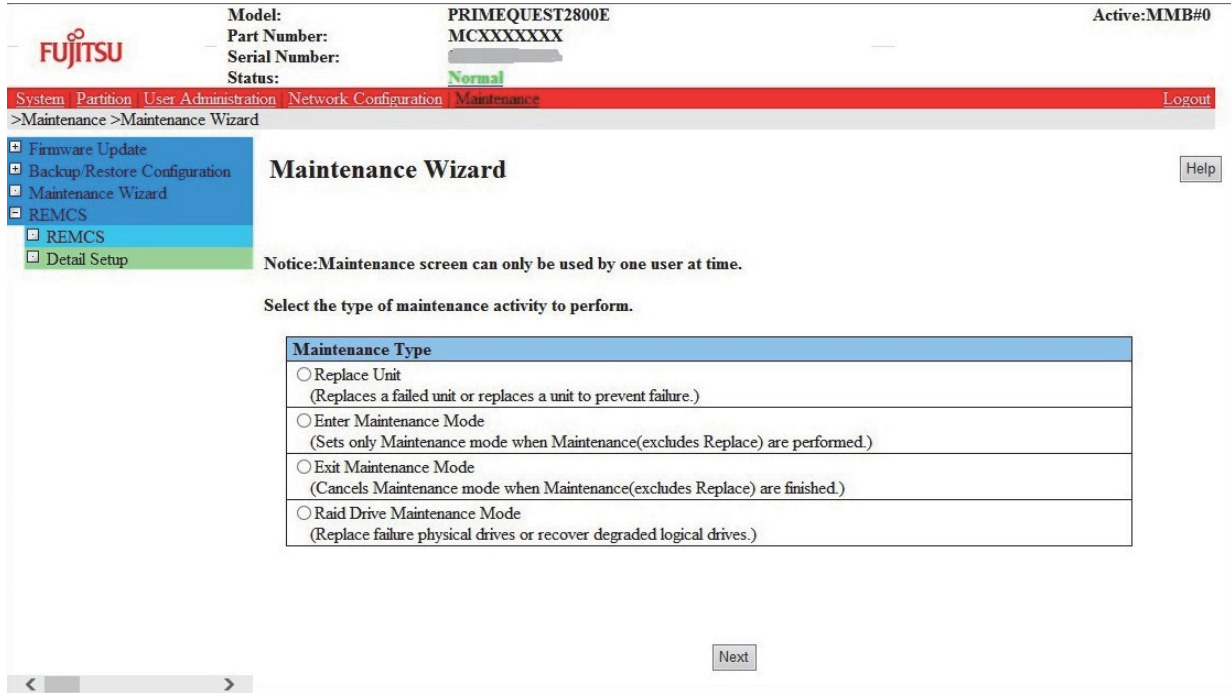
レジストレーションは、以下の手順で行います。

- [3.2.1 言語の設定](#)
- [3.2.2 REMCS の起動](#)
- [3.2.3 接続形態設定](#)
- [3.2.4 環境設定](#)
- [3.2.5 定期接続スケジュール設定](#)
- [3.2.6 お客様情報設定](#)
- [3.2.7 レジストレーション結果確認](#)
- [3.2.8 接続確認](#)

### 3.2.1 言語の設定

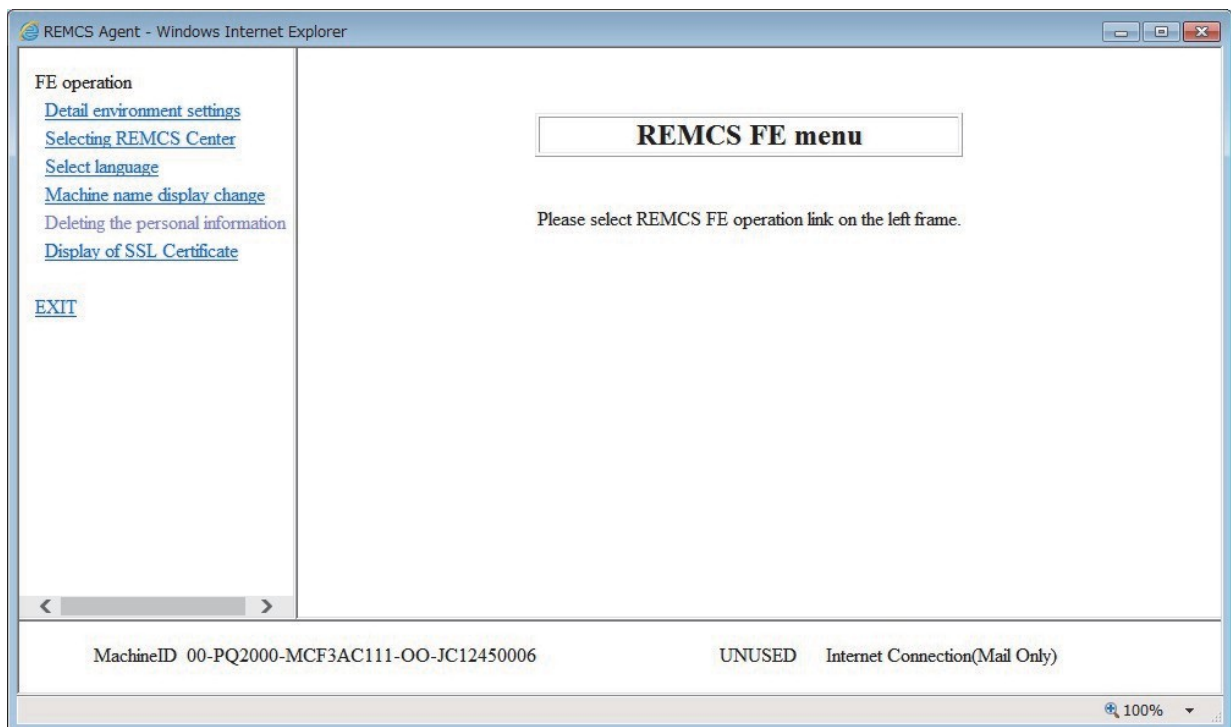
REMCS の初回起動時は、言語が英語になっているため、言語を日本語に設定します。  
MMB Web-UI の [Maintenance] - [REMCS] - [Detail Setup] メニューを選択します。

図 3.2 REMCS Detaile Setup 画面



REMCS FE menu が表示されるので、「Select language」を選択します。

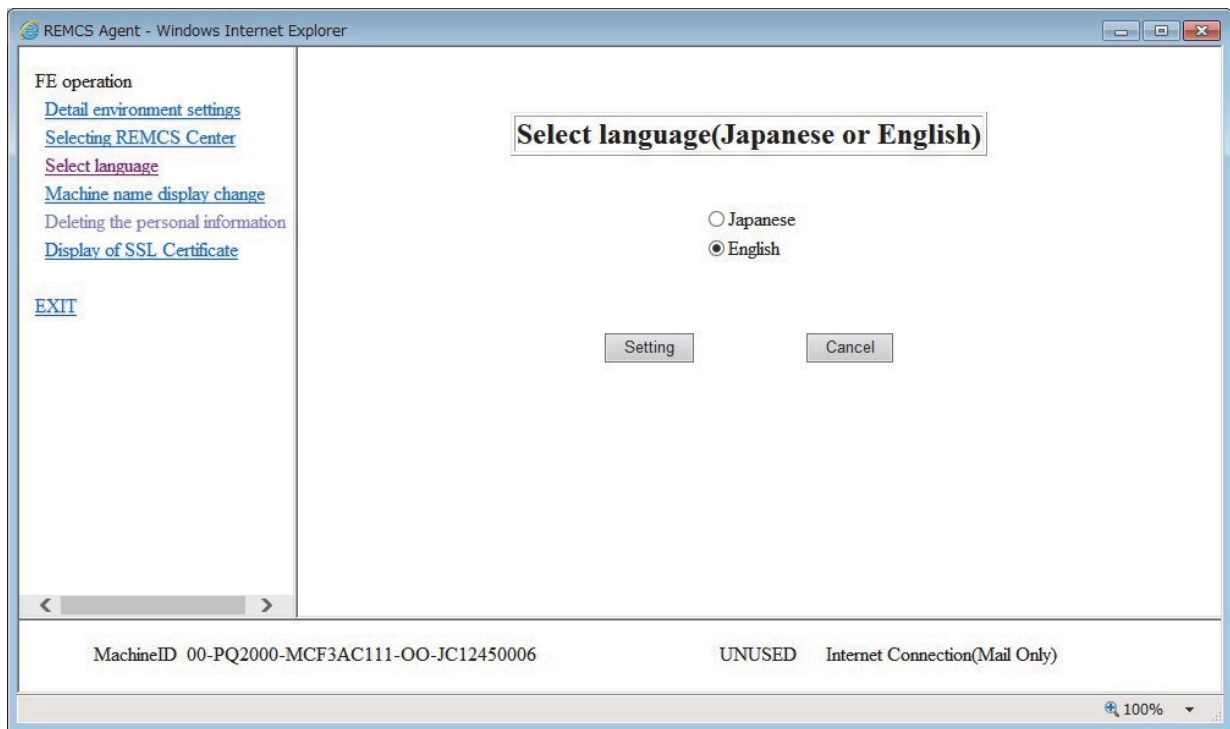
図 3.3 REMCS FE menu 画面





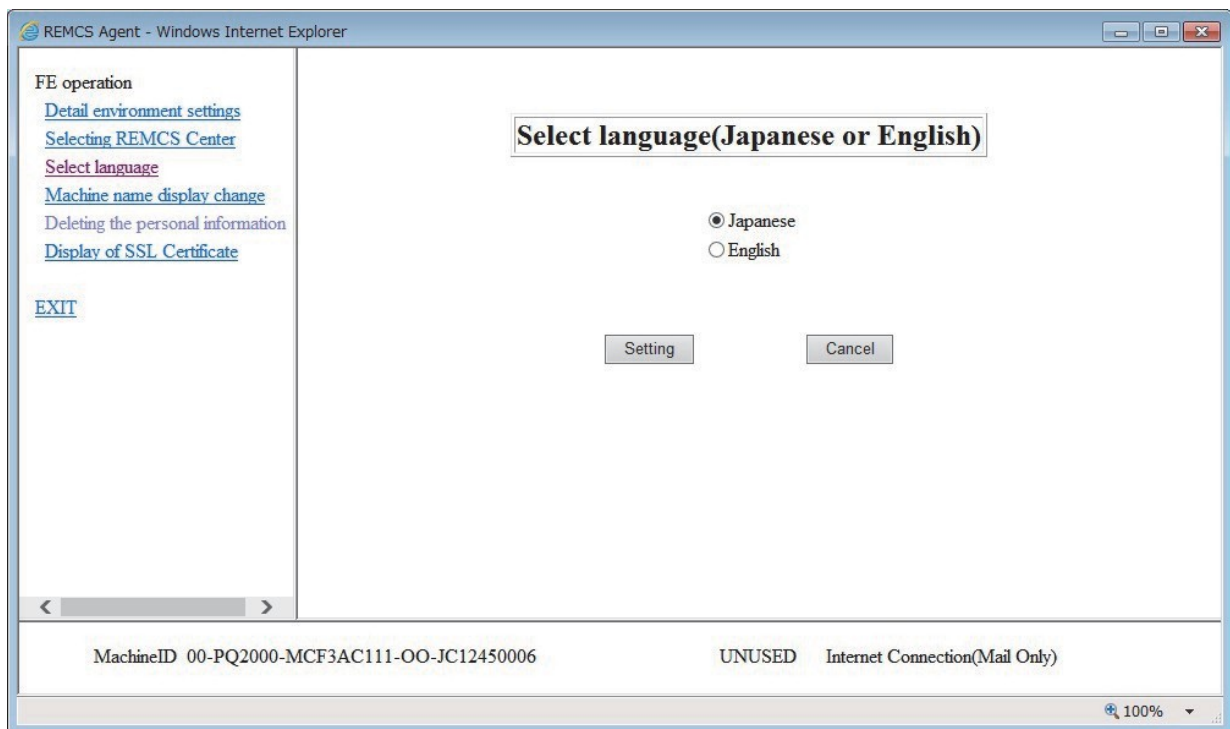
Select language 画面が表示されます。

図 3.4 Select language 画面 (1/2)



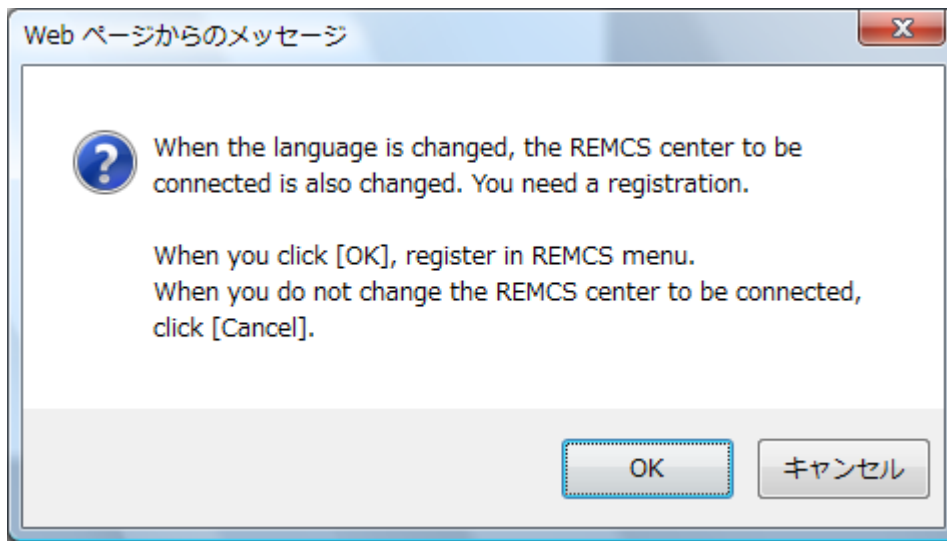
言語の初期値が「English」となっているので「Japanese」に変更し、「Setting」ボタンをクリックします。

図 3.5 Select language 画面(2/2)



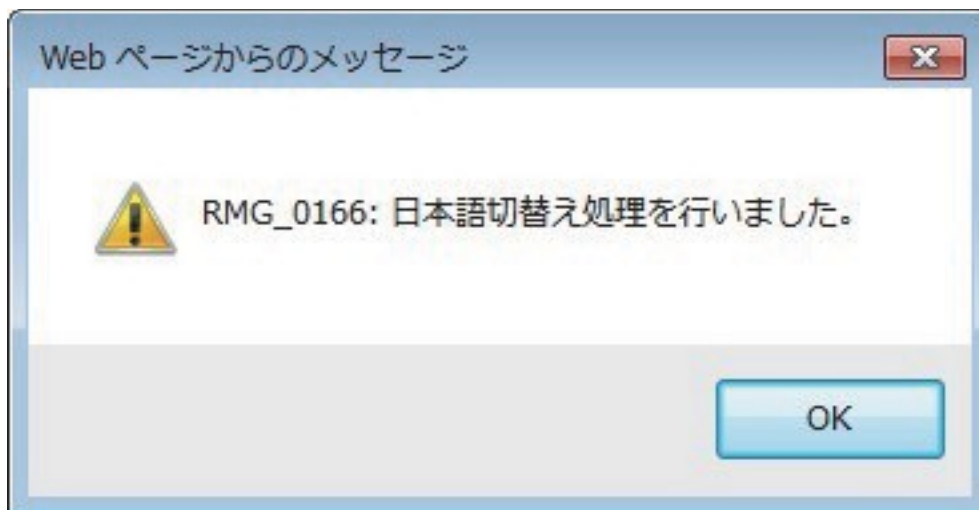
確認のメッセージが表示されるので「OK」をクリックします。

図 3.6 Select language 確認メッセージ (1/2)



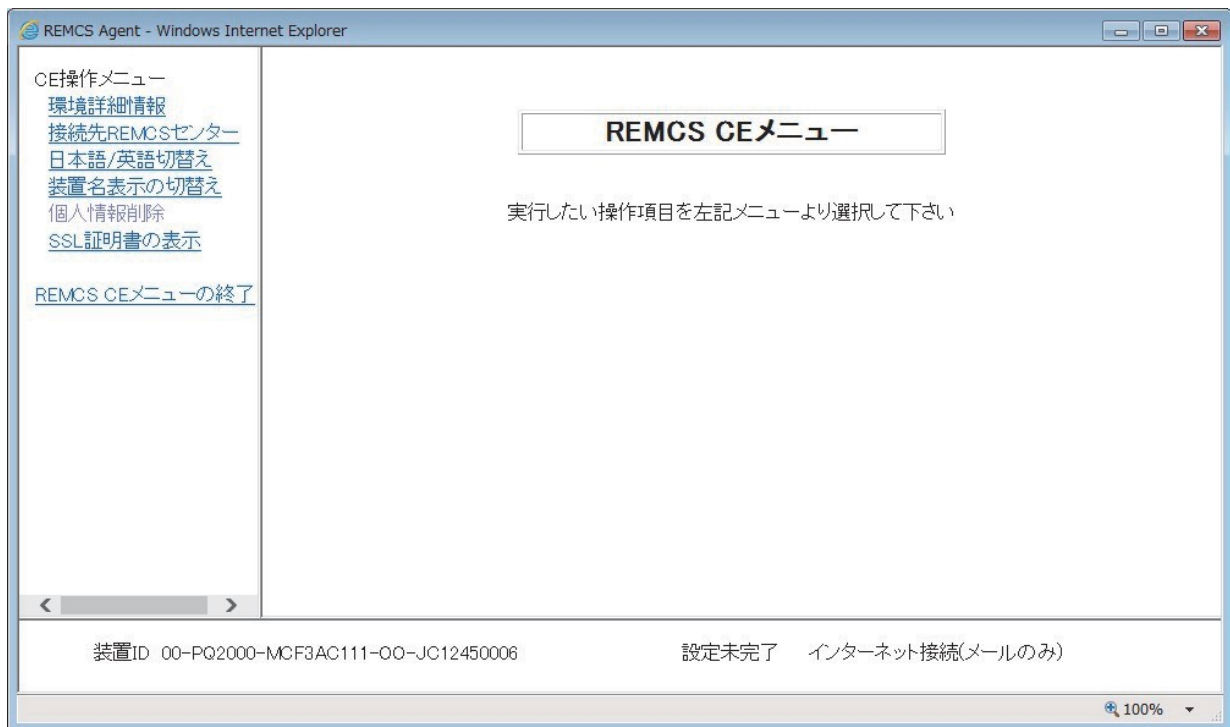
日本語への切り替えが完了したメッセージが表示されるので「OK」をクリックします。

図 3.7 Select language 確認メッセージ (2/2)



言語が日本語に切り替わり、「REMCS CE メニュー」が表示されるので、「REMCS CE メニューの終了」を選択し、メニューを抜けます。

図 3.8 REMCS CE メニュー画面



確認のメッセージが表示されるので「OK」をクリックします。

図 3.9 REMCS CE メニュー終了確認メッセージ



## 3.2.2 REMCS の起動

REMCS を起動するには、MMB Web-UI の[Maintenance] - [REMCS] - [REMCS] メニューを選択します。レジストレーションが未実施の場合は、「[図 3.10 \[お客様登録のご案内\] 画面](#)」が表示されます。すでにレジストレーションを実施している場合は、「[図 3.10 \[お客様登録のご案内\] 画面](#)」は表示されず

「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」が表示されます。手順について詳しくは「[第 4 章 REMCS サービス操作手順](#)」を参照してください。

図 3.10 [お客様登録のご案内] 画面



1. [次へ] ボタンをクリックします。  
接続先センター選択画面が表示されます。

### 3.2.3 接続形態設定

「[図 3.11 \[接続先センター情報の設定\] 画面](#)」で、接続先センターを選択します。設置国により接続先センターが異なります。通常、日本国内の場合は[OSC] が初期値で表示されるので、この画面では確認だけ行います。すでに確認が終わっている場合、この画面は表示されません。

図 3.11 [接続先センター情報の設定] 画面

接続形態設定 → 環境設定 → お客様情報設定 → レジストレーション → 接続確認

REMCSメニューの終了

接続先センター情報の設定

接続先センター名: OSC

次へ

装置ID

1. [次へ] ボタンをクリックします。  
接続先センターが登録されて、環境設定するための[初期設定] 画面が表示されます。

## 3.2.4 環境設定

「[図 3.12 \[初期設定\] 画面](#)」で環境を設定します。「[2.2 OSC との接続形態](#)」でお客様が選択した接続形態を指定します。ほかの装置および以前に設定したときにバックアップした設定情報（SMTP サーバアドレスや発信元 E-Mail アドレスなどの環境情報、お客様名や管理者 E-Mail アドレスなどのお客様情報）を読み込んで、環境を設定することもできます。なお REMCS サービス設定後も、「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」のメニューから[初期設定] をクリックすれば、接続形態を変更できます。

図 3.12 [初期設定] 画面



### ■ 環境情報を新規に設定する

環境情報を新規に設定する場合の手順を、以下に示します。

1. 接続形態を下記から選択します。
  - インターネット接続（メールのみ）：初期値
  - P-P 接続（ISDN：メールのみ）：ISDN による接続
  - P-P 接続（VPN：メールのみ）：VPN による接続
2. [次へ] ボタンをクリックします。  
接続形態の登録が終わり、それぞれの設定画面が表示されます。

ほかの装置に下記の設定情報が存在する場合、および以前に下記の設定情報をバックアップしている場合、設定情報を読み込み、レジストレーションを自動的に設定できます。

- お客様情報：rm\_bkcus.def
- 環境情報：rm\_bkenv.def

環境情報がすでに存在する場合の手順は「[3.3 レジストレーション情報のインポート](#)」を参照してください。

### ■ 接続形態が[インターネット接続（メールのみ）] の場合

「[図 3.12 \[初期設定\] 画面](#)」で「インターネット接続（メールのみ）」を選択した場合は、「[図 3.13 \[インターネット（メールのみ）接続の環境設定\] 画面](#)」が表示されます。インターネットを利用してメールを送信するための情報を設定します。なお、REMCS サービス設定後も、「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面（REMCS 初期）](#)」のメニューから「[接続情報](#)」をクリックして、接続情報を変更できます。

図 3.13 [インターネット（メールのみ）接続の環境設定] 画面

1. 以下の項目を入力します。

表 3.1 [インターネット（メールのみ）接続の環境設定] 画面の入力項目

項目	説明
SMTP サーバ	SMTP サーバ名または IP アドレスを半角英数記号で入力する。
SMTP ポート番号	SMTP サーバのポート番号を半角数字で入力する。 初期値：25（Well Known Port を使用） 範囲：1～65535
発信元 E-Mail	発信元メールアドレスを半角英数記号で入力する。
認証タイプ	認証タイプを「認証なし」、[POP Before STMP]、[AUTH STMP] から選択する。
AUTH SMTP 認証機構	認証タイプ [AUTH SMTP] を設定した場合に有効。[AUTO（初期値）]、[CRAM-MD5]、[PLAIN]、[LOGIN] から選択する。
ユーザーID	認証サーバのユーザーID を半角英数記号で入力する。
パスワード	認証サーバのパスワードを半角英数記号で入力する。
POP サーバ	認証タイプ [POP Before STMP] を設定した場合に POP サーバ名または IP アドレスを半角英数記号で入力する。

項目	説明
POP ポート番号	POP3 認証サーバのポート番号を半角数字で入力する。 初期値：110 (Well Known Port を使用) 範囲：1～65535
分割方式	分割方式を [分割なし]、[メール分割]、[イベント分割] から選択する。新規導入時の初期値は[イベント分割]。ファームアップ時の初期値はファームアップ前の設定。
分割サイズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>- メール分割 分割するサイズを (10～100 KB) の範囲で入力する。初期値は 64 KB。</li> <li>- イベント分割 分割するサイズを (64～512KB) の範囲で入力する。初期値は 512KB。</li> </ul>
IP バージョン優先順位	IP バージョンの優先を「なし」、「IPv4 (初期値)」、「IPv6」から選択する。

2. [次へ] ボタンをクリックします。

接続形態の登録が終わり、「[図 3.15 \[定期接続スケジュール設定\] 画面](#)」が表示されます。

### ■ 接続形態が[P-P 接続 (ISDN：メールのみ)] または[P-P 接続 (VPN：メールのみ)] の場合

「[図 3.12 \[初期設定\] 画面](#)」で[P-P 接続 (ISDN：メールのみ)] または[P-P 接続 (VPN：メールのみ)] を選択した場合は、「[図 3.14 \[P-P 接続の環境設定\] 画面](#)」が表示されます。なお、REMCS サービス設定後も、「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」のメニューから[接続情報] をクリックして、接続情報を変更できます。

図 3.14 [P-P 接続の環境設定] 画面



1. 以下の項目を入力します。



表 3.2 [P-P 接続の環境設定] 画面の入力項目

項目	説明
SMTP/PROXY サーバ	SMTP/PROXY サーバまたは IP アドレスを半角英数記号で入力する。
発信元 E-Mail	発信元メールアドレスを半角英数記号で入力する。
分割方式	分割方式を [分割なし]、[メール分割]、[イベント分割] から選択する。新規導入時の初期値は[イベント分割]。ファームアップ時の初期値はファームアップ前の設定。
分割サイズ	<ul style="list-style-type: none"><li>- メール分割 分割するサイズを（10～100 KB）の範囲で入力する。初期値は 64 KB。</li><li>- イベント分割 分割するサイズを（64～512KB）の範囲で入力する。初期値は 512KB。</li></ul>

## 2. [次へ] ボタンをクリックします。

接続形態の登録が終わり、「[図 3.15 \[定期接続スケジュール設定\] 画面](#)」が表示されます。「[3.2.5 定期接続スケジュール設定](#)」に進みます。

### 3.2.5 定期接続スケジュール設定

「[図 3.15 \[定期接続スケジュール設定\] 画面](#)」で、定期接続スケジュールを設定します。なお、REMCS サービス開始後も、「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」のメニューから[定期接続情報]をクリックして、定期接続スケジュールを変更できます。

図 3.15 [定期接続スケジュール設定] 画面

1. 以下の項目を設定します。

表 3.3 [定期接続スケジュール設定] 画面の入力項目

項目	説明
定期接続周期	[毎日]、[毎日 (日曜以外)]、[毎日 (土日以外)]、[週一回毎週] から指定する。 初期値は、[週一回毎週]。
接続曜日	周期で週一回毎週を指定した場合、曜日 (日曜日～土曜日) を指定する。 初期値は、月～金の中から無作為に設定される。
運用時間	運用時間を指定します。 初期値は、10:00～15:00 です。

2. [次へ]ボタンをクリックします。

定期接続スケジュールの登録が終わり、お客様情報画面が表示されます。「[3.2.6 お客様情報設定](#)」に進みます。

### 3.2.6 お客様情報設定

「[図 3.16 \[お客様情報の入力\] 画面](#)」で、お客様の情報を入力します。なお、REMCS サービス開始後も、「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」のメニューから[お客様情報の更新]をクリックして、お客様情報を変更できます。

図 3.16 [お客様情報の入力] 画面

入力項目の入力可能文字は以下のとおりです。

- E-Mail アドレスは@マークを含み、@マークが先頭または最後に存在しないこと。また、@マークの直後の文字がドットではないこと。
- E-Mail アドレスに ( ) < > ; : [ ] \ の記号が使用されていないこと。

入力項目と入力可能文字コードを以下に示します。

表 3.4 [お客様情報の入力] 画面の入力可能文字コード

入力項目	入力可能文字コード
法人名	JIS X 0208 1 区 1 点～8 区 94 点、16 区 1 点～84 区 94 点
法人名 (カナ)	JIS X 0208 1 区、3 区、5 区の 1 点～94 点
部署名	JIS X 0208 1 区 1 点～8 区 94 点、16 区 1 点～84 区 94 点
ご住所	JIS X 0208 1 区 1 点～8 区 94 点、16 区 1 点～84 区 94 点
ビル名	JIS X 0208 1 区 1 点～8 区 94 点、16 区 1 点～84 区 94 点

入力項目	入力可能文字コード
管理者のお名前	JIS X 0208 1 区 1 点～8 区 94 点、16 区 1 点～84 区 94 点
管理者のお名前 (カナ)	JIS X 0208 1 区、3 区、5 区の 1 点～94 点
E-Mail アドレス	半角英数記号 (半角空白は除く)
郵便番号	半角数値と「-」
電話番号	半角数値記号 (半角空白は除く)
FAX 番号	半角数値記号 (半角空白は除く)
装置ユニーク名	半角英数記号 (半角空白は除く)
国名	半角英大文字または 99
設置場所	JIS X 0208 1 区 1 点～8 区 94 点、16 区 1 点～84 区 94 点
設置場所のビル名称	JIS X 0208 1 区 1 点～8 区 94 点、16 区 1 点～84 区 94 点
実施者 E-Mail	半角英数記号 (半角空白は除く)

お客様情報の入力項目とその内容を、以下に示します。

表 3.5 [お客様情報の入力] 画面の入力項目

入力項目	最大桁数	入力	個人情報 (*1)	説明
法人名	30	必須	非該当	法人名を全角文字で入力する。
法人名 (カナ)	40	必須	非該当	法人名を全角カタカナで入力する。
部署名	20	任意	非該当	お客様の部署名を全角文字で入力する。
ご住所	30	必須	非該当	お客様の住所を全角文字で入力する。
設置場所のビル名称	20	任意	非該当	お客様のビル名を全角文字で入力する。
管理者のお名前	20	必須	該当	お客様のサーバ管理者名を全角文字で入力する。
管理者のお名前 (カナ)	20	必須	該当	お客様のサーバ管理者名を全角カタカナで入力する。
管理者 E-Mail	60	必須	該当	お客様のサーバ管理者 E-Mail アドレスを半角英数記号で入力する。この E-Mail アドレス宛てに、登録通知、障害発生通知などのメールが送られる。
郵便番号	(*2)	任意	非該当	お客様の会社所在地郵便番号を半角数字と「-」で入力する。
電話番号	20	必須	該当	お客様の電話番号を半角数字記号と「-」で入力する。
FAX 番号	20	任意	該当	お客様の FAX 番号を半角数字記号と「-」で入力する。
装置ユニーク名	32	任意	非該当	お客様固有の名称を半角英数記号で入力する。
国名	2	必須	非該当	設置国を英文字で入力する (日本国内設置の場合は「JP」: 英小文字で入力時は大文字変換を行う)。ISO-3166 コード表 A (2) の国名 (2 文字) を指定し、未設定の国は 99 を指定する。
設置場所	30	任意	非該当	設置場所を全角文字で入力する (「ご住所」と同じ場合は、入力不要)。
設置場所のビル名称	20	任意	非該当	ビル名称を全角文字で入力する (「ご住所」と同じ場合は、入力不要)。
実施者 E-Mail	60	任意	該当	実施者 (担当保守員) の E-Mail アドレスを入力する。この E-Mail アドレス宛てにも接続確認完了のメールが送られる。

個人情報削除	チェックボックス	任意	非該当	個人情報削除の有無を設定する。オンにした場合は、個人情報列が「該当」となっている項目の入力値をレジストレーション後、MMB の顧客設定情報として保持しない。 オン：削除する オフ：削除しない（初期値）
--------	----------	----	-----	--

\*1: 個人情報対象項目。CE 操作の「[図 5.7 \[個人情報削除\] 画面](#)」から個人情報を削除した場合、MMB の顧客設定情報から削除される。

\*2: 郵便番号の桁数は、PRIMEQUEST 2000 シリーズを設置する国に対応した桁数になる。

1. お客様情報を入力します。
2. [次へ] ボタンをクリックします。

お客様情報の登録が終わり、「[図 3.17 \[入力情報の確認\] 画面](#)」が表示されます。

図 3.17 [入力情報の確認] 画面

3. [次へ] ボタンをクリックします。

お客様情報の登録が終わり、「[図 3.18 \[情報送信に関する合意事項\] 画面](#)」が表示されます。また、設定情報リストア画面で[自動設定] ボタンをクリックし、自動設定を行った場合にも表示されます。

図 3.18 [情報送信に関する合意事項] 画面



4. 合意事項を確認し、[合意する] ボタンをクリックします。  
お客様情報の登録が終わり、「[図 3.19 \[レジストレーション結果\] 画面](#)」が表示されます。

## 3.2.7 レジストレーション結果確認

レジストレーションが終了すると、「[図 3.19 \[レジストレーション結果\] 画面](#)」の実行結果が表示されます。

図 3.19 [レジストレーション結果] 画面



1. [次へ] ボタンをクリックし、「[3.2.8 接続確認](#)」に進みます。

## 3.2.8 接続確認

「[図 3.20 \[接続確認\] 画面](#)」が表示されるので、接続確認結果の送信先に関する設定を確認します。

図 3.20 [接続確認] 画面

- お客様管理者への結果通知の可否を設定します。個人情報を削除していない場合、お客様管理者の E-Mail アドレスにはお客様情報で入力された管理者 E-Mail アドレスが表示されます。
- 実施者への結果通知  
実施者への結果通知の可否を設定します。[通知する]を選択した場合は、[結果通知先 E-mail アドレス]に実施者のメールアドレスを設定します。

2. [接続確認] ボタンをクリックすると、接続確認処理を行い「[図 3.21 \[接続確認結果\] 画面](#)」が表示されます。



図 3.21 [接続確認結果] 画面



3. [完了] ボタンをクリックします。  
接続確認が終了し、「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」が表示されます。

## 3.3 レジストレーション情報のインポート

「[図 3.22 \[環境情報・お客様情報のインポート\] 画面](#)」は、「[図 3.12 \[初期設定\] 画面](#)」で[ローカルファイルからのインポート]をクリックした場合に表示されます。指定された設定情報ファイル（環境情報ファイル、お客様情報ファイル）のインポートおよび自動設定を行います。設定情報ファイルは、バックアップした設定情報ファイル、またはほかの装置で設定しバックアップしたファイルが使用できます。

図 3.22 [環境情報・お客様情報のインポート] 画面

□接続形態設定 → □環境設定 → □お客様情報設定 → □レジストレーション → □接続確認

REMCSメニューの終了

**環境情報・お客様情報のインポート**

環境情報ファイル名

お客様情報ファイル名

※【環境情報ファイル名】はフルパスで入力してください。  
※【お客様情報ファイル名】はフルパスで入力してください。

装置ID  設定未完了

設定情報ファイルをインポートして手動で登録する場合の手順は以下です。

- Web ブラウザを起動している PC やファイルサーバなどに、バックアップしている以下のファイルを指定します。
  - 環境情報ファイル：rm\_bkenv.def
  - お客様情報ファイル：rm\_bkcus.def
- [インポート] ボタンをクリックして設定情報ファイルをインポートします。  
インポート完了後、「[図 3.12 \[初期設定\] 画面](#)」が表示されます。その後の設定に関しては、「[3.2.4 環境設定](#)」から「[3.2.8 接続確認](#)」を参照してください。

設定情報ファイルから自動でレジストレーションを行う場合の手順は以下です。

- Web ブラウザを起動している PC やファイルサーバなどに、バックアップしている以下のファイルを指定します。
  - 環境情報ファイル：rm\_bkenv.def
  - お客様情報ファイル：rm\_bkcus.def
- [自動レジストレーション] ボタンをクリックします。  
「[図 3.23 \[個人情報削除指定確認\] 画面](#)」が表示され、操作後に「[図 3.24 \[接続確認情報\] 画面](#)」が表示されます。

接続結果の送信先に関する設定を確認してください。

なお、「[図 3.23 \[個人情報削除指定確認\] 画面](#)」で[削除する] ボタンをクリックすると、自動レジストレーション終了後に個人情報が削除されます。

図 3.23 [個人情報削除指定確認] 画面

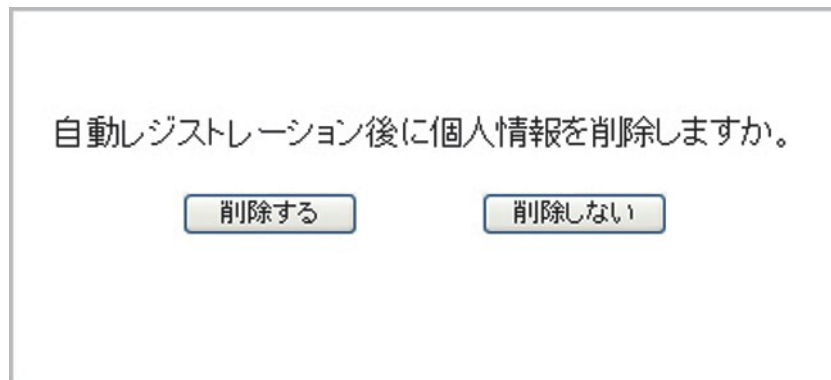


図 3.24 [接続確認情報] 画面



- お客様管理者への結果通知  
お客様管理者への結果通知の可否を設定します。お客様管理者の E-Mail アドレスにはインポートしたお客様情報に入力されていた管理者 E-Mail アドレスが表示されます。
- 実施者への結果通知  
実施者への結果通知の可否を設定します。[通知する] を選択した場合は、[結果通知先 E-mail アドレス] に実施者のメールアドレスを設定します。

3. [次へ] ボタンをクリックし、レジストレーションを自動設定します。  
「[図 3.25 \[情報送信に関する合意事項\] \(自動設定\) 画面](#)」が表示されます。

図 3.25 [情報送信に関する合意事項] (自動設定) 画面

The screenshot shows a web interface for the registration process. At the top, there is a breadcrumb trail: 「接続形態設定」 → 「環境設定」 → 「お客様情報設定」 → 「レジストレーション」 → 「接続確認」。 To the right of this trail is a link labeled 「REMCSメニューの終了」. The main content area is titled 「情報送信に関する合意事項」. Below the title, there is a text box containing the following text: 「下記の方針にご賛同いただける場合、「合意する」ボタンを押下してください。登録内容をサポートセンターへ送信します。」 followed by two paragraphs of terms and conditions. At the bottom of the text box are three buttons: 「戻る」, 「合意する」, and 「キャンセル」. At the very bottom of the screen, there is a field labeled 「装置ID」 followed by two greyed-out input boxes.

4. 合意事項を確認し、[合意する] ボタンをクリックします。  
お客様情報の登録が終わり、「[図 3.26 \[自動レジストレーション結果\] 画面](#)」が表示されます。

図 3.26 [自動レジストレーション結果] 画面



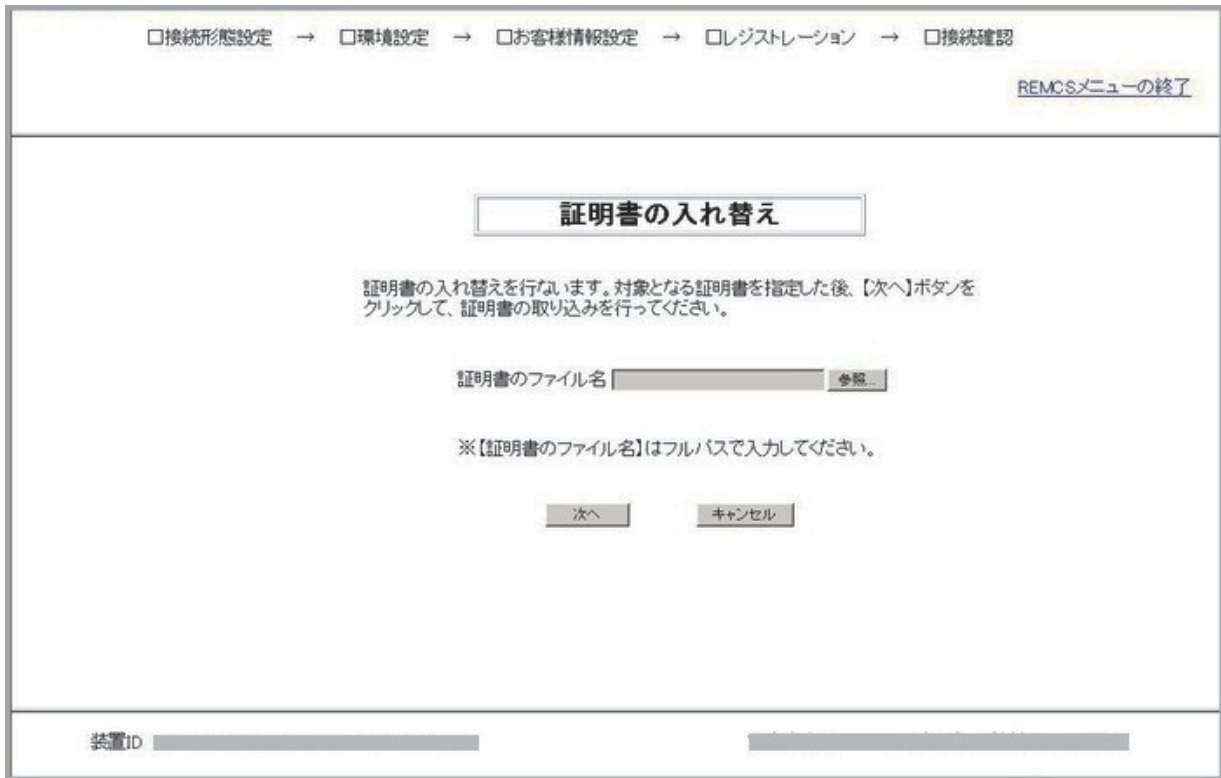
5. [完了] ボタンをクリックします。  
レジストレーションが終了し、「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」が表示されます。

## 3.4 初期設定時の S/MIME 証明書の入替え

ここでは、証明書の入替え方法を説明します。

1. 「[図 3.12 \[初期設定\] 画面](#)」で[証明書の入れ替え]をクリックすると、「[図 3.27 \[証明書の入れ替え\] 画面 \(初期設定時\)](#)」が表示されます。

図 3.27 [証明書の入れ替え] 画面（初期設定時）



2. 証明書ファイルを指定し、[次へ] ボタンをクリックします。  
「[図 3.28 \[証明書の確認\] 画面（初期設定時）](#)」が表示されます。

図 3.28 [証明書の確認] 画面（初期設定時）



3. [次へ] をクリックすると、以下の確認メッセージが出力されます。  
[証明書の入れ替えを行います。証明書の入れ替えを行うと、接続確認が完了するまで REMCS センターへの通報は行われません。よろしいですか。]
4. [OK] ボタンをクリックすると、「[図 3.12 \[初期設定\] 画面](#)」へ戻ります。



## 3.5 REMCS 設定のインポート、自動レジストレーション における注意事項

PRIMEQUEST2000 で SMTP サーバとの SMTP over SSL 接続をサポートした事に伴い、REMCS 設定情報のインポート、自動レジストレーション処理に以下の注意事項があります。

- 1) 顧客情報設定ツール(以降、REMCS ESAT)を使用して REMCS 設定情報を作成する場合、REMCS ESAT は最新の版数を使用してください。
- 2) PRIMEQUEST1000 (SMTP over SSL 未対応※)でインポート、自動レジストレーションを実施する場合には、「暗号化接続の種類」の設定が「なし」の環境情報ファイルを使用してください。具体的には、以下の環境情報ファイルが使用可能です。
  - PRIMEQUEST1000 (SMTP over SSL 未対応)からエクスポートした環境情報ファイル
  - PRIMEQUEST2000 (SMTP over SSL 対応)で「暗号化接続の種類」設定が「なし」である装置からエクスポートした環境情報ファイル
  - REMCS ESAT V03L02 以上を使用し、「暗号化接続の種類」に「なし」を設定して作成した環境情報ファイル

※ SMTP over SSL 未対応：SMTP over SSL 機能は実装されているが、「暗号化接続の種類」を「なし」として持ち、GUI による「暗号化接続の種類」の変更手段を持たないことで、SMTP over SSL 機能を抑止する装置。
- 3) PRIMEQUEST2000 (SMTP over SSL 対応)で、「暗号化接続の種類」の設定が「なし」以外(SMTP over SSL 接続を使用中) から、「暗号化接続の種類」の設定が「なし」へ変更する場合には、自動レジストレーションは使用できません。インポートを使用してください。  
インポートを実施後、環境設定画面にて「暗号化接続の種類」を「なし」に変更し、手動でレジストレーションを実施してください。

暗号化接続の設定とインポート、自動レジストレーションの実施可否の詳細は、次表のとおりです。

表 3.6 暗号化接続の設定とインポート・自動レジストレーション実施可否一覧

REMCS 設定情報ファイル				インポート・自動レジストレーション実施前の装置の状態		
				PQ1000	PQ2000	
				暗号化接続未対応	暗号化接続「なし」 (=default)	暗号化接続「STARTTLS」、 または、 「SSL/TLS」
別装置から REMCS 設定をエ クスポート	PQ1000	接続形態 不問	暗号化接続 未対応	○	○	【ケース 2】 △※2
		P-P (X-ルのみ)	暗号化接続 「なし」	○	○	【ケース 3】 △※3
	PQ2000	インターネット (X-ルのみ)	暗号化接続 「なし」	○	○	
			暗号化接続 「START TLS」、 または、 「SSL/ TLS」	【ケース 1】 ×※1	○	○
REMCS ESAT を使用	ESAT V03L01 以下 ※4	P-P(X-ルのみ)	暗号化接続 未対応	(○)	(○)	(○)
		インターネット (X-ルのみ)	暗号化接続 未対応	(○)	(○)	×※5
	ESAT V03L02 以上	P-P (X-ルのみ)	暗号化接続 「なし」 (固定)	○	○	○
			暗号化接続 「なし」	○	○	○
		インターネット (X-ルのみ)	暗号化接続 「START TLS」、ま たは、 「SSL/ TLS」	【ケース 1】 ×※1	○	○

○：可能、△：特別な手順が必要、×：禁止

※1

PRIMEQUEST1000 (SMTP over SSL 未対応)へは、「暗号化接続の種類」に「STARTTLS」または「SSL/TLS」が設定された環境情報をインポートしないでください。当該環境情報をインポートすると、「暗号化接続の種類」の設定が「STARTTLS」または「SSL/TLS」として装置に取り込まれます。PRIMEQUEST1000 (SMTP over SSL 未対応)では、「暗号化接続の種類」の設定を REMCS-GUI で確認する事ができません。復旧 (PRIMEQUEST1000 で、「暗号化接続の種類」の設定「STARTTLS」または「SSL/TLS」を解除)するには、以下の手順を実施してください。REMCS ESAT V03L02 以上を使用し、環境情報ファイルの「暗号化接続の種類」の設定を「なし」に更新します。その後、更新した環境情報を、再度、装置へインポートします。

※2

PRIMEQUEST1000 (SMTP over SSL 未対応)からエクスポートした環境情報ファイルでは、インポート先の「暗号化接続の種類」の設定「STARTTLS」または「SSL/TLS」を「なし」へ変更する事ができません。自動レジストレーションは使用できません。インポートを実施し、環境設定画面にて「暗号化接続の種類」の設定「STARTTLS」または「SSL/TLS」を「なし」に変更してから、レジストレーションを実施してください。

※3

PRIMEQUEST2000 (SMTP over SSL 対応)からエクスポートした環境情報ファイルで、インポート先の「暗号化接続の種類」の設定「STARTTLS」または「SSL/TLS」を「なし」へ変更できない場合があります。自動レジストレーション

は使用できません。インポートを実施し、環境設定画面にて、「暗号化接続の種類」の設定を確認してください。「暗号化接続の種類」が「STARTTLS」または「SSL/TLS」に設定されている場合には、「なし」に変更してからレジストレーションを実施してください。

※4

REMCS ESAT は最新版をご使用ください。

※5

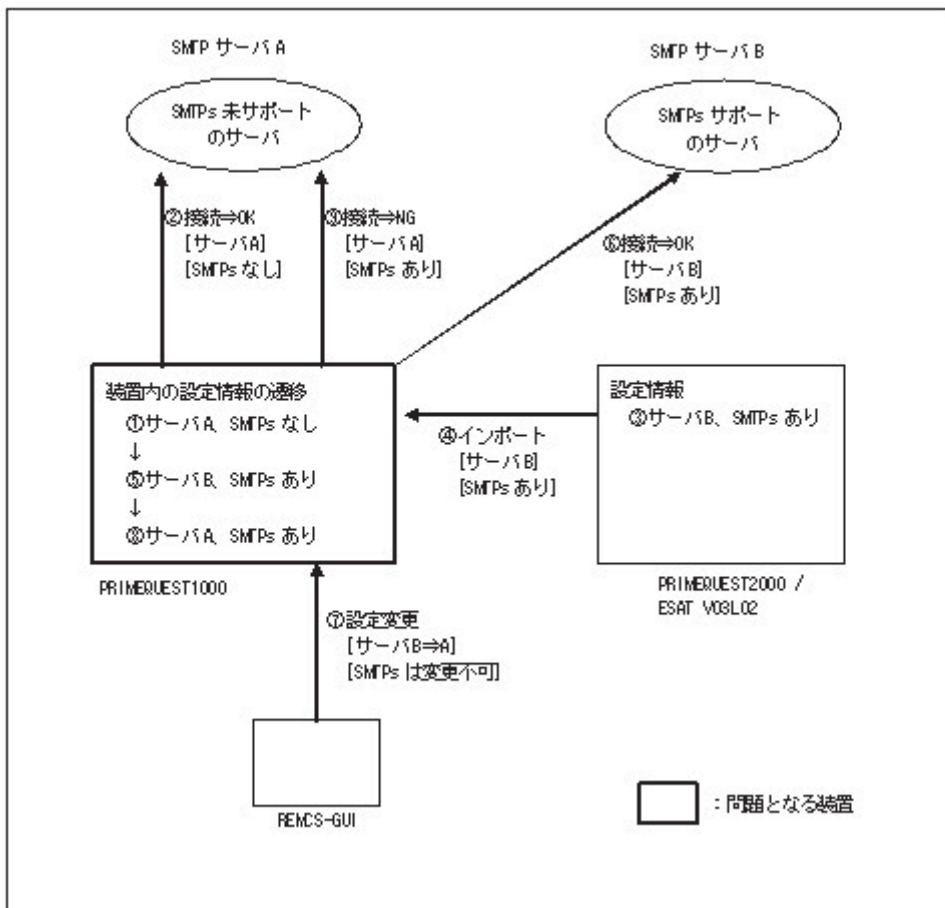
REMCS ESAT V03L01 未満で作成した環境情報では、インポート先の「暗号化接続の種類」の設定「STARTTLS」または「SSL/TLS」を「なし」へ変更できません。REMCS ESAT は最新版をご使用ください。

ケース 1~3 の不具合発生のシーケンスを以下のコラボレーション図で説明します。

図中の用語定義

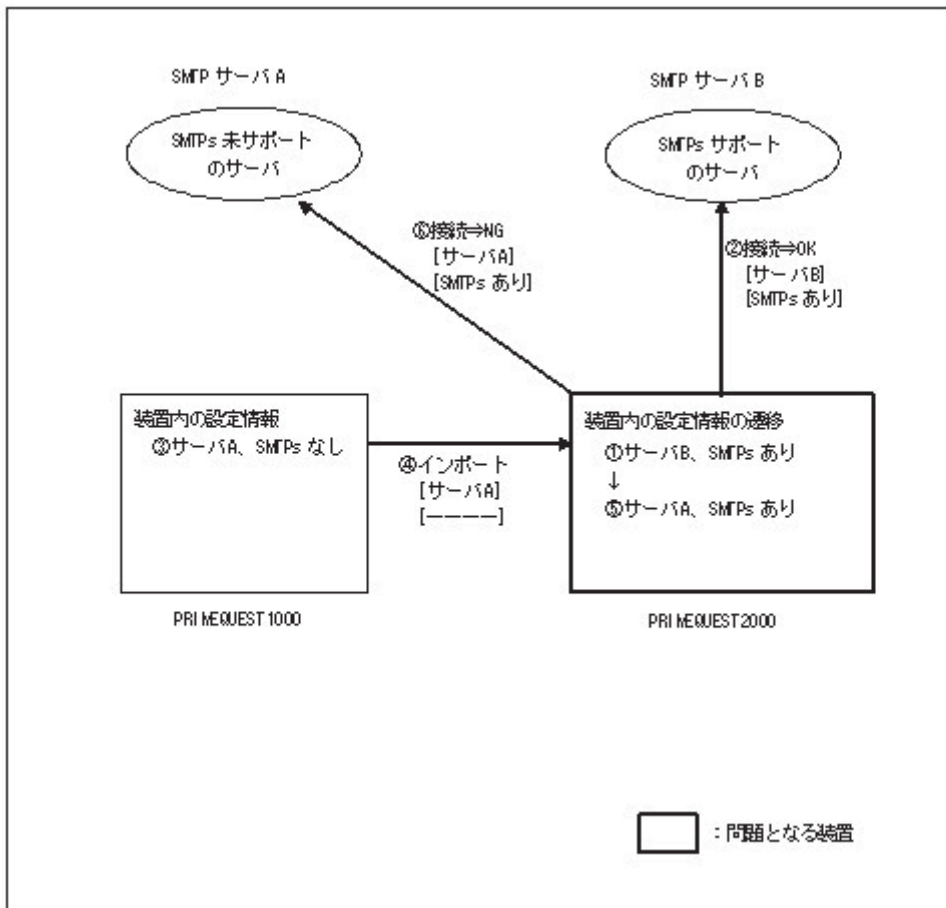
- SMTPs なし：「暗号化接続の種類」が「なし」の意。
- SMTPs あり：「暗号化接続の種類」が「STARTTLS」または「SSL/TLS」の意。

【ケース 1】



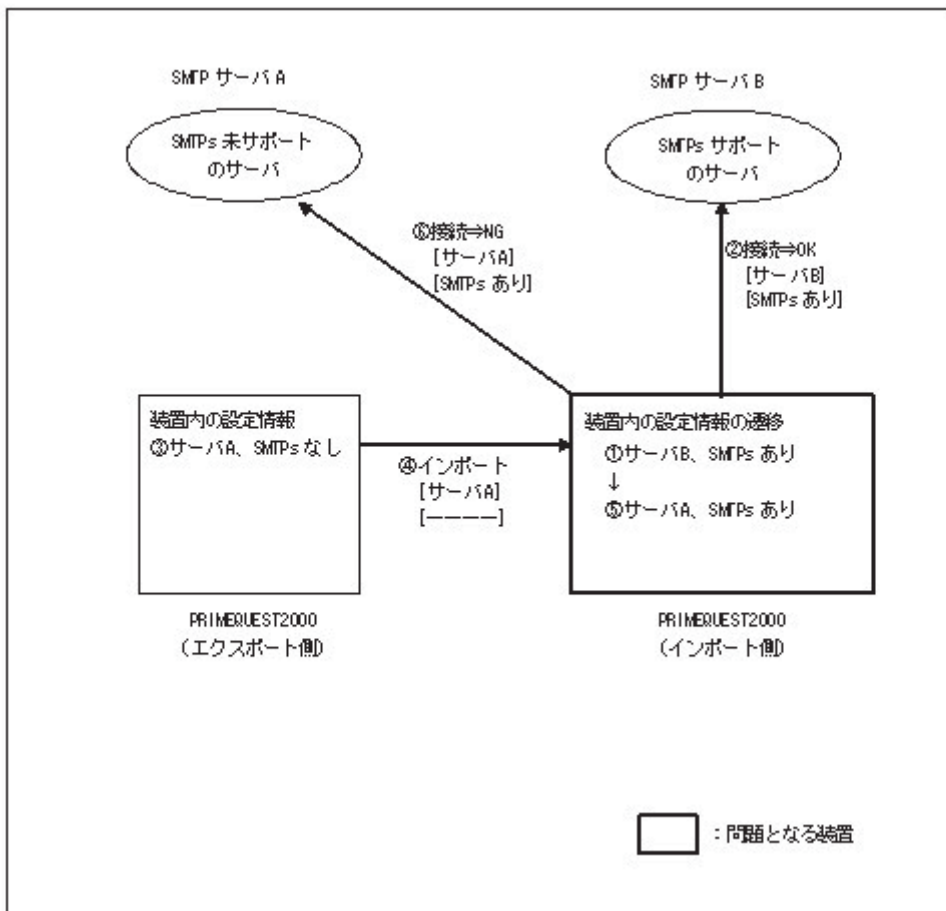
PRIMEQUEST1000 が、① の設定値(SMTP サーバ A、SMTPs なし)で、SMTP over SSL 接続が未サポートの SMTP サーバ A へ②の接続ができている環境において、③ の設定値(SMTP サーバ B、SMTPs あり)を、④でインポートすると、⑤ の「SMTPs あり」の設定を取り込んでしまいます。(=不具合の原因)  
 ⑥ その結果、PRIMEQUEST1000 では本来接続できないはずの SMTP サーバ B に接続できてしまいます。  
 その後、⑦で REMCS-GUI より SMTP サーバの設定を B⇒A へ戻した場合、⑧ の装置の設定値に「SMTPs あり」が残り、⑨ のように、以前接続できていた SMTP サーバ A に接続できなくなります。

【ケース2】



PRIMEQUEST2000 が、① の設定値(SMTP サーバ B、SMTPs あり)で、SMTP over SSL 接続サポートの SMTP サーバ A へ②の接続ができていた環境において、③ の設定値(SMTP サーバ A、SMTPs なし)を、④でインポートすると、③ の「SMTPs なし」は設定情報として出力されないため、⑤ のように「SMTPs あり」が変更されません。(=不具合の原因) その結果、PRIMEQUEST1000 が接続できていた SMTP サーバ A に対して、⑥ のように、PRIMEQUEST2000 では接続できなくなります。

【ケース3】



PRIMEQUEST2000(インポート側)が、①の設定値(SMTP サーバ B、SMTPs あり)で、SMTP over SSL 接続サポートの SMTP サーバ B へ②の接続ができている環境において、③の設定値(SMTP サーバ A、SMTPs なし)を、④でインポートすると、③の「SMTPs なし」は設定情報として出力されない場合がある(\*)ため、⑤のように「SMTPs あり」が変更されません。(=不具合の原因) その結果、PRIMEQUEST2000(エクスポート側)が接続できていた SMTP サーバ A に対して、⑥のように、PRIMEQUEST2000(インポート側)では接続できなくなります。

\*運用開始時より、一度も「SMTPs あり」の設定に変更していない場合。

## 第4章 REMCS サービス操作手順

ここでは、REMCS サービスの操作手順を説明します。

### 4.1 REMCS 操作の手順概要

OSC へのレジストレーションが完了した場合、OSC への接続確認が完了した後で、MMB Web-UI から REMCS を起動した場合に「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」が表示されます。OSC へのレジストレーションを途中で中止した場合は、「[図 3.10 \[お客様登録のご案内\] 画面](#)」が表示されます。

実行する機能を「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」の左のメニューから選択します。

「[表 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\) の項目](#)」に、REMCS 初期画面のメニュー項目を示します。

図 4.1 [REMCS メニュー] 画面 (REMCS 初期)



表 4.1 [REMCS メニュー] 画面 (REMCS 初期) の項目

項目	説明
再レジストレーション	レジストレーションを更新する。
お客様情報の更新	お客様情報の確認または変更を行う。詳しくは「4.2.1 お客様情報の更新」を参照。
接続情報	接続情報を表示または変更する。
定期接続情報	定期接続スケジュールを設定または変更する。
設定情報エクスポート	設定情報をエクスポートする。
接続形態の変更	接続形態を設定または変更する。
証明書の表示	S/MIME 形式の送信に使用する証明書を表示する。
証明書の入れ替え	S/MIME 形式の送信に使用する証明書を入れ替える。
前証明書への復元	S/MIME 証明書を以前使用していた証明書に入れ替える。証明書の入れ替えを行っていない場合、本項目は選択できない。
接続確認	OSC との接続を確認する。
センター接続一時停止	保守などのときに OSC との接続を一時停止する。
センター接続再開	一時停止していたセンター接続を再開する。
ハード構成情報送信	ハードウェア構成情報を送信する。
ソフト構成情報送信	ソフトウェア構成情報を送信する。
REMCS メニューの終了	REMCS 操作を終了し、表示しているブラウザのウィンドウを閉じる。

## 4.2 REMCS サービスメニュー

ここでは、REMCS サービスメニューを説明します。

### 4.2.1 お客様情報の更新

レジストレーション時に入力したお客様情報を確認したり、管理者や住所などのお客様情報を変更したりする場合に使用します。

お客様情報の表示と確認の手順を以下に説明します。

- 「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」のメニューから[お客様情報の更新] をクリックします。  
[お客様情報] 画面が表示されます。
- 情報の確認だけの場合は[キャンセル] ボタンをクリックし、情報を更新する場合は、内容を更新した後[次へ] ボタンをクリックします。  
[お客様情報確認] 画面が表示されます。
- 内容を確認し、誤りがない場合は[次へ] ボタンをクリックします。  
「[図 3.18 \[情報送信に関する合意事項\] 画面](#)」が表示されます。誤りがあり、修正する場合は[戻る] ボタンをクリックして[お客様情報確認] 画面に戻って修正します。
- E-Mail 送信が可能な環境かどうかを確認し、[合意する] ボタンをクリックします。  
入力した情報が OSC に自動送付され、メールへの転送が完了すると、[レジストレーション結果] 画面が表示されます。
- [次へ] ボタンをクリックすると「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」に戻ります。

### 4.2.2 再レジストレーション

レジストレーション完了後に CE 等の指示で再度レジストレーションを実施する場合に使用します。

再レジストレーションの手順を以下に説明します。

1. 「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」のメニューから[再レジストレーション]をクリックします。  
「[図 3.18 \[情報送信に関する合意事項\] 画面](#)」が表示されます。
2. E-Mail 送信が可能な環境かどうかを確認し、[合意する] ボタンをクリックします。  
入力した情報が OSC に自動送付され、メールへの転送が完了すると、[レジストレーション結果] 画面が表示されま  
す。
3. [完了] ボタンをクリックすると「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」に戻ります。

### 4.2.3 接続情報

現在使用している接続情報の表示またはメールサーバなどの設定情報を変更する場合に使用します。接続情報の表示と確認の手順を以下に示します。

1. 「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」のメニューから[接続情報] をクリックします。
  - [インターネット (メールのみ) 接続] の場合は「[図 4.2 \[インターネット\(メールのみ\)接続の環境設定\]画面](#)」が  
表示される。
  - [P-P 接続 (ISDN : メールのみ) ]または[P-P 接続 (VPN : メールのみ) ]の場合は、「[図 4.3 \[P-P 接続の環境設  
定\] 画面](#)」の場合の画面が表示される。画面操作について詳しくは「[第 3 章 REMCS サービス開始手順](#)」を参照。



図 4.2 [インターネット(メールのみ)接続の環境設定]画面

レジストレーション  
[再レジストレーション](#)  
[お客様情報の更新](#)

環境設定  
[接続情報](#)  
[定期接続情報](#)  
[設定情報エクスポート](#)  
[接続形態の変更](#)  
[証明書を表示](#)  
[証明書の入れ替え](#)  
[前証明書への復元](#)

接続  
[接続確認](#)  
[センター接続一時停止](#)  
[センター接続再開](#)

サポート情報  
[ハード構成情報送信](#)  
[ソフト構成情報送信](#)

[REMCSメニューの終了](#)

### インターネット(メールのみ)接続の環境設定

SMTPサーバ  SMTPポート番号

暗号化接続の種類

発信元E-Mail

認証タイプ

AUTH SMTP認証機構  (【認証タイプ】が【AUTH SMTP】の場合に有効)

ユーザーID  (【認証タイプ】が【認証なし】以外の場合に入力必須)

パスワード  (【認証タイプ】が【認証なし】以外の場合に入力必須)

POPサーバ  (【認証タイプ】が【POP Before SMTP】の場合に入力必須)

POPポート番号  (【認証タイプ】が【POP Before SMTP】の場合に入力必須)

分割方式

分割サイズ  kB (【分割方式】が【分割なし】以外の場合に入力必須)

IPバージョン優先順位

※【SMTPサーバ】と【POPサーバ】にIPv6リンクローカルアドレスを使用する場合、IPv6アドレスとネットワーク/Fを%で接続して設定してください。

装置ID 00-AAAAA-AAAA-AC-00001
運用中 インターネット接続(メールのみ)

図 4.3 [P-P 接続の環境設定] 画面

レジストレーション  
[再レジストレーション](#)  
[お客様情報の更新](#)

環境設定  
[接続情報](#)  
[定期接続情報](#)  
[設定情報エクスポート](#)  
[接続形態の変更](#)  
[証明書を表示](#)  
[証明書の入れ替え](#)  
[前証明書への復元](#)

接続  
[接続確認](#)  
[センター接続一時停止](#)  
[センター接続再開](#)

サポート情報  
[ハード構成情報送信](#)  
[ソフト構成情報送信](#)

[REMCSメニューの終了](#)

### P-P接続の環境設定

SMTP/PROXYサーバ

発信元E-Mail

分割方式

分割サイズ  kB (【分割方式】が【分割なし】以外の場合に入力必須)

※【SMTP/PROXYサーバ】にIPv6リンクローカルアドレスを使用する場合、IPv6アドレスとネットワーク/Fを%で接続して設定してください。

装置ID



2. 内容を確認して、修正や変更があった場合は[次へ] ボタンをクリックします。接続確認画面が表示されます。接続確認画面については、「[4.2.10 接続確認情報](#)」を参照してください。  
確認だけの場合は[キャンセル] ボタンをクリックして「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」に戻ります。

## 4.2.4 定期接続情報

定期接続スケジュールの表示または変更を行う場合に使用します。

1. 「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」のメニューから[定期接続情報] をクリックします。  
「[図 4.4 \[定期接続スケジュール設定\] 画面](#)」が表示されます。画面操作について詳しくは「[第 3 章 REMCS サービス開始手順](#)」を参照してください。

図 4.4 [定期接続スケジュール設定] 画面

2. 定期接続スケジュールを変更して、[次へ] ボタンをクリックすると、OSC へのエージェント情報変更通知が行われ、完了すると「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」に戻ります。  
情報の確認だけの場合は[キャンセル] ボタンをクリックします。「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」に戻ります。

## 4.2.5 設定情報エクスポート

お客様情報、環境設定情報をローカルファイルに保存する場合に使用します。エクスポートした設定情報は、ほかのサーバ上で REMCS サービスの開始処理を行うときに、OS を問わず利用できます。

1. 「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」のメニューから[設定情報エクスポート]をクリックします。  
「[図 4.5 \[環境情報・設定情報エクスポート\] 画面](#)」が表示されます。
2. [環境情報]、[お客様情報] をそれぞれクリックします。ファイル名および格納場所指定ダイアログボックスが表示されるので、下記を指定します。
  - お客様情報：rm\_bkcus.def
  - 環境情報：rm\_bkenv.def
3. [キャンセル] ボタンをクリックし、「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」に戻ります。

図 4.5 [環境情報・設定情報エクスポート] 画面



## 4.2.6 接続形態の変更

現在使用している接続形態から、別の接続形態に変更する場合に使用します。

1. 「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」のメニューから[接続形態の変更] をクリックします。  
[接続形態の変更] 画面（[「図 4.6 運用中の接続形態の変更画面」](#) 参照）が表示されます。
2. 接続形態を変更後、[次へ] ボタンをクリックします。それまで設定されていた情報が破棄され、装置状態が[設定未完了] となります。「[3.2.3 接続形態設定](#)」を参照して情報を再設定し、サービスの開始操作を行う必要があります。

図 4.6 運用中の接続形態の変更画面

レジストレーション  
再レジストレーション  
お客様情報の更新  
環境設定  
接続情報  
定期検診情報  
設定情報エクスポート  
接続形態の変更  
証明書を表示  
証明書の入れ替え  
前証明書への復元  
接続  
接続確認  
センター接続一時停止  
センター接続再開  
サポート情報  
ハード構成情報送信  
ソフト構成情報送信  
REMCSメニューの終了

接続形態の変更

ローカルファイルからのインポート

接続形態 インターネット接続(ロールのみ)

次へ キャンセル

装置ID

## 4.2.7 証明書の表示

証明書の内容を確認する場合に使用します。

1. 「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」のメニューから[証明書の表示] をクリックします。  
 場合に応じた画面が表示されます。
  - [図 4.7 \[証明書の表示\] 画面 \(証明書の入れ替えを行っていない場合\)](#)
  - [図 4.8 \[証明書の表示\] 画面 \(証明書の入れ替えを行っている場合-使用中\)](#)
  - [図 4.9 \[証明書の表示\] 画面 \(証明書の入れ替えを行っている場合-前証明書\)](#)
- 証明書の入れ替えを行っていない場合

図 4.7 [証明書の表示] 画面 (証明書の入れ替えを行っていない場合)



- 証明書の入れ替えを行っている場合の証明書表示（使用中の証明書）  
[使用中の証明書] を選択して、[表示] ボタンをクリックします。

図 4.8 [証明書の表示] 画面（証明書の入れ替えを行っている場合-使用中）



- 証明書の入れ替えを行っている場合の証明書表示（前証明書）  
[前証明書] を選択して、[表示] ボタンをクリックします。

図 4.9 [証明書の表示] 画面（証明書の入れ替えを行っている場合-前証明書）



2. 確認して終了する場合は[終了] ボタンをクリックします。[終了] ボタンをクリックすると「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」に戻ります。

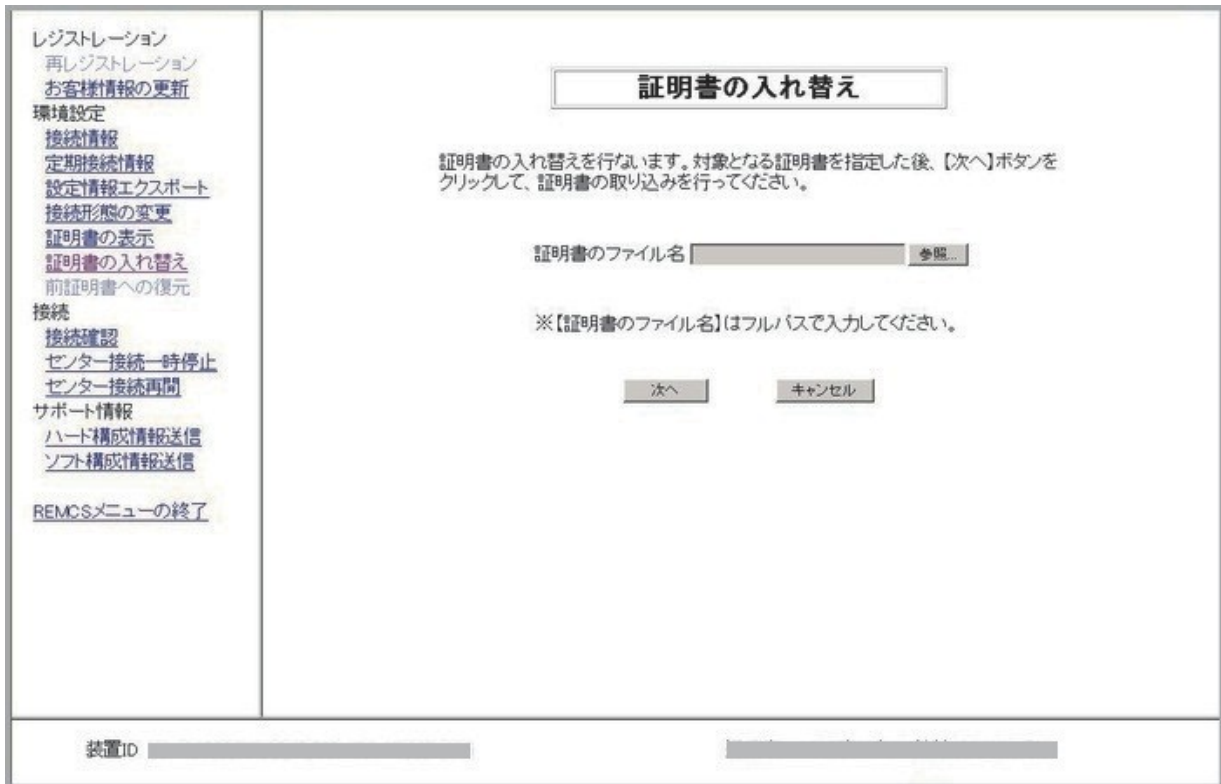
## 4.2.8 証明書の入れ替え

現在使用している証明書を、別の証明書に入れ替える場合に使用します。

1. 「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」のメニューから[証明書の入れ替え] をクリックします。  
「[図 4.10 \[証明書の入れ替え\] 画面](#)」が表示されます。

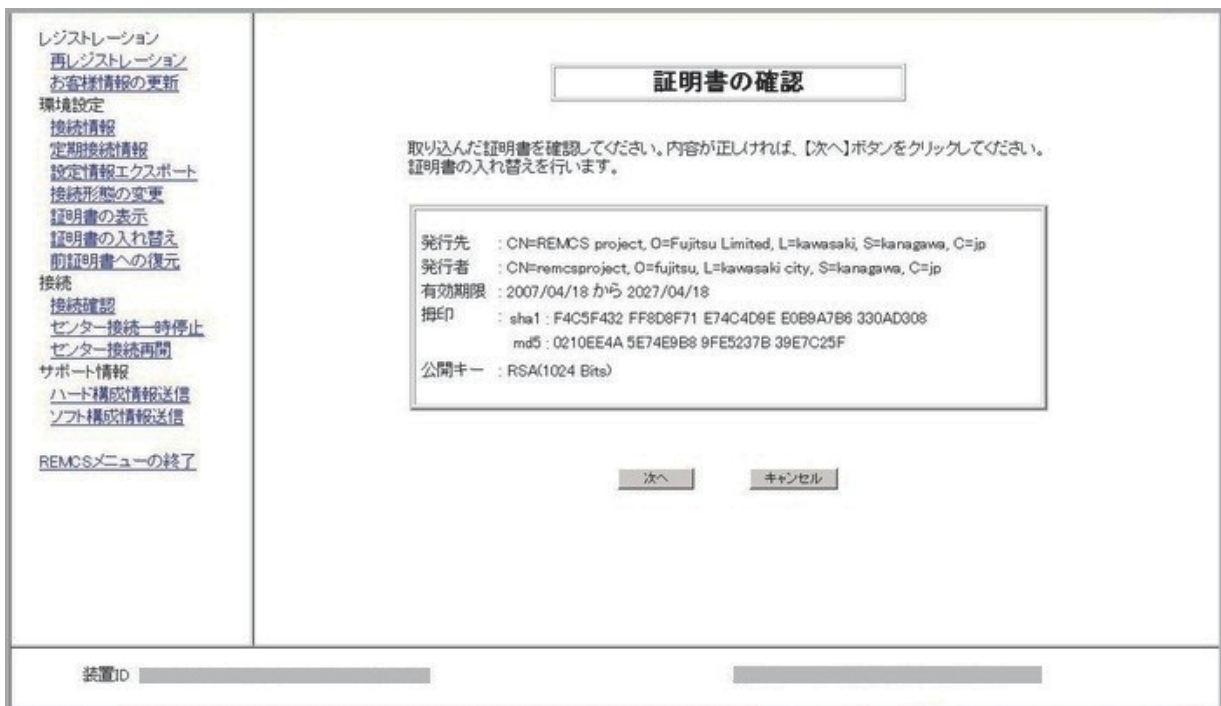


図 4.10 [証明書の入れ替え] 画面



2. 証明書ファイルを指定し、[次へ] ボタンをクリックします。

図 4.11 [証明書の確認] 画面



3. 表示内容を確認して、よければ[次へ] ボタンをクリックします。入れ替えをしない場合は[キャンセル] ボタンをクリックします。

4. 以下の確認メッセージが表示されます。

[証明書の入れ替えを行います。証明書の入れ替えを行うと、接続確認が完了するまで REMCS センターへの通報は行われません。よろしいですか。]

よければ[OK] ボタンをクリックします。

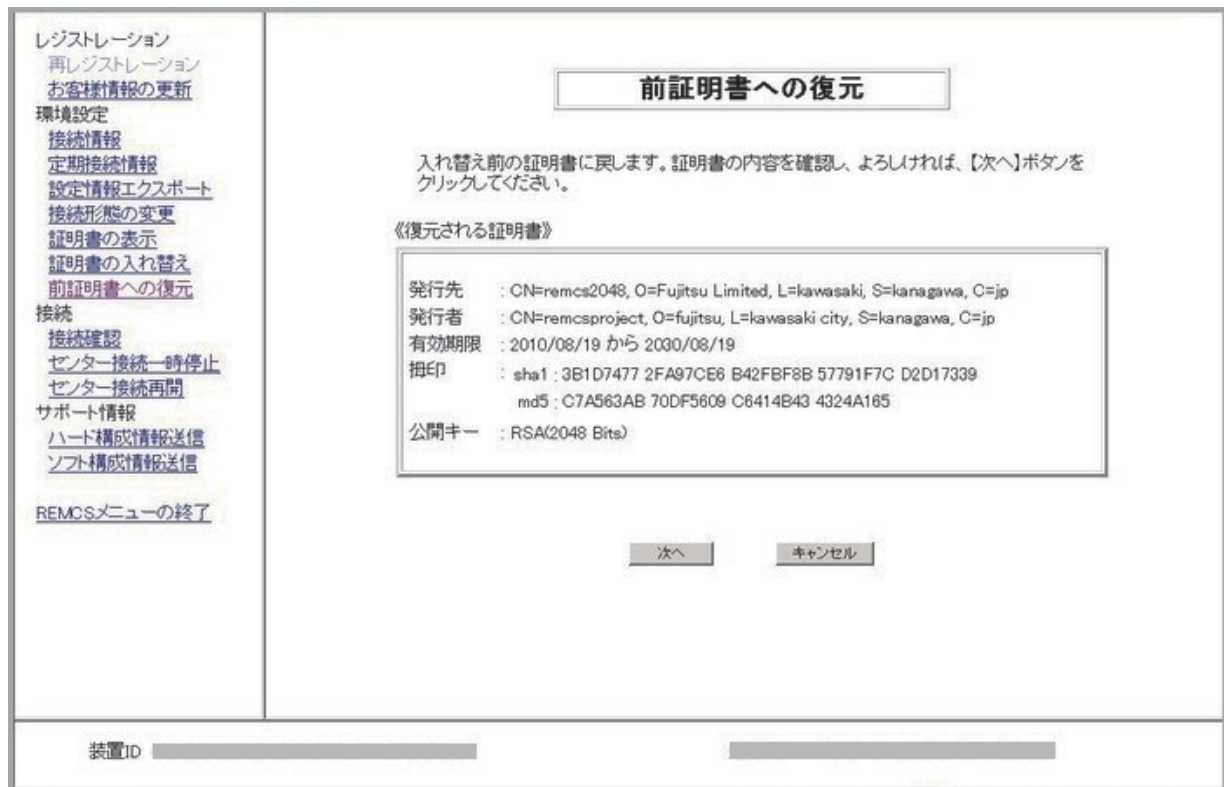
5. 装置の状態表示が[設定未完了] となり、[接続確認] 画面が表示されます。接続確認を行うと[運用中]になります。

## 4.2.9 前証明書への復元

入れ替えた証明書を、前証明書に戻す場合に使用します。

1. 「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」のメニューから[前証明書への復元] をクリックします。  
「[図 4.12 \[前証明書への復元\] 画面](#)」が表示されます。

図 4.12 [前証明書への復元] 画面



2. 《復元される証明書》の内容を確認して、[次へ] ボタンをクリックします。復元をしない場合は[キャンセル] ボタンをクリックします。
3. 以下の確認メッセージが表示されます。  
[証明書の入れ替えを行います。証明書の入れ替えを行うと、接続確認が完了するまで REMCS センターへの通報は行われません。よろしいですか。]  
よければ[OK] ボタンをクリックします。
4. 装置の状態表示が[設定未完了] となり、[接続確認] 画面が表示されます。接続確認を行うと[運用中]になります。

## 4.2.10 接続確認

OSC との接続を確認する場合に使用します。

1. 「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」のメニューから[接続確認] ボタンをクリックします。  
[接続確認] 画面（[図 4.13 \[接続確認\] 画面 \(個人情報削除なしの場合\)](#)）または「[図 4.14 \[接続確認\] 画面 \(個人情報削除ありの場合\)](#)」が表示されます。
2. 接続結果の送信先設定を確認し、[接続確認] ボタンをクリックします。

図 4.13 [接続確認] 画面 (個人情報削除なしの場合)

図 4.14 [接続確認] 画面（個人情報削除ありの場合）

レジストレーション  
再レジストレーション  
[お客様情報の更新](#)  
環境設定  
[接続情報](#)  
[定期接続情報](#)  
[設定情報エクスポート](#)  
[接続形態の変更](#)  
[証明書の表示](#)  
[証明書の入替え](#)  
[前証明書への復元](#)  
接続  
[接続確認](#)  
[センター接続一時停止](#)  
[センター接続再開](#)  
サポート情報  
[ハード構成情報送信](#)  
[ソフト構成情報送信](#)  
[REMCSメニューの終了](#)

### 接続確認

REMCSセンターとの接続を確認します。回線によっては、処理が完了するまでに時間がかかる場合があります。

・ お客様管理者への結果通知

通知する。                       通知しない。

お客様管理者E-mailアドレス

※アドレスを入力しないで「通知する」を選択した場合はセンター登録済みのお客様管理者E-Mailアドレスに結果が通知されます。

・ 実施者への結果通知(お客様管理者以外にも送信する場合に設定してください。)

通知する。(通常形式)                       通知する。(携帯電話向け簡易形式)

通知しない。

結果通知先E-mailアドレス

装置ID 00-TEST-TEST-LA-TEST                      運用中                      インターネット 接続(メールのみ)

- 「[図 4.15 \[接続確認結果\] 画面](#)」が表示されるので、[次へ] ボタンをクリックします。  
「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」に戻ります。

図 4.15 [接続確認結果] 画面



[接続確認] 画面で表示された結果通知先 E-Mail アドレス宛てに接続確認完了を通知するメールが届きます。

## 4.2.11 センター接続一時停止

OSC との接続を一時的に停止する場合に使用します。

- サーバが保守や休日などで停止して定期接続ができないときに、OSC との接続を停止させる。
- OSC との接続を停止している間は、OSC への通信を一切行わない。
- OSC との接続を停止した後、システムの運用を再開するときには、[センター接続再開] を行う必要がある。

1. 「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」のメニューから[センター接続一時停止] をクリックします。  
「[図 4.16 \[センター接続一時停止\] 画面](#)」が表示されます。
2. [送信] ボタンをクリックします。

確認ダイアログボックスが表示され、接続一時停止通知が OSC に送信されます。処理後、結果がポップアップで通知され、「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」が表示されます。

図 4.16 [センター接続一時停止] 画面



## 4.2.12 センター接続再開

一時停止していた OSC との接続を再開する場合に使用します。サーバの運用状態が「接続停止中」だった場合は「運用中」になります。

1. 「保守中・接続停止中」だった場合は「保守中」になります。  
「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」のメニューから[センター接続再開] をクリックし、「[図 4.17 \[センター接続再開\] 画面](#)」を表示します。
2. [送信] ボタンをクリックします。  
送信確認ダイアログボックスを表示し、接続再開通知を OSC に送信します。処理後、結果がポップアップで通知され、「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」が表示されます。

図 4.17 [センター接続再開] 画面



## 4.2.13 ハード構成情報送信

サーバのハードウェアの構成情報を OSC に送信する場合に使用します。

「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」のメニューから[ハード構成情報送信]をクリックし、「[図 4.18 \[ハード構成情報送信\] 画面](#)」を表示します。

1. [送信] ボタンをクリックします。

送信確認ダイアログボックスを表示し、ハード構成情報を OSC に送信します。処理後、結果がポップアップで通知され、「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」が表示されます。

図 4.18 [ハード構成情報送信] 画面





## 4.2.14 ソフト構成情報送信

サーバのソフトウェアの構成情報を OSC に送信する場合に使用します。

「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」のメニューから[ソフト構成情報送信] をクリックし、「[図 4.19 \[ソフト構成情報送信\] 画面](#)」を表示します。

1. [送信] ボタンをクリックします。

送信確認ダイアログボックスを表示し、ソフト構成情報を OSC に送信します。処理後、結果がポップアップで表示され、「[図 4.1 \[REMCS メニュー\] 画面 \(REMCS 初期\)](#)」が表示されます。

図 4.19 [ソフト構成情報送信] 画面



### 備考

パーティションのソフト構成情報が反映されるまで多少時間がかかる場合があります。このため、ソフトの入れ替え直後は、最新情報が表示されないことがあります。

## 第5章 REMCS の詳細設定について

ここでは、REMCS の詳細設定を説明します。

### 5.1 REMCS 詳細設定の概要

送信トラブルを回避するための送信リトライ回数やタイムアウト時間などの詳細な設定や、接続先センターを変更したり、表示する装置名を切り替えたりする場合に使用します。通常は使用する必要のない機能です。担当保守員またはサポートセンターからの指示があった場合に設定してください。

REMCS の詳細設定に使用する画面は、MMB Web-UI の[Maintenance] - [REMCS] - [Detail Setup] を選択して起動します。

「[図 5.1 CE 操作初期画面](#)」の初期画面が表示されます。

図 5.1 CE 操作初期画面



表 5.1 CE 操作初期画面の項目

項目	説明
環境詳細情報	インターネット使用時の通信のタイムアウト時間、リトライ回数などを変更する。
接続先 REMCS センター	接続先 OSC を変更する。
日本語/英語切替え	表示言語を日本または英語に切り替える。
装置名表示の切替え	Web-UI に表示する装置名称を装置 ID またはユニーク名のどちらかに設定する。
個人情報削除	お客様情報に含まれる個人情報を削除する。
SSL 証明書の表示	SMTPoverSSL で送信する場合（*1）に SMTP サーバより取得した SSL 証明書を表示する。SSL 証明書が存在しない場合は、以下のメッセージが出力される。「RMG_0229：SSL 証明書が存在しません。」 *1: [環境詳細設定] 画面の暗号化接続の種類で、STARTTLS または SSL/TLS を選択。

## 5.2 環境詳細情報

インターネット使用時の通信環境の設定を変更する場合に使用します。接続形態の認証タイプに応じて、表示される画面が「[図 5.2 \[環境詳細設定画面\] \(インターネット接続 \(メールのみ\) 時\)](#)」、「[図 5.3 \[環境詳細設定画面\] \(P-P 接続時\)](#)」のように異なります。

### 注意

設定を誤ると OSC にイベントが送信できなくなる場合があります。十分に注意してください。

図 5.2 [環境詳細設定画面] (インターネット接続 (メールのみ) 時)

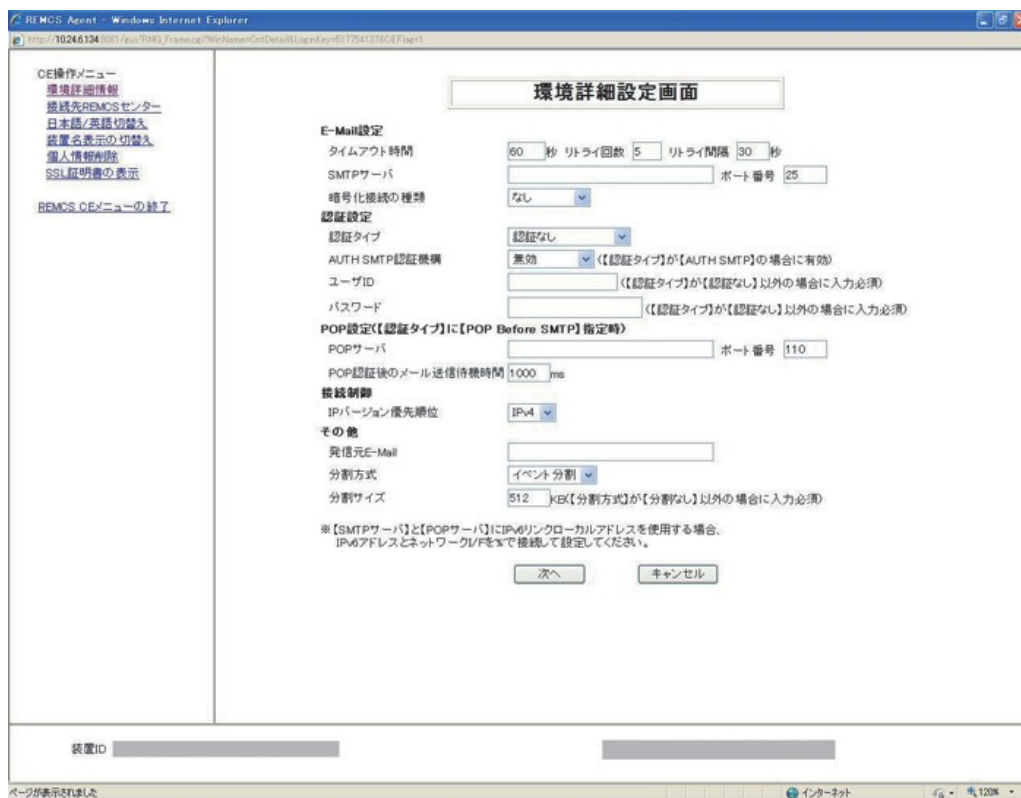


表 5.1 [環境詳細設定画面] (インターネット接続 (メールのみ) 時) の入力項目

入力項目	最大桁数	入力	説明
<b>E-Mail 設定</b>			
タイムアウト時間	4	必須	E-Mail 用タイムアウト時間 (秒) を半角数字で入力する。 範囲: 60~3600
リトライ回数	2	必須	E-Mail 用リトライ回数を半角数字で入力する。
リトライ間隔	3	必須	E-Mail 用リトライ間隔を半角数字で入力する。 範囲: 1~600
SMTP サーバ	128	必須	SMTP サーバ名、または IP アドレスを半角英数記号で入力する。
ポート番号	5	必須	SMTP サーバのポート番号を半角数字で入力する。 初期値: 25 (Well Known Port を使用) 範囲: 1~65535
暗号化接続の種類	-	必須	SMTP over SSL の暗号化接続の種類を「なし (初期値)」、「STARTTLS」、「SSL/TLS」から選択する。
<b>認証設定</b>			
認証タイプ	-	必須	認証タイプを「認証なし」、「POP Before SMTP」、「AUTH SMTP」から選択する。
AUTH SMTP 認証機構 (認証タイプで AUTH SMTP を選択した場合だけ有効)	-	必須	AUTH SMTP 認証機構を「AUTO (初期値)」、「CRAM-MD5」、「PLAIN」、「LOGIN」から選択する。
ユーザ ID	64	必須 (*1)	認証サーバのユーザ ID を半角英数記号で入力する。
パスワード	64	必須 (*1)	認証サーバのパスワードを半角英数記号で入力する。 入力値はすべて*で表示される。
<b>POP 設定 (【認証タイプ】に【POP Before SMTP】指定時)</b>			
POP サーバ	128	必須 (*2)	POP サーバ名、または IP アドレスを半角英数記号で入力する。
ポート番号	5	必須	POP3 認証サーバのポート番号を半角数字で入力する。 初期値: 110 (Well Known Port を使用) 範囲: 1~65535
POP 認証後のメール送信待機時間	5	必須	POP3 認証後、メール送信を開始するまでの待ち時間 (ミリ秒) を半角数字で入力する。 推奨値: 1000 ms 範囲: 0~30000
<b>接続制御</b>			
IP バージョン優先順位	-	必須	IP バージョンの優先を「なし」、「IPv4 (初期値)」、「IPv6」から選択する。
<b>その他</b>			
発信元 E-Mail	128	必須	発信元メールアドレスを半角英数記号で入力する。
分割方式	-	必須	分割方式を「分割なし」、「イベント分割 (初期値)」から選択する。
分割サイズ	3	必須 (*3)	分割サイズを半角数字で入力する。 - メール分割 初期値: 64 KB 範囲: 10~100 KB - イベント分割 初期値: 512 KB 範囲: 64~512 KB

\*1:認証タイプで認証なし以外を選択した場合、必須。

\*2:認証タイプで POP Before SMTP を選択した場合、必須。

\*3:分割方式で分割なし以外を選択した場合、必須。

図 5.3 [環境詳細設定画面] (P-P 接続時)

The screenshot displays the '環境詳細設定画面' (Environment Detail Setting Screen) for a P-P connection. The interface is divided into a left sidebar and a main content area. The sidebar contains a 'CE操作メニュー' (CE Operation Menu) with links for '環境詳細情報' (Environment Detail Information), '接続先REMCSセンター' (Destination REMCS Center), '日本語/英語切替え' (Japanese/English Switch), '装置名表示の切替え' (Device Name Display Switch), '個人情報削除' (Delete Personal Information), and 'SSL証明書の表示' (Display SSL Certificate). A link for 'REMCS CEメニューの終了' (End of REMCS CE Menu) is also present. The main content area features a title bar '環境詳細設定画面' and several configuration sections: 'E-Mail設定' (E-Mail Settings) with fields for 'タイムアウト時間' (60 seconds), 'リトライ回数' (5), and 'リトライ間隔' (30 seconds), and a text input for 'SMTP/PROXYサーバ'; 'その他' (Others) with a text input for '発信元E-Mail' and a dropdown for '分割方式' (currently set to 'イベント分割'); and '分割サイズ' (612 KB). A note at the bottom states: '※【SMTP/PROXYサーバ】にIPv6リンクローカルアドレスを使用する場合、IPv6アドレスとネットワーク/Fを%で接続して設定してください。' (When using IPv6 link-local addresses in the SMTP/PROXY server, connect and set the IPv6 address and network/F with %). At the bottom of the main area are '次へ' (Next) and 'キャンセル' (Cancel) buttons. The footer of the screen shows '装置ID 00-TEST-TEST-LA-TEST', '運用中' (In Operation), and 'P-P接続(VPNメールのみ)' (P-P Connection (VPN Mail Only)).

表 5.2 [環境詳細設定画面] (P-P 接続時) の入力項目

入力項目	最大桁数	入力	説明
E-Mail 設定			
タイムアウト時間	4	必須	E-Mail 用タイムアウト時間 (秒) を半角数字で入力する。 範囲：60～3600
リトライ回数	2	必須	E-Mail 用リトライ回数を半角数字で入力する。
リトライ間隔	3	必須	E-Mail 用リトライ間隔を半角数字で入力する。 範囲：1～600
SMTP/PROXY サーバ	128	必須	SMTP/PROXY サーバ名、または IP アドレスを半角英数記号で入力する。
ポート番号	5	必須	SMTP サーバのポート番号を半角数字で入力する。 初期値：25 (Well Known Port を使用) 範囲：1～65535
暗号化接続の種類	-	必須	SMTP over SSL の暗号化接続の種類を「なし (初期値)」、「STARTTLS」、「SSL/TLS」から選択する。
接続制御			
IP バージョン優先順位	-	必須	IP バージョンの優先を「なし」、「IPv4 (初期値)」、「IPv6」から選択する。
その他			
発信元 E-Mail	128	必須	発信元メールアドレスを半角英数記号で入力する。
分割方式	-	必須	分割方式を「分割なし」、「イベント分割 (初期値)」から選択する。
分割サイズ	3	必須 (*1)	分割サイズを半角数字で入力する。 - メール分割 初期値：64 KB 範囲：10～100 KB - イベント分割 初期値：512 KB 範囲：64～512 KB

\*1: 分割方式で分割なし以外を選択した場合、必須。

- CE 操作初期画面メニューから[環境詳細情報] を選択します。  
現在の設定状況により、「[図 5.2 \[環境詳細設定画面\] \(インターネット接続 \(メールのみ\) 時\)](#)」または「[図 5.3 \[環境詳細設定画面\] \(P-P 接続時\)](#)」が表示されます。
- [次へ] ボタンをクリックします。  
確認のダイアログボックスが表示されるので、設定内容を登録します。処理後、結果がポップアップで表示され、初期画面に戻ります。運用中、保守中または接続停止中の場合は、[接続確認] 画面が表示されます。

## 5.3 接続先 OSC 変更画面

OSC の接続先を変更する場合に使用します。

1. CE 操作初期画面メニューから[接続先 REMCS センター] を選択し、「[図 5.4 \[接続先 REMCS センター設定\] 画面](#)」を表示します。
2. 接続先センターを選択します。直接入力できません。あらかじめ提供されている接続先一覧表から選択します。初期値は現在のセンター名です。
3. [設定] ボタンをクリックします。  
確認のダイアログボックスが表示されます。設定内容を登録します。  
処理後、結果がポップアップで通知され、初期画面に戻ります。

図 5.4 [接続先 REMCS センター設定] 画面



## 5.4 日本語／英語切替え

表示言語を日本語または英語に切り替える場合に使用します。

1. CE 操作初期画面メニューから[日本語/英語切替え]を選択し、「[図 5.5 \[日本語/英語の切替え\] 画面](#)」を表示します。
2. 日本語または英語を指定します。初期値は、現在の設定値です。
3. [登録] ボタンをクリックします。  
確認のダイアログボックスが表示されるので、設定内容を登録します。  
処理後、結果がポップアップで通知され、初期画面に戻ります。

図 5.5 [日本語/英語の切替え] 画面





## 5.5 装置名表示の切替え

GUI に表示する装置 ID または[お客様情報] 画面で設定した装置ユニーク名の表示を切り替える場合に使用します。

1. CE 操作初期画面メニューから[装置名表示の切替え] を選択し、「[図 5.6 \[装置 ID/ユニーク名の切替え\] 画面](#)」を表示します。
2. 状態表示フレームに表示する装置名を指定します。初期値は、現在の設定値です。
3. [設定] ボタンをクリックします。

確認のダイアログボックスが表示されるので、設定内容を登録します。

処理後、結果がポップアップで通知され、初期画面に戻ります。

図 5.6 [装置 ID/ユニーク名の切替え] 画面



## 5.6 個人情報削除

レジストレーション後に、お客様情報の個人情報を削除する場合に使用します。

1. CE 操作初期画面メニューから[個人情報削除] を選択し、「[図 5.7 \[個人情報削除\] 画面](#)」を表示します。
2. [削除] ボタンをクリックすると、確認のダイアログボックスが表示されます。実行後、結果がポップアップで通知されます。

図 5.7 [個人情報削除] 画面

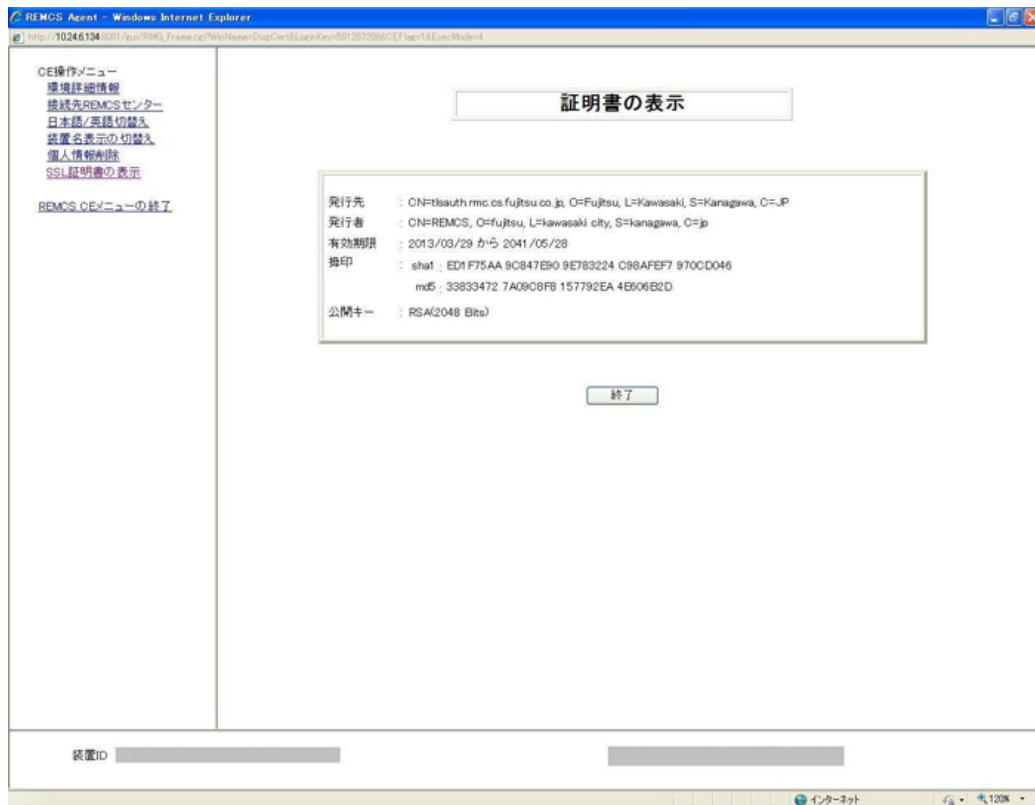


## 5.7 SSL 証明書の表示

SSL 証明書を表示、確認するために使用します。

1. CE 操作初期画面メニューから[SSL 証明書の表示] を選択し、「[図 5.8 \[証明容の表示\]画面 \(SSL\)](#)」を表示します。
2. [終了] ボタンをクリックします。

図 5.8 [証明容の表示]画面 (SSL)



## 第6章 ソフトウェア調査資料収集

ここでは、ソフトウェア障害発生時の調査資料収集を説明します。

### 6.1 調査資料収集の概要

ソフトウェア障害発生時の調査資料収集には、以下のツールを使用します。

- SIRMS (QSS 収集ツールを同梱)
- REMCS Option

SIRMS について詳しくは「[6.1.1 SIRMS について](#)」を参照してください。REMCS Option については「[6.1.2 REMCS Option \(FJSVrmo\) について](#)」を参照してください。

#### 6.1.1 SIRMS について

ソフトウェア障害発生時の調査資料収集には、SIRMS と QSS 収集ツールが用意されています。

- SIRMS  
ソフトウェア障害発生時の調査資料収集／資料管理／送信をするツールです。SIRMS のメニュー経由で QSS 収集ツールを呼び出し、資料を収集します。
- QSS 収集ツールサポート員から指示があったときに使用してください。SIRMS が存在しない場合でも、QSS 収集ツール単体で使用できます。

#### ■ 調査資料収集

調査資料収集として、以下の機能を提供します。

- 調査資料を一括収集・送信する (→「[6.2.1 調査資料を一括収集・送信する \(a\)](#)」) ワンタッチで、すべての有効な QSS 収集ツールから複数の資料を収集します。  
操作は簡単ですが、収集時間がかかり、収集する資料の量も多くなります。
- 調査資料を個別収集・送信する (→「[6.2.2 調査資料を個別収集・送信する \(b\)](#)」) 有効な QSS 収集ツールを単体で選択して資料を収集します。
- QSS 収集ツールを一覧表示する (→「[6.2.3 QSS 収集ツールを一覧表示する \(c\)](#)」) QSS 収集ツールの有効／無効を一覧で表示します。
- 任意のファイルを収集・送信する (→「[6.2.4 任意のファイルを収集・送信する \(d\)](#)」) 指定した任意のファイルを収集します。

#### ■ 調査資料 (収集結果) 管理

収集結果 (収集済みの調査資料) を扱う機能を提供します。

- 収集結果を一覧表示する (→「[6.3.1 収集結果を一覧表示する \(e\)](#)」) 調査資料の収集／送信結果を一覧で表示します。
- 収集結果を OSC へ送信する (→「[6.3.2 収集結果を OSC へ送信する \(f\)](#)」) 調査資料を OSC へ再送信する場合に使用します。
- 収集結果を削除する (→「[6.3.3 収集結果を削除する \(g\)](#)」) 調査資料を削除します。

- h. 収集結果を取り出し手操作でメールなどにて送信する (→「[6.3.4 収集結果を取り出して手動でメールなどで送信する \(h\)](#)」)  
送信サイズの上限を超えているため、OSC への送信ができない場合に使用します。
- i. インシデント番号を変更する (→「[6.3.5 インシデント番号を変更する \(i\)](#)」) インシデント番号を変更する場合に使用します。

## ■ ユーザー設定

SIRMS のユーザー属性を設定する機能を提供します。

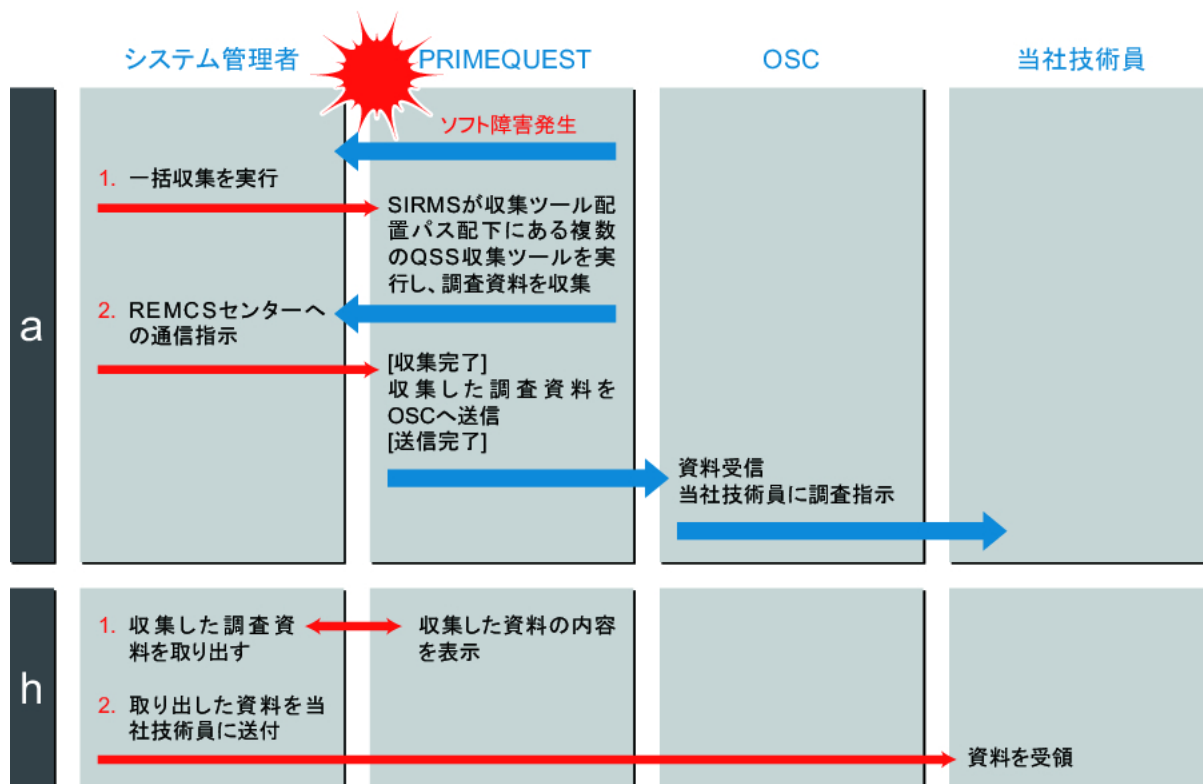
- j. 収集結果パスを設定する (→「[6.4.1 SIRMS の収集結果パスを設定する \(j\)](#)」) 収集結果を出力するディレクトリパスを設定します。
- k. 収集結果最大サイズを設定する (→「[6.4.2 SIRMS の収集結果最大サイズを設定する \(k\)](#)」) 収集結果の最大のサイズを設定します。
- l. 収集結果最大保存数を設定する (→「[6.4.3 SIRMS の収集結果最大保存数を設定する \(l\)](#)」) 収集結果の最大保存数を設定します。
- m. 送信ファイル最大サイズを設定する (→「[6.4.4 SIRMS の送信ファイル最大サイズを設定する \(m\)](#)」)  
OSC へ送信する調査資料の最大サイズを設定します。
- n. 送信ファイル最大合計サイズを設定する。(→「[6.4.5 送信ファイル最大合計サイズを設定する \(n\)](#)」)  
OSC へ一度に送信する調査資料の合計最大サイズを設定します。
- o. QSS 収集ツール実行待ち時間を設定する (→「[6.4.6 SIRMS の QSS 収集ツール実行待ち時間を設定する \(o\)](#)」)  
QSS 収集ツールが調査資料を収集している最大時間を設定します。
- p. QSS 収集ツール判断待ち時間を設定する (→「[6.4.7 SIRMS の QSS 収集ツール判断待ち時間を設定する \(p\)](#)」)  
QSS 収集ツールの有効/無効を判断する時間を設定します。
- q. ディスク空き領域を設定する (→「[6.4.8 ディスク空き領域を設定する \(q\)](#)」) 収集結果パスが設定されているディスクの、最低限使用してはいけないサイズを設定します。

「[図 6.1 SIRMS 利用による調査資料収集作業の流れ](#)」では、以下の機能に対する作業について説明します。

- (a) 調査資料を一括収集・送信する
- (b) 調査資料を個別収集・送信する
- (h) 収集結果を取り出して手動でメールなどで送信する

通常の使い方として、(a) → (h) の操作を例として示します。(b) → (h) もよく使用される方法です。

図 6.1 SIRMS 利用による調査資料収集作業の流れ



接続状態について、「表 6.1 接続状態」に示します。

表 6.1 接続状態

接続状態	レジストレーション	サーバ運用状態
オンライン	済	運用中
		保守中
オフライン	未	該当なし
	済	接続停止中

**備考**

- 接続状態は SIRMS 起動時に環境（レジストレーション、サーバ運用状態）から判断する。
- オンライン時だけ、調査資料を送信できる。
- レジストレーション、サーバ運用状態について詳しくは「第3章 REMCS サービス開始手順」および「第4章 REMCS サービス操作手順」を参照。

### 6.1.2 REMCS Option (FJSVrmo) について

REMCS Option は、OS Panic の発生時に、MMB と連携して REMCS 通報を行います。通報にはインターナル LAN を使用します。

## 6.2 調査資料収集・送信の手順

ソフト障害発生時には、ソフトウェアの詳細な調査資料を OSC に送信する必要があります。一括収集、個別収集の操作を行って、サーバにインストールされているソフトウェアの調査資料を収集してください。

### 注意

- 調査資料を収集するには、収集結果最大サイズ（初期値：300 MB）、ディスク空き領域（初期値：100 MB）、その他（5 MB）の約 405 MB の空き領域が必要。
- 調査資料を収集する前に、サーバの CPU 使用率が 100 % になっていないことを確認する。CPU 使用率が 100 % の状態で、調査資料を収集しない。CPU 使用率が高い状態で調査資料を収集して失敗した場合は、CPU 使用率が下がってから、再度、調査資料を収集する。
- メールで送信できるファイルのサイズを制限している場合、ソフトウェア調査資料を OSC に送信できない場合がある。制限サイズを確認し、送信するファイルサイズの最大値（初期値：2 MB）を変更する。「[6.4.4 SIRMS の送信ファイル最大サイズを設定する \(m\)](#)」参照。

### 6.2.1 調査資料を一括収集・送信する (a)

1. Administrator 権限でログインします。
2. SIRMS を起動します。

Windows Server 2019/Windows Server 2016/Windows Server 2008 R2 の場合：

[スタート] ボタン - [すべてのプログラム] - [REMCS SIRMS] - [ソフトウェア調査資料収集] の順にクリックします。

Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 の場合：

[チャーム] - [検索] 画面から [REMCS SIRMS] の [ソフトウェア調査資料収集] をクリックします。

コマンドプロンプトが開き、SIRMS が起動します。タイトルにバージョンと接続状態が表示され、メニューが表示されます。

3. [調査資料収集] の「1」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 調査資料収集
2. 収集結果管理

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
-----
選択してください (1-2,q,b,t):1 ↓
```

4. [調査資料収集] のメニューが表示されます。  
[一括収集] の「1」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-4,q,b,t):1 ↓

5. 有効な QSS 収集ツールを自動で検索します。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-4,q,b,t):1

収集ツール検索中...



6. 調査資料の一括収集を行います。

検索された QSS 収集ツールの調査資料名・実行数が表示されます。実行する場合は、調査資料名と実行数を確認します。「y」を入力し、[Enter] キーを押します。キャンセルする場合は、「n」を入力し、[Enter] キーを押します。  
操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集

q:中止    b:前のメニュー    t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-4,q,b,t):1

収集ツール検索中...

1: Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動

2: REMCS Agent

収集ツール一括実行数 : 2

収集ツールを一括実行しますか (y,n):y ↓

7. 複数の QSS 収集ツールで調査資料の収集が開始されます。

8. 調査資料収集の結果が表示されます。

表 6.2 収集結果

出力	結果	内容	次処理
Success	収集成功	収集に成功	実行対象があれば収集処理は続行
Error	収集失敗	収集にエラーが発生	実行対象があれば収集処理は続行

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集

q:中止   b:前のメニュー   t:トップメニュー
-----
選択してください(1-4,q,b,t):1
収集ツール検索中...
 1: Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動
 2: REMCS Agent
収集ツール一括実行数 : 2
収集ツールを一括実行しますか(y,n):y
 1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料)
 1:収集結果[Success]
 2:REMCS Agent を収集中...
 2:収集結果[Success]
収集ツールを一括実行しました。
```

9. インシデント番号を入力します。

担当保守員から伝えられたインシデント番号（英数+ハイフン）を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集

q:中止   b:前のメニュー   t:トップメニュー
-----
選択してください(1-4,q,b,t):1
収集ツール検索中...
 1: Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動
 2: REMCS Agent
収集ツール一括実行数 : 2
収集ツールを一括実行しますか(y,n):y
 1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料)
 1:収集結果 [Success]
 2:REMCS Agent を収集中...
 2:収集結果 [Success]
収集ツールを一括実行しました。

(ご注意)
インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに
入力してください。

インシデント番号を入力してください(Enter=default:S0000):000-123-456 ↓
```

10. インシデント番号を確認します。

入力したインシデント番号を確認して「y」を入力し、[Enter] キーを押します。インシデント番号を修正する場合は、「n」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集

q:中止   b:前のメニュー   t:トップメニュー

-----
選択してください(1-4,q,b,t):1
収集ツール検索中...
 1: Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動
 2: REMCS Agent 収集ツールー
括実行数 : 2
収集ツールを一括実行しますか (y,n):y
 1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料)
 1:収集結果 [Success]
 2:REMCS Agent を収集中...
 2:収集結果 [Success]
収集ツールを一括実行しました。

ご注意)
 インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに
 入力してください。

インシデント番号を入力してください(Enter=default:S0000):000-123-456
000-123-456 でよろしいですか (y,n):y↓
```

11. OSC へ送信します。

オンライン時には OSC へ送信できます。送信する場合は、「y」を入力し、[Enter] キーを押します。キャンセルする場合は、「n」を入力し、[Enter] キーを押します。

**備考**

接続状態がオフライン時には、この項目は表示されません。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集

q:中止    b:前のメニュー    t:トップメニュー
-----
選択してください (1-4,q,b,t):1
収集ツール検索中...
 1: Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動
 2: REMCS Agent
収集ツール一括実行数 : 2
収集ツールを一括実行しますか (y,n):y
 1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料)
 1:収集結果 [Success]
 2:REMCS Agent を収集中...
 2:収集結果 [Success]
収集ツールを一括実行しました。

ご注意)
 インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに
 入力してください。

インシデント番号を入力してください (Enter=default:S0000):000-123-456
000-123-456 でよろしいですか (y,n):y
調査資料を送信しますか (y,n):y ↓
```

12. 複数の調査資料の送信が開始されます。  
調査資料送信の結果が表示されます。

表 6.3 送信結果

出力	結果	内容	次処理
Send	送信成功	送信に成功	送信対象があれば送信処理は続行
Error	送信失敗	送信時にエラーが発生	送信対象があれば送信処理は続行
SizeOver	送信失敗	設定されている送信サイズを超えた	送信対象があれば送信処理は続行

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集

q:中止    b:前のメニュー    t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-4,q,b,t):1

収集ツール検索中...

- 1: Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動
- 2: REMCS Agent

収集ツール一括実行数 : 2

収集ツールを一括実行しますか (y,n):y

- 1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料)
- 1:収集結果 [Success]
- 2:REMCS Agent を収集中...
- 2:収集結果 [Success]

収集ツールを一括実行しました。

ご注意)

インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに入力してください。

インシデント番号を入力してください(Enter=default:S0000):000-123-456

000-123-456 でよろしいですか(y,n):y

調査資料を送信しますか (y,n):y

- 1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動
- 1:送信結果[Send]
- 2:REMCS Agent を送信中...
- 2:送信結果[Send]

調査資料を送信しました。

13. 一括収集の処理が完了しました。

[Enter] キーを押し、[調査資料収集] のメニューに戻ります。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集

q:中止    b:前のメニュー    t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-4,q,b,t):1

収集ツール検索中...

1: Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動

2: REMCS Agent

収集ツール一括実行数 : 2

収集ツールを一括実行しますか (y,n):y ↓

1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料)

1:収集結果 [Success]

2:REMCS Agent を収集中...

2:収集結果 [Success]

収集ツールを一括実行しました。

ご注意)

インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに  
入力してください。

インシデント番号を入力してください (Enter=default:S0000):000-123-456

000-123-456 でよろしいですか (y,n):y

調査資料を送信しますか (y,n):y

1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動

1:送信結果 [Send]

2:REMCS Agent を送信中...

2:送信結果 [Send]

調査資料を送信しました。

[Enter キーを押してください]

## 6.2.2 調査資料を個別収集・送信する (b)

1. Administrator 権限でログインします。
2. SIRMS を起動します。

Windows Server 2019/Windows Server 2016/Windows Server 2008 R2 の場合 :

[スタート] ボタン- [すべてのプログラム] - [REMCS SIRMS] - [ソフトウェア調査資料収集] の順にクリックします。

Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 の場合 :

[チャーム] - [検索] 画面から[REMCS SIRMS] の[ソフトウェア調査資料収集] をクリックします。

コマンドプロンプトが開き、SIRMS が起動します。タイトルにバージョンと接続状態が表示され、メニューが表示されます。

3. [調査資料収集] の「1」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例 :

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

- ```
1. 調査資料収集
2. 収集結果管理
```

```
q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
```

```
-----
選択してください (1-2,q,b,t):1 ↓
```

4. [調査資料収集] のメニューが表示されます。  
[個別収集] の「2」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例 :

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

- ```
1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集
```

```
q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
```

```
-----
選択してください (1-4,q,b,t):2 ↓
```



5. 有効な QSS 収集ツールを自動で検索します。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-4,q,b,t):2

収集ツール検索中...

6. 検索された QSS 収集ツールのファイル名・調査資料名一覧が表示されます。

10 個以上の場合は次のページに表示されます。

実行する QSS 収集ツールの番号を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

個別収集 - 製品一覧

1: Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動

2: REMCS Agent

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-2,q,b,t):1↓

7. 選択した QSS 収集ツールのファイル名・調査資料名が表示されます。

実行する QSS 収集ツールを確認して「y」を入力し、[Enter] キーを押します。キャンセルする場合は、「n」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

個別収集 - 製品一覧
 1: Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動
 2: REMCS Agent

q:中止   b:前のメニュー   t:トップメニュー
-----
選択してください (1-2,q,b,t):2

選択資料：
 2: REMCS Agent
調査資料を個別実行しますか (y,n):y↓
```

8. 選択した QSS 収集ツールで調査資料の収集が開始されます。

9. 調査資料収集の結果が表示されます。

表 6.4 収集結果

出力	結果	内容
Success	収集成功	収集に成功
Error	収集失敗	収集にエラーが発生

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----
選択してください (1-2,q,b,t):2
選択資料：
 2: REMCS Agent
調査資料を個別実行しますか (y,n):y
 1:REMCS Agent を収集中...
 1:収集結果 [Success]
収集ツールを個別実行しました。
```

10. インシデント番号を入力します。

担当保守員から伝えられたインシデント番号（英数+ハイフン）を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください(1-4,q,b,t):1

選択してください(1-2,q,b,t):2

選択資料：

2: REMCS Agent

調査資料を個別実行しますか (y,n):y

1:REMCS Agent を収集中...

1:収集結果[Success]

収集ツールを個別実行しました。

ご注意)

インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに  
入力してください。

インシデント番号を入力してください(Enter=default:S0000):000-123-456 ↓

11. インシデント番号を確認します。

入力したインシデント番号を確認して「y」を入力し、[Enter] キーを押します。インシデント番号を修正する場合は、「n」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
-----
選択してください(1-4,q,b,t):1
選択してください(1-2,q,b,t):2
選択資料：
  2: REMCS Agent
調査資料を個別実行しますか (y,n):y
  1:REMCS Agent を収集中...
  1:収集結果 [Success]
収集ツールを個別実行しました。

(ご注意)
  インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに
  入力してください。

インシデント番号を入力してください (Enter=default:S0000):000-123-456
000-123-456 でよろしいですか (y,n):y ↓
```

12. OSC へ送信します。

オンライン時には OSC へ送信できます。送信する場合は、「y」を入力し、[Enter] キーを押します。キャンセルする場合は、「n」を入力し、[Enter] キーを押します。

**備考**

接続状態がオフライン時には、この項目は表示されません。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
-----
選択してください(1-4,q,b,t):1
選択してください(1-2,q,b,t):2
選択資料：
  2: REMCS Agent
調査資料を個別実行しますか (y,n):y
  1:REMCS Agent を収集中...
  1:収集結果 [Success]
収集ツールを個別実行しました。

ご注意)
  インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに
  入力してください。

インシデント番号を入力してください(Enter=default:S0000):000-123-456
000-123-456 でよろしいですか (y,n):y
調査資料を送信しますか (y,n):y↓
```

- 13. 調査資料の送信が開始されます。
- 14. 調査資料送信の結果が表示されます。

表 6.5 送信結果

出力	結果	内容
Send	送信成功	送信に成功
Error	送信失敗	送信時にエラーが発生
SizeOver	送信失敗	設定されている送信サイズを超えた

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

- 1. 一括収集
- 2. 個別収集
- 3. 収集ツール一覧表示
- 4. パス指定収集

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----

選択してください(1-4,q,b,t):1

選択してください(1-2,q,b,t):2

選択資料：

2: REMCS Agent

調査資料を個別実行しますか (y,n):y

1:REMCS Agent を収集中...

1:収集結果 [Success]

収集ツールを個別実行しました。

ご注意)

インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに  
入力してください。

インシデント番号を入力してください (Enter=default:S0000):000-123-456

000-123-456 でよろしいですか (y,n):y

調査資料を送信しますか (y,n):y

1:REMCS Agent を送信中...

1:送信結果 [Send]

調査資料を送信しました。

15. 個別収集の処理が完了しました。

[Enter] キーを押し、[調査資料収集] のメニューに戻ります。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください(1-4,q,b,t):1

選択してください(1-2,q,b,t):2

選択資料：

2: REMCS Agent

調査資料を個別実行しますか (y,n):y

1:REMCS Agent を収集中...

1:収集結果 [Success]

収集ツールを個別実行しました。

ご注意)

インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに  
入力してください。

インシデント番号を入力してください (Enter=default:S0000):000-123-456

000-123-456 でよろしいですか (y,n):y

調査資料を送信しますか (y,n):y

1:REMCS Agent を送信中...

1:送信結果 [Send]

調査資料を送信しました。

[Enter キーを押してください]



### 6.2.3 QSS 収集ツールを一覧表示する (c)

1. Administrator 権限でログインします。
2. SIRMS を起動します。

Windows Server 2019/Windows Server 2016/Windows Server 2008 R2 の場合：

[スタート] ボタン- [すべてのプログラム] - [REMCS SIRMS] - [ソフトウェア調査資料収集] の順にクリックします。

Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 の場合：

[チャーム] - [検索] 画面から[REMCS SIRMS] の[ソフトウェア調査資料収集] をクリックします。

コマンドプロンプトが開き、SIRMS が起動します。タイトルにバージョンと接続状態が表示され、メニューが表示されます。

3. [調査資料収集] の「1」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

1. 調査資料収集
2. 収集結果管理

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-2,q,b,t):1 ↓

4. [調査資料収集] のメニューが表示されます。

[収集ツール一覧表示] の「3」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-4,q,b,t):3 ↓

5. QSS 収集ツールを自動で検索します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----

選択してください (1-4,q,b,t):3
収集ツール検索中...
```

6. QSS 収集ツールが一覧表示されます。

検索された QSS 収集ツールの有効／無効な調査資料名一覧が表示されます。

10 個以上の場合は次のページに表示されます。

表 6.6QSS 収集ツール調査資料名一覧

出力	結果	内容
OK	有効	収集可能
OLD	無効	旧形式の QSS 収集ツール。使用不可
NOT	無効	収集対象製品がインストールされていない
OPT	無効	暗号化モジュールが組み込まれている
	無効	自動収集に適さない QSS 収集ツール

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1: [OK]Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料)
2: [OK]REMCS Agent

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----

選択してください (q,b,t):b↓
```

7. [調査資料収集] のメニューに戻ります。  
[前のメニュー] の「b」を入力し、[Enter] キーを押します。  
操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X – オンライン]

1: [OK]Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料)

2: [OK]REMCS Agent

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----

選択してください (q,b,t):b ↓

## 6.2.4 任意のファイルを収集・送信する (d)

1. Administrator 権限でログインします。
2. SIRMS を起動します。

Windows Server 2019/Windows Server 2016/Windows Server 2008 R2 の場合 :

[スタート] ボタン- [すべてのプログラム] - [REMCS SIRMS] - [ソフトウェア調査資料収集] の順にクリックします。

Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 の場合 :

[チャーム] - [検索] 画面から [REMCS SIRMS] の [ソフトウェア調査資料収集] をクリックします。

コマンドプロンプトが開き、SIRMS が起動します。タイトルにバージョンと接続状態、メニューが表示されます。

3. [調査資料収集] の「1」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例 :

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

1. 調査資料収集
2. 収集結果管理

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-2,q,b,t):1 ↓

4. [調査資料収集] のメニューが表示されます。  
[パス指定収集] の「4」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例 :

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

1. 一括収集
2. 個別収集
3. 収集ツール一覧表示
4. パス指定収集

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-4,q,b,t):4 ↓

5. [パス指定収集] のメニューが表示されます。  
[収集パス追加] の「a」を入力し、[Enter] キーを押します。  
操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

収集パス一覧

- 収集指定されたパスはありません。

a:収集パス追加 d:収集パス削除 e:収集実行

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (a,d,e,q,b,t):a ↓

6. 収集する調査資料をフルパスで入力し、[Enter] キーを押します。  
操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

収集パス一覧

- 収集指定されたパスはありません。

a:収集パス追加 d:収集パス削除 e:収集実行

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (a,d,e,q,b,t):a

追加する収集パスをフルパスで入力してください。

(未入力=戻る):C:\temp\log.txt ↓

7. 収集パスを確認します。

収集パスを追加する場合は「y」を入力し、[Enter] キーを押します。収集パスを追加しない場合は「n」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

収集パス一覧

- 収集指定されたパスはありません。

a:収集パス追加 d:収集パス削除 e:収集実行

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
 選択してください (a,d,e,q,b,t):a

追加する収集パスをフルパスで入力してください。

(未入力=戻る):C:\temp\log.txt

C:\temp\log.txt を収集対象にしますか (y,n):y ↓

8. 収集パス一覧に追加されます。

[Enter] キーを押すと、収集パス一覧に追加されます。

10 個まで追加できます。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

収集パス一覧

- 収集指定されたパスはありません。

a:収集パス追加 d:収集パス削除 e:収集実行

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
 選択してください (a,d,e,q,b,t):a

追加する収集パスをフルパスで入力してください。

(未入力=戻る):C:\temp\log.txt

C:\temp\log.txt を収集対象にしますか(y,n):y

C:\temp\log.txt を収集パスに追加しました。

[Enter キーを押してください]

9. 収集パスを実行します。

[収集実行] の「e」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

```
収集パス一覧
```

```
1: C:\temp\log.txt
```

```
a:収集パス追加 d:収集パス削除 e:収集実行
```

```
q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
```

```
-----  
選択してください (a,d,e,q,b,t):e ↓
```

10. 収集パス一覧を確認して「y」を入力し、[Enter] キーを押します。

キャンセルする場合は「n」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

```
収集パス一覧
```

```
1: C:\temp\log.txt
```

```
a:収集パス追加 d:収集パス削除 e:収集実行
```

```
q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
```

```
-----  
選択してください (a,d,e,q,b,t):e
```

```
パス指定収集を実行します。よろしいですか (y,n):y ↓
```

11. 収集パス一覧の調査資料の収集が開始されます。

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

```
収集パス一覧
```

```
1: C:\temp\log.txt
```

```
a:収集パス追加 d:収集パス削除 e:収集実行
```

```
q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
```

```
-----  
選択してください (a,d,e,q,b,t):e
```

```
パス指定収集を実行します。よろしいですか (y,n):y
```

```
1:パス指定収集を収集中...
```

12. 調査資料収集の結果が表示されます。

表 6.7 調査資料収集結果

出力	結果	内容
Success	収集成功	収集に成功
Error	収集失敗	収集にエラーが発生

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

収集パス一覧
  1: C:\temp\log.txt

a:収集パス追加 d:収集パス削除 e:収集実行
q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
-----
選択してください (a,d,e,q,b,t):e
パス指定収集を実行します。よろしいですか (y,n):y
  1:パス指定収集を収集中...
  1:収集結果 [Success]

パス指定収集を実行しました。
```

13. インシデント番号を入力します。

担当保守員から伝えられたインシデント番号（英数+ハイフン）を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

収集パス一覧
  1: C:\temp\log.txt

a:収集パス追加 d:収集パス削除 e:収集実行
q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
-----
選択してください (a,d,e,q,b,t):e
パス指定収集を実行します。よろしいですか (y,n):y
  1:パス指定収集を収集中...
  1:収集結果 [Success]
パス指定収集を実行しました。

ご注意)
  インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに
  入力してください。

インシデント番号を入力してください (Enter=default:S0000):000-123-456 ↓
```



14. インシデント番号を確認します。

入力したインシデント番号を確認して「y」を入力し、[Enter] キーを押します。インシデント番号を修正する場合は「n」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

収集パス一覧
  1: C:\temp\log.txt

a:収集パス追加 d:収集パス削除 e:収集実行
q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
-----
選択してください (a,d,e,q,b,t):e
パス指定収集を実行します。よろしいですか (y,n):y
  1:パス指定収集を収集中...
  1:収集結果 [Success]
パス指定収集を実行しました。

(ご注意)
インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに
入力してください。

インシデント番号を入力してください (Enter=default:S0000):000-123-456
000-123-456 でよろしいですか (y,n):y ↓
```

15. OSC へ送信します。

オンライン時には OSC へ送信できます。送信する場合は「y」を入力し、[Enter] キーを押します。キャンセルする場合は「n」を入力し、[Enter] キーを押します。

**備考**

接続状態がオフライン時には、この項目は表示されません。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

収集パス一覧

1: C:\temp\log.txt

a:収集パス追加 d:収集パス削除 e:収集実行

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (a,d,e,q,b,t):e

パス指定収集を実行します。よろしいですか (y,n):y

1:パス指定収集を収集中...

1:収集結果 [Success]

パス指定収集を実行しました。

ご注意)

インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに

入力してください。

インシデント番号を入力してください (Enter=default:S0000):000-123-456

000-123-456 でよろしいですか (y,n):y

調査資料を送信しますか (y,n):y ↓

16. 調査資料の送信が開始されます。

17. 調査資料送信の結果が表示されます。

表 6.8 調査資料送信結果

出力	結果	内容
Send	送信成功	送信に成功
Error	送信失敗	送信時にエラーが発生
SizeOver	送信失敗	設定されている送信サイズを超えた

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

収集パス一覧

1: C:\temp\log.txt

a:収集パス追加 d:収集パス削除 e:収集実行

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
 選択してください (a,d,e,q,b,t):e

パス指定収集を実行します。よろしいですか (y,n):y

1:パス指定収集を収集中...

1:収集結果 [Success]

パス指定収集を実行しました。

ご注意)

インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに  
 入力してください。

インシデント番号を入力してください (Enter=default:S0000):000-123-456

000-123-456 でよろしいですか (y,n):y

調査資料を送信しますか (y,n):y

1:パス指定収集を送信中...

1:送信結果 [Send]

調査資料を送信しました。

18. パス指定収集の処理が完了しました。

[Enter] キーを押し、調査資料収集のメニューに戻ります。

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

```
収集パス一覧
```

```
1: C:\temp\log.txt
```

```
a:収集パス追加 d:収集パス削除 e:収集実行
```

```
q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
```

```
-----  
選択してください (a,d,e,q,b,t):e
```

```
パス指定収集を実行します。よろしいですか (y,n):y
```

```
1:パス指定収集を収集中...
```

```
1:収集結果 [Success]
```

```
パス指定収集を実行しました。
```

```
インシデント番号を入力してください (Enter=default:S0000):000-123-456
```

```
000-123-456 でよろしいですか (y,n):y
```

```
調査資料を送信しますか (y,n):y
```

```
1:パス指定収集を送信中...
```

```
1:送信結果[Send]
```

```
調査資料を送信しました。
```

```
[Enter キーを押してください]
```

## 6.3 収集結果管理

収集済み調査資料の送信・削除などを管理します。収集した調査資料は、収集結果パス配下に格納されます。収集結果は、以下のように、すべてのユーザーに共通なアプリケーションデータディレクトリ内に作成されます。

表 6.9 初期値として設定されている収集結果パス（環境変数を使用）

OS	収集結果パス（環境変数を使用可）
Windows Server 2019, Windows Server 2016, Windows Server 2012 R2, Windows Server 2012, Windows Server 2008 R2	%ALLUSERSPROFILE%\FUJITSU\SIRMS\SaveArea3 例) C:\ProgramData\FUJITSU\SIRMS\SaveArea3

表 6.10 収集結果パス配下ファイル

項目	説明
収集結果パス¥	収集結果があるディレクトリ
sirmsYYYYMMDDHHMISS¥	調査資料があるディレクトリ
sirms_incident.txt	インシデントファイル
ezcollectYYYYMMDDHHMISS¥	収集した資料のディレクトリ
ez.log	QSS 収集ツールの動作ログ
result.txt	収集したファイル一覧
qss_result.txt	個別実行結果ファイル
resultYYYYMMDDHHMISS.ex_	調査資料アーカイブ
resultYYYYMMDDHHMISSextract.ex_	調査資料アーカイブ（抽出処理済み）

### 備考

YYYYMMDDHHMISS は、調査資料収集を行った年月日時分秒になります。

### 6.3.1 収集結果を一覧表示する (e)

1. Administrator 権限でログインします。
2. SIRMS を起動します。

Windows Server 2019/Windows Server 2016/Windows Server 2008 R2 の場合：

[スタート] ボタン - [すべてのプログラム] - [REMCS SIRMS] - [ソフトウェア調査資料収集] の順にクリックします。

Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 の場合：

[チャーム] - [検索] 画面から [REMCS SIRMS] の [ソフトウェア調査資料収集] をクリックします。

コマンドプロンプトが開き、SIRMS が起動します。タイトルにバージョンと接続状態、メニューが表示されます。

3. [収集結果管理] の「2」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 調査資料収集
2. 収集結果管理

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----

選択してください (1-2,q,b,t):2 ↓
```

4. 収集結果の一覧が表示されます。

以下の情報が表示されます。

10 個以上の場合は次のページに表示されます。

表 6.11 収集結果一覧

出力	内容
使用可能ディスクサイズ	使用可能な収集結果のサイズ
使用量	収集結果のサイズ
収集日	収集結果の収集日
インシデント番号	送信時に使用したインシデント番号
資料数	調査資料の数
収集結果	「表 6.12 収集結果一覧－収集結果（一括収集／個別収集の収集結果）」参照
送信結果	「表 6.13 収集結果一覧－送信結果（最新の送信結果）」参照

表 6.12 収集結果一覧－収集結果（一括収集／個別収集の収集結果）

出力	結果	内容
OK	収集成功	収集に成功
NG	収集失敗	収集にすべて失敗
PART.NG	収集失敗	収集に一部失敗

表 6.13 収集結果一覧－送信結果（最新の送信結果）

出力	結果	内容
SEND	送信成功	送信に成功
NG	送信失敗	送信にすべて失敗
NOTSEND	—	送信していない
PART.NG	送信失敗	送信に一部失敗
PART.SEND	送信成功	個別送信に成功

5. 収集結果内の調査資料一覧を表示する数字を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]					
使用可能ディスクサイズ：307,200KB					
使用量：9,004KB					
収集結果一覧					
No	収集日	インシデント	資料数	収集結果	送信結果
1:	2006/07/14 14:32:03	000-123-456	1	OK	SEND
2:	2006/07/14 17:08:42	S0000	1	OK	NOTSEND
3:	2006/07/14 19:59:00	0123	2	PART.NG	PART.SEND
q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー					
-----					
選択してください (1-5,q,b,t):3↓					

6. 調査資料の一覧が表示されます。表示されている調査資料全体に対して操作できます。

以下の情報が表示されます。

10 個以上の場合は次のページに表示されます。

表 6.14 調査資料一覧

項目名	内容
収集日	各調査資料の収集日
インシデント番号	送信時に使用したインシデント番号
送信可能サイズ（製品毎）	調査資料ごとに送信できるサイズ
資料サイズ	各調査資料のサイズ
送信サイズ	送信する各調査資料のサイズ
個別収集結果	「表 6.15 調査資料一覧－個別収集結果」参照
個別送信結果	「表 6.16 調査資料一覧－個別送信結果」参照
（調査資料名）	各調査資料名
合計－資料サイズ	調査資料の合計サイズ
合計－送信サイズ	送信する調査資料の合計サイズ

表 6.15 調査資料一覧－個別収集結果

出力	結果	内容
Success	収集成功	収集に成功した
Error	収集失敗	収集時にエラーが発生した

表 6.16 調査資料一覧－個別送信結果

出力	結果	内容
Send	送信成功	送信に成功した
Error	送信失敗	送信時にエラーが発生した
SizeOver	送信失敗	設定されている送信サイズを超えた
NotSend	－	送信していない

7. 調査資料内の個別調査資料を表示する数字を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]				
調査資料一覧				
収集日	: 2006/07/14 19:59:00			
インシデント番号	: 0123			
送信可能サイズ(製品毎)	: 1,024KB			
No	資料サイズ	送信サイズ	個別収集結果	個別送信結果
1:	Windows OS (DSNAP 資料)	イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料)	自動	
	4,305KB	4,305KB	Error	NotSend
2:	REMCS Agent			
	884KB	884KB	Success	Send
-----				
合計:	5,189KB	5,189KB		
s:全て送信 r:全て削除 d:出力先表示 i:インシデント番号変更				
q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー				
-----				
選択してください (1-2,s,r,d,i,q,b,t):				

8. 個別調査資料の一覧が表示されます。表示されている個別の調査資料だけに対して操作ができます。10 個以上の場合は次のページに表示されます。以下の情報が表示されます。

表 6.17 個別調査資料の一覧

出力	内容
収集日	各調査資料の収集日
資料サイズ	各調査資料のサイズ
送信サイズ	送信する各調査資料のサイズ
個別収集結果	「表 6.18 調査資料一覧－個別収集結果」参照
個別送信結果	「表 6.19 調査資料一覧－個別送信結果」参照
(調査資料名)	各調査資料名
最大サイズ－資料サイズ	調査資料の最大のサイズ
最大サイズ－送信サイズ	送信する調査資料の最大サイズ
個別インシデント	個別送信時に使用したインシデント番号



表 6.18 調査資料一覧－個別収集結果

出力	結果	内容
Success	収集成功	収集に成功した
Error	収集失敗	収集時にエラーが発生した

表 6.19 調査資料一覧－個別送信結果

出力	結果	内容
Send	送信成功	送信に成功した
Error	送信失敗	送信時にエラーが発生した
SizeOver	送信失敗	設定されている送信サイズを超えた
NotSend	－	送信していない

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オフライン]

個別調査資料詳細

収集日 : 2006/07/14 19:59:00

インシデント番号 : 0123

個別インシデント : -----

資料名

- Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版
- Windows OS (ネットワーク資料) 自動一括採取版
- Windows OS (ミニダンプ)
- Windows OS (ワトソンログ)
- Windows OS (イベントログ、NT 診断情報)

資料サイズ : 4,305KB                      送信サイズ : 4,305KB

個別収集結果 : Error                      個別送信結果 : NotSend

s:個別送信      r:個別削除      d:出力先表示      i:個別インシデント番号変更

q:中止      b:前のメニュー      t:トップメニュー

-----  
 選択してください (s,r,d,i,q,b,t):

### 6.3.2 収集結果を OSC へ送信する (f)

1. Administrator 権限でログインします。
2. SIRMS を起動します。

Windows Server 2019/Windows Server 2016/Windows Server 2008 R2 の場合 :

[スタート] ボタン- [すべてのプログラム] - [REMCS SIRMS] - [ソフトウェア調査資料収集] の順にクリックします。

Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 の場合 :

[チャーム] - [検索] 画面から[REMCS SIRMS] の[ソフトウェア調査資料収集] をクリックします。

コマンドプロンプトが開き、SIRMS が起動します。タイトルにバージョンと接続状態が表示され、メニューが表示されます。

3. [収集結果管理] の「2」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例 :

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 調査資料収集
2. 収集結果管理

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
-----
選択してください (1-2,q,b,t):2 ↓
```

4. 収集結果の一覧が表示されます。

収集結果内の調査資料一覧を表示する数字を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例 :

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

使用可能ディスクサイズ : 307,200KB
使用量                   : 9,004KB

収集結果一覧

No  収集日                インシデント   資料数  収集結果  送信結果
1:  2006/07/14  14:32:03    000-123-456  1         OK        SEND
2:  2006/07/14  17:08:42    S0000       1         OK        NOTSEND
3:  2006/07/14  19:59:00    0123        2         PART.NG   PART.SEND

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
-----
選択してください (1-5,q,b,t):3 ↓
```

5. 調査資料の一覧が表示されます。表示されている調査資料全体に対して操作できます。

[一括送信] の「s」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

調査資料一覧

収集日 : 2006/07/14 19:59:00

インシデント番号 : 0123

送信可能サイズ(製品毎) : 1,024KB

No	資料サイズ	送信サイズ	個別収集結果	個別送信結果
1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動	4,305KB	4,305KB	Error	NotSend
2:REMCS Agent	884KB	884KB	Success	Send

-----  
合計: 5,189KB 5,189KB

s:全て送信 r:全て削除 d:出力先表示 i:インシデント番号変更  
q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-2,s,r,d,i,q,b,t):s ↓

6. OSCへ送信します。

送信する場合は、調査資料の送信数を確認して「y」を入力し、[Enter]キーを押します。キャンセルする場合は、「n」を入力し、[Enter]キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

調査資料一覧
収集日           : 2006/07/14 19:59:00
インシデント番号 : 0123
送信可能サイズ(製品毎) : 1,024KB

No      資料サイズ      送信サイズ      個別収集結果      個別送信結果
 1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動
        4,305KB        4,305KB        Error             NotSend

 2:REMCS Agent
        884KB         884KB         Success           Send
-----
合計:    5,189KB      5,189KB

s:全て送信      r:全て削除      d:出力先表示      i:インシデント番号変更
q:中止          b:前のメニュー  t:トップメニュー
-----
選択してください (1-2,s,r,d,i,q,b,t):s
調査資料を送信しますか (y,n):y↓
```

7. 複数の調査資料の送信が開始されます。  
一括送信の結果が表示されます。

表 6.20 送信結果

出力	結果	内容	次処理
Send	送信成功	送信に成功	送信対象があれば送信処理は続行
Error	送信失敗	送信時にエラーが発生	送信対象があれば送信処理は続行
SizeOver	送信失敗	設定されている送信サイズを超えた	送信対象があれば送信処理は続行

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

調査資料一覧

収集日 : 2006/07/14 19:59:00  
 インシデント番号 : 0123  
 送信可能サイズ(製品毎) : 1,024KB

No	資料サイズ	送信サイズ	個別収集結果	個別送信結果
1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動	4,305KB	4,305KB	Error	NotSend
2:REMCS Agent	884KB	884KB	Success	Send

-----  
 合計: 5,189KB 5,189KB

s:全て送信 r:全て削除 d:出力先表示 i:インシデント番号変更  
 q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
 選択してください (1-2,s,r,d,i,q,b,t):s

調査資料を送信しますか (y,n):y ↓

1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動  
 1:送信結果[Send]  
 2:REMCS Agent を送信中...  
 2:送信結果[Send]

調査資料を送信しました。

8. 一括送信の処理が完了しました。

[Enter] キーを押し、調査資料一覧に戻ります。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

調査資料一覧
収集日           : 2006/07/14 19:59:00
インシデント番号 : 0123
送信可能サイズ(製品毎) : 1,024KB

No      資料サイズ      送信サイズ      個別収集結果      個別送信結果
  1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動
        4,305KB        4,305KB        Error              NotSend

  2:REMCS Agent
        884KB         884KB         Success            Send
-----
合計:      5,189KB        5,189KB

s:全て送信      r:全て削除      d:出力先表示      i:インシデント番号変更
q:中止          b:前のメニュー      t:トップメニュー
-----
選択してください (1-2,s,r,d,i,q,b,t):s
調査資料を送信しますか(y,n):y↓
  1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動
  1:送信結果 [Send]
  2:REMCS Agent を送信中...
  2:送信結果 [Send]
調査資料を送信しました。

[Enter キーを押してください]
```

#### 備考

個別に調査資料を送信する場合は、以下のように操作します。

- a. 個別に調査資料の数字を入力し、[Enter] キーを押します。  
個別調査資料の一覧が表示されます。
- b. 個別送信の「s」を入力し、[Enter] キーを押します。  
送信方法は一括送信と同じです。

### 6.3.3 収集結果を削除する (g)

1. Administrator 権限でログインします。
2. SIRMS を起動します。

Windows Server 2019/Windows Server 2016/Windows Server 2008 R2 の場合：

[スタート] ボタン- [すべてのプログラム] - [REMCS SIRMS] - [ソフトウェア調査資料収集] の順にクリックします。

Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 の場合：

[チャーム] - [検索] 画面から[REMCS SIRMS] の[ソフトウェア調査資料収集] をクリックします。

コマンドプロンプトが開き、SIRMS が起動します。タイトルにバージョンと接続状態が表示され、メニューが表示されます。

3. [収集結果管理] の「2」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 調査資料収集
2. 収集結果管理

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
-----
選択してください (1-2,q,b,t):2 ↓
```

4. 収集結果の一覧が表示されます。

収集結果内の調査資料一覧を表示する数字を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

使用可能ディスクサイズ : 307,200KB
使用量      : 9,004KB

収集結果一覧

No 収集日 インシデント      資料数  収集結果送信結果
1: 2006/07/14  14:32:03  000-123-456    1    OK    SEND
2: 2006/07/14  17:08:42  S0000          1    OK    NOTSEND
3: 2006/07/14  19:59:00  0123           2    PART.NG  PART.SEND

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
-----
選択してください (1-5,q,b,t):3 ↓
```

5. 調査資料の一覧が表示されます。

表示されている調査資料全体に対して操作できます。[全て削除]の「r」を入力し、[Enter]キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

調査資料一覧
収集日           : 2006/07/14 19:59:00
インシデント番号 : 0123
送信可能サイズ(製品毎) : 1,024KB

No      資料サイズ      送信サイズ      個別収集結果      個別送信結果
  1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動
        4,305KB        4,305KB        Error              NotSend

  2:REMCS Agent
        884KB         884KB         Success            Send
-----
合計:      5,189KB        5,189KB

s:全て送信      r:全て削除      d:出力先表示      i:インシデント番号変更
q:中止          b:前のメニュー  t:トップメニュー
-----
選択してください (1-2,s,r,d,i,q,b,t):r↓
```



6. 調査資料の全削除を行います。

削除する収集結果のインシデント番号を確認して「y」を入力し、[Enter] キーを押します。キャンセルする場合は、「n」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

調査資料一覧
収集日           : 2006/07/14 19:59:00
インシデント番号 : 0123
送信可能サイズ(製品毎) : 1,024KB

No      資料サイズ   送信サイズ   個別収集結果   個別送信結果
 1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動
        4,305KB     4,305KB     Error          NotSend

 2:REMCS Agent
        884KB      884KB      Success        Send
-----
合計:    5,189KB    5,189KB

s:全て送信   r:全て削除   d:出力先表示   i:インシデント番号変更
q:中止      b:前のメニュー   t:トップメニュー
-----
選択してください (1-2,s,r,d,i,q,b,t):r
インシデント番号 0123 の資料を全て削除します。よろしいですか (y,n):y↓
```

7. 全削除の処理が行われます。

[Enter] キーを押し、収集結果一覧に戻ります。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

調査資料一覧
収集日           : 2006/07/14 19:59:00
インシデント番号 : 0123
送信可能サイズ(製品毎) : 1,024KB

No      資料サイズ      送信サイズ      個別収集結果      個別送信結果
  1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動
        4,305KB        4,305KB        Error              NotSend

  2:REMCS Agent
        884KB         884KB         Success            Send
-----
合計:      5,189KB      5,189KB

s:全て送信      r:全て削除      d:出力先表示      i:インシデント番号変更
q:中止          b:前のメニュー      t:トップメニュー
-----
選択してください (1-2,s,r,d,i,q,b,t):r
インシデント番号 0123 の資料を全て削除します。よろしいですか (y,n):y
インシデント番号 0123 の資料を全て削除しました。

[Enter キーを押してください]
```

**備考**

個別に調査資料を削除する場合は、以下のように操作します。

- a. 個別に調査資料の数字を入力し、[Enter] キーを押します。  
個別調査資料の一覧が表示されます。
- b. 個別削除の「r」を入力し、[Enter] キーを押します。  
削除方法は全削除と同じです。

### 6.3.4 収集結果を取り出して手動でメールなどで送信する (h)

1. Administrator 権限でログインします。
2. SIRMS を起動します。

Windows Server 2019/Windows Server 2016/Windows Server 2008 R2 の場合：

[スタート] ボタン- [すべてのプログラム] - [REMCS SIRMS] - [ソフトウェア調査資料収集] の順にクリックします。

Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 の場合：

[チャーム] - [検索] 画面から[REMCS SIRMS] の[ソフトウェア調査資料収集] をクリックします。

コマンドプロンプトが開き、SIRMS が起動します。タイトルにバージョンと接続状態が表示され、メニューが表示されます。

3. [収集結果管理] の「2」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 調査資料収集
2. 収集結果管理

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
-----
選択してください (1-2,q,b,t):2 ↓
```

4. 収集結果の一覧が表示されます。

収集結果内の調査資料一覧を表示する数字キーと、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

使用可能ディスクサイズ : 307,200KB
使用量 : 9,004KB

収集結果一覧

No 収集日 インシデント 資料数 収集結果送信結果
1: 2006/07/14 14:32:03 000-123-456 1 OK SEND
2: 2006/07/14 17:08:42 S0000 1 OK NOTSEND
3: 2006/07/14 19:59:00 0123 2 PART.NG PART.SEND

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
-----
選択してください (1-5,q,b,t):3 ↓
```

5. 調査資料の一覧が表示されます。表示されている調査資料全体に対して操作できます。

[出力先表示]の「d」を入力し、[Enter]キーを押します。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

調査資料一覧

収集日 : 2006/07/14 19:59:00

インシデント番号 : 0123

送信可能サイズ(製品毎) : 1,024KB

No	資料サイズ	送信サイズ	個別収集結果	個別送信結果
1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動	4,305KB	4,305KB	Error	NotSend
2:REMCS Agent	884KB	884KB	Success	Send

-----  
合計: 5,189KB 5,189KB

s:全て送信 r:全て削除 d:出力先表示 i:インシデント番号変更  
q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

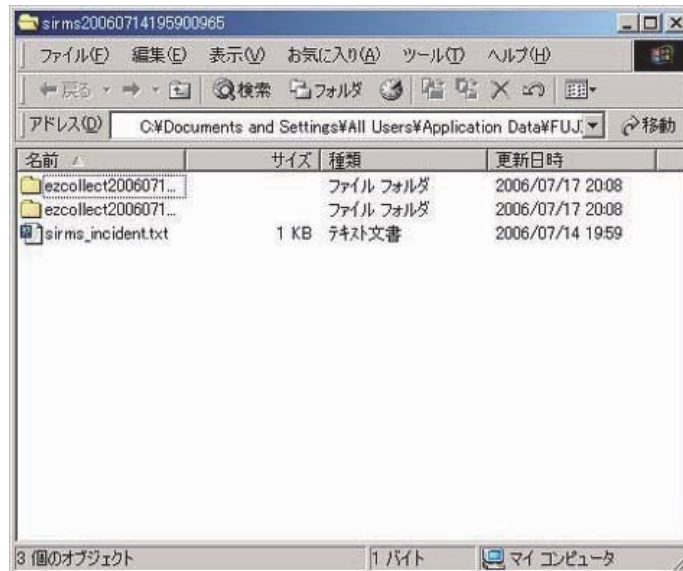
-----  
選択してください (1-2,s,r,d,i,q,b,t):d↓

6. 収集結果のパス指定でエクスプローラが開きます。

調査資料をほかの媒体（DAT などの外部記憶装置）に保存して OSC に郵送するか、調査資料を E-Mail の添付書類としてサポートデスクへ送信します。送信先は、担当保守員の指示に従ってください。

操作例：

図 6.2 エクスプローラ画面

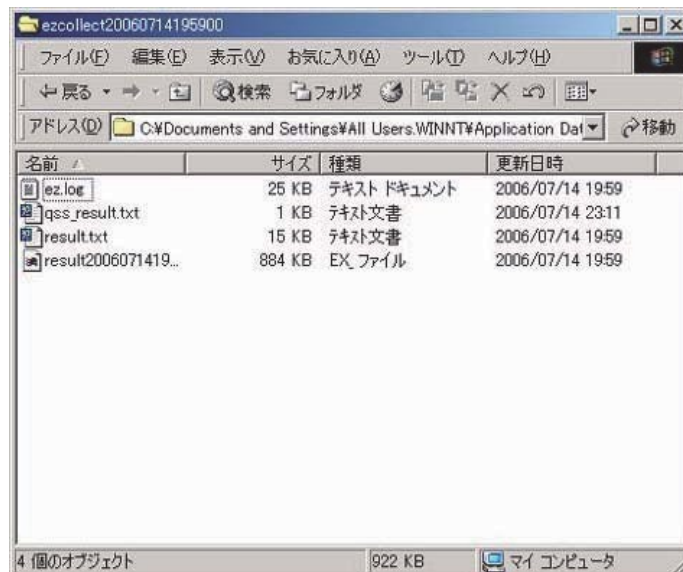


7. 個別に調査資料のパス指定でエクスプローラを開きたい場合は、調査資料の数字キーと [Enter] キーを押します。

個別調査資料の一覧が表示されるので、内容表示の「d」を入力し、[Enter] キーを押します。内容表示方法は収集結果の内容表示と同じです。

操作例：

図 6.3 エクスプローラ画面



### 6.3.5 インシデント番号を変更する (i)

1. Administrator 権限でログインします。
2. SIRMS を起動します。

Windows Server 2019/Windows Server 2016/Windows Server 2008 R2 の場合：

[スタート] ボタン- [すべてのプログラム] - [REMCS SIRMS] - [ソフトウェア調査資料収集] の順にクリックします。

Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 の場合：

[チャーム] - [検索] 画面から[REMCS SIRMS] の[ソフトウェア調査資料収集] をクリックします。

コマンドプロンプトが開き、SIRMS が起動します。タイトルにバージョンと接続状態が表示され、メニューが表示されます。

3. [収集結果管理] の「2」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 調査資料収集
2. 収集結果管理

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
-----
選択してください (1-2,q,b,t):2 ↓
```

4. 収集結果の一覧が表示されます。

収集結果内の調査資料一覧を表示する数字キーと、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

使用可能ディスクサイズ : 307,200KB
使用量      : 9,004KB

収集結果一覧

No 収集日 インシデント      資料数  収集結果送信結果
1: 2006/07/14  14:32:03  000-123-456    1    OK    SEND
2: 2006/07/14  17:08:42  S0000          1    OK    NOTSEND
3: 2006/07/14  19:59:00  0123          2    PART.NG  PART.SEND

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
-----
選択してください (1-5,q,b,t):3 ↓
```

5. 調査資料の一覧が表示されます。表示されている調査資料全体に対して操作できます。

[インシデント番号変更]の「i」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

調査資料一覧
収集日           : 2006/07/14 19:59:00
インシデント番号 : 0123
送信可能サイズ(製品毎) : 1,024KB

No      資料サイズ      送信サイズ      個別収集結果      個別送信結果
  1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動
        4,305KB        4,305KB        Error             NotSend

  2:REMCS Agent
        884KB         884KB         Success           Send

-----
合計:      5,189KB      5,189KB

s:全て送信      r:全て削除      d:出力先表示      i:インシデント番号変更
q:中止          b:前のメニュー      t:トップメニュー

-----
選択してください (1-2,s,r,d,i,q,b,t):i↓
```

6. インシデント番号を入力します。

担当保守員から伝えられたインシデント番号（英数+ハイフン）を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

調査資料一覧
収集日           : 2006/07/14 19:59:00
インシデント番号 : 0123
送信可能サイズ(製品毎) : 1,024KB

No      資料サイズ   送信サイズ   個別収集結果   個別送信結果
 1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動
        4,305KB      4,305KB      Error          NotSend

 2:REMCS Agent
        884KB       884KB       Success        Send
-----
合計:    5,189KB    5,189KB

s:全て送信    r:全て削除    d:出力先表示    i:インシデント番号変更
q:中止       b:前のメニュー    t:トップメニュー
-----
選択してください (1-2,s,r,d,i,q,b,t):d
ご注意)
 インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに
 入力してください。

インシデント番号を入力してください (Enter=default:0123):4567 ↓
```



7. インシデント番号を確認します。

入力したインシデント番号を確認して「y」を入力し、[Enter] キーを押します。インシデント番号を修正する場合は、「n」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

調査資料一覧
収集日           : 2006/07/14 19:59:00
インシデント番号 : 0123
送信可能サイズ(製品毎) : 1,024KB

No      資料サイズ   送信サイズ   個別収集結果   個別送信結果
 1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動
        4,305KB     4,305KB     Error          NotSend

 2:REMCS Agent
        884KB      884KB      Success       Send
-----
合計:    5,189KB    5,189KB

s:全て送信    r:全て削除    d:出力先表示    i:インシデント番号変更
q:中止       b:前のメニュー    t:トップメニュー
-----
選択してください (1-2,s,r,d,i,q,b,t):d
(ご注意)
インシデント番号はサポート員がお伝えした番号を間違えずに
入力してください。

インシデント番号を入力してください (Enter=default:0123):4567
4567 でよろしいですか (y,n):y↓
```

8. 収集結果一覧に戻り、インシデント番号変更の処理が行われます。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

調査資料一覧
収集日           : 2006/07/14 19:59:00
インシデント番号 : 0123
送信可能サイズ(製品毎) : 1,024KB

No      資料サイズ   送信サイズ   個別収集結果   個別送信結果
1:Windows OS (DSNAP 資料) イベントログなし版,Windows OS (ネットワーク資料) 自動
        4,305KB      4,305KB      Error          NotSend

2:REMCS Agent
        884KB       884KB       Success       Send
-----
合計:    5,189KB    5,189KB

s:全て送信   r:全て削除   d:出力先表示   i:インシデント番号変更
q:中止      b:前のメニュー   t:トップメニュー
-----
選択してください (1-2,s,r,d,i,q,b,t):
```

#### 備考

個別に調査資料のインシデント番号を変更する場合は、以下のように操作します。

- a. 個別に調査資料の数字を入力し、[Enter] キーを押します。  
個別調査資料の一覧が表示されます。
- b. 個別インシデント番号の「i」を入力し、[Enter] キーを押します。  
変更方法はインシデント番号の変更と同じです。

## 6.4 ユーザー設定

調査資料収集における送信ファイルサイズや、ファイルの保存先などを変更します

### 注意

担当保守員の指示がない場合は変更しないでください。

#### [ユーザ設定管理]

##### j) 収集結果の出力先パスの設定

- 収集結果の出力先を変更する場合に設定する
- 環境変数を使用できる

##### k) 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定

- 収集結果のサイズを変更する場合に設定する

##### l) 収集結果の最大保存数の設定

- 収集後に収集結果の数が値を超えた場合に古い順から削除される
- 収集結果の数を変更する場合に設定する

##### m) 送信可能な最大ファイルサイズの設定

- 値を超えた場合は、サイズ内に納まるよう調査資料を抽出し送信する
- 送信する収集結果のサイズを変更する場合に設定する

##### n) 送信可能な最大ファイルサイズの設定

- 値を超えた場合は、送信が中止される
- 送信する収集結果の合計最大サイズを変更する場合に設定する

##### o) 送信可能な最大ファイルサイズの設定

- 低スペックマシン使用時に変更する（通常は変更しない）
- タイムアウトした場合は送信が行われない

##### p) 収集ツール判断待ち時間の設定

- 低スペックマシン使用時に変更する（通常は変更しない）
- タイムアウトした場合は無効な QSS 収集ツールと判断される

##### q) ディスク空き領域チェックの設定

- ハードディスクの容量が少ない場合に変更する

表 6.21 [ユーザ設定管理] (設定値)

項目名	初期値 [範囲] (単位)	
収集結果のパス	Windows Server 2019, Windows Server 2016, Windows Server 2012 R2, Windows Server 2012, Windows Server 2008 R2	C:\ProgramData\FUJITSU\SIRMS\SaveArea3
収集結果最大サイズ	300 [20-2048] (MB)	
収集結果最大保存数	5 [1-256]	
送信ファイル最大サイズ	1024 [1-1024] (KB)	
合計送信ファイル最大サイズ	5120 [1-5120] (KB)	
収集ツール実行待ち時間	30 [10-120] (分)	
収集ツール判断待ち時間	10 [5-60] (秒)	
ディスク空き領域	100 [20-1024] (MB)	

### 6.4.1 SIRMS の収集結果パスを設定する (j)

1. Administrator 権限でログインします。
2. SIRMS を起動します。

Windows Server 2019/Windows Server 2016/Windows Server 2008 R2 の場合 :

[スタート] ボタン- [すべてのプログラム] - [REMCS SIRMS] - [ソフトウェア調査資料収集] の順にクリックします。

Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 の場合 :

[チャーム] - [検索] 画面から[REMCS SIRMS] の[ソフトウェア調査資料収集] をクリックします。

コマンドプロンプトが開き、SIRMS が起動します。タイトルにバージョンが表示され、メニューが表示されます。

3. [ユーザ設定管理] の「1」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例 :

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 調査資料収集
2. 収集結果管理

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー
-----
選択してください (1-2,q,b,t):1 ↓
```

4. [ユーザ設定管理] メニューが表示されます。  
[収集結果の出力先パスの設定] の「1」を入力し、[Enter] キーを押します。  
操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):1↓

5. [ユーザ設定管理] と現在の設定情報が表示されます。  
現在設定されている値と初期値が表示されます。設定する値を入力し、[Enter] キーを押します。

**備考**

設定する値を入力しないで[Enter] キーを押した場合は、初期値が設定されます。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----
選択してください (1-8,q,b,t):1
現在の収集結果出力先パス: C:\Documents and Settings\All Users\Application
Data\FUJITSU\SIRMS\SaveArea3
(default: C:\Documents and Settings\All Users.WINNT\Application Data\FUJITSU\SIRMS\
SaveArea3)
出力先パスを入力してください(Enter=default)
C:\fujitsu\savearea ↓
```

6. 入力した値を確認します。

入力した値を確認して「y」を入力し、[Enter] キーを押します。キャンセルする場合は、「n」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):1

現在の収集結果出力先パス: C:\Documents and Settings\All Users\Application

Data\FUJITSU\SIRMS\SaveArea3

(default: C:\Documents and Settings\All Users.WINNT\Application Data\FUJITSU\SIRMS\  
SaveArea3)

出力先パスを入力してください(Enter=default)

C:\fujitsu\savearea

収集結果出力先パスに C:\fujitsu\savearea を設定しますか(y,n):y ↓

7. ユーザー設定処理が完了しました。

[Enter] キーを押し、[ユーザ設定管理] メニューに戻ります。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):1

現在の収集結果出力先パス: C:\Documents and Settings\All Users\Application

Data\FUJITSU\SIRMS\SaveArea3

(default: C:\Documents and Settings\All Users.WINNT\Application Data\FUJITSU\SIRMS\SaveArea3)

出力先パスを入力してください(Enter=default)

C:\fujitsu\savearea

収集結果出力先パスに C:\fujitsu\savearea を設定しますか(y,n):y

C:\fujitsu\savearea を設定しました。

[Enter キーを押してください]



## 6.4.2 SIRMS の収集結果最大サイズを設定する (k)

1. Administrator 権限でログインします。
2. SIRMS を起動します。

Windows Server 2019/Windows Server 2016/Windows Server 2008 R2 の場合：

[スタート] ボタン- [すべてのプログラム] - [REMCS SIRMS] - [ソフトウェア調査資料収集] の順にクリックします。

Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 の場合：

[チャーム] - [検索] 画面から[REMCS SIRMS] の[ソフトウェア調査資料収集] をクリックします。

コマンドプロンプトが開き、SIRMS が起動します。タイトルにバージョンが表示され、メニューが表示されます。

3. [ユーザ設定管理] の「1」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

1. 調査資料収集
2. 収集結果管理

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
 選択してください (1-2,q,b,t):1 ↓

4. [ユーザ設定管理] メニューが表示されます。

[収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定] の「2」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
 選択してください (1-8,q,b,t):2 ↓

5. [ユーザ設定管理] と現在の設定情報が表示されます。  
現在設定されている値と初期値が表示されます。設定する値を入力し、[Enter] キーを押します。

**備考**

設定する値を入力しないで[Enter] キーを押した場合は、初期値が設定されます。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):2  
現在の収集結果保存領域の最大利用可能サイズ: 300MB  
(default: 300)  
サイズ(MB)を入力してください(20-2048)  
(Enter=default):500 ↓

6. 入力した値を確認します。

入力した値を確認し「y」を入力し、[Enter] キーを押します。キャンセルする場合は、「n」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):2

現在の収集結果保存領域の最大利用可能サイズ: 300MB  
(default: 300)

サイズ(MB)を入力してください(20-2048)

(Enter=default):500

収集結果保存領域の最大利用可能サイズに 500MB を設定しますか(y,n):y ↓

7. ユーザー設定処理が完了しました。

[Enter] キーを押し、[ユーザ設定管理] メニューに戻ります。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):2

現在の収集結果保存領域の最大利用可能サイズ: 300MB  
(default: 300)

サイズ(MB)を入力してください(20-2048)

(Enter=default):500

収集結果保存領域の最大利用可能サイズに 500MB を設定しますか(y,n):y ↓

収集結果保存領域の最大利用可能サイズに 500MB を設定しました。

[Enter キーを押してください]

### 6.4.3 SIRMS の収集結果最大保存数を設定する (I)

1. Administrator 権限でログインします。
2. SIRMS を起動します。

Windows Server 2019/Windows Server 2016/Windows Server 2008 R2 の場合：

[スタート] ボタン- [すべてのプログラム] - [REMCS SIRMS] - [ソフトウェア調査資料収集] の順にクリックします。

Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 の場合：

[チャーム] - [検索] 画面から[REMCS SIRMS] の[ソフトウェア調査資料収集] をクリックします。

コマンドプロンプトが開き、SIRMS が起動します。タイトルにバージョンが表示され、メニューが表示されます。

3. [ユーザ設定管理] の「1」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

1. 調査資料収集
2. 収集結果管理

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-2,q,b,t):1 ↓

4. [ユーザ設定管理] メニューが表示されます。

[収集結果の最大保存数の設定] の「3」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):3 ↓

5. [ユーザ設定管理] と現在の設定情報が表示されます。  
現在設定されている値と初期値が表示されます。設定する値を入力し、[Enter] キーを押します。

**備考**

設定する値を入力しないで[Enter] キーを押した場合は、初期値が設定されます。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):3

現在の収集結果の最大保存数: 5

(default: 5)

最大保存数を入力してください (1-256)

(Enter=default):10 ↓

6. 入力した値を確認し「y」を入力し、[Enter] キーを押します。  
キャンセルする場合は、「n」を入力し、[Enter] キーを押します。  
操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):3

現在の収集結果の最大保存数: 5

(default: 5)

最大保存数を入力してください (1-256)

(Enter=default):10

収集結果の最大保存数に 10 を設定しますか (y,n):y ↓

7. ユーザー設定処理が完了しました。

[Enter] キーを押し、[ユーザ設定管理] メニューに戻ります。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):3

現在の収集結果の最大保存数: 5

(default: 5)

最大保存数を入力してください (1-256)

(Enter=default):10

収集結果の最大保存数に 10 を設定しますか (y,n):y ↓

収集結果の最大保存数に 10 を設定しました。

[Enter キーを押してください] ↓



## 6.4.4 SIRMS の送信ファイル最大サイズを設定する (m)

1. Administrator 権限でログインします。
2. SIRMS を起動します。

Windows Server 2019/Windows Server 2016/Windows Server 2008 R2 の場合：

[スタート] ボタン- [すべてのプログラム] - [REMCS SIRMS] - [ソフトウェア調査資料収集] の順にクリックします。

Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 の場合：

[チャーム] - [検索] 画面から[REMCS SIRMS] の[ソフトウェア調査資料収集] をクリックします。

コマンドプロンプトが開き、SIRMS が起動します。タイトルにバージョンが表示され、メニューが表示されます。

3. [ユーザ設定管理] の「1」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

1. 調査資料収集
2. 収集結果管理

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-2,q,b,t):1 ↓

4. [ユーザ設定管理] メニューが表示されます。

[送信可能な最大ファイルサイズの設定] の「4」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):4 ↓

5. [ユーザ設定管理] と現在の設定情報が表示されます。  
現在設定されている値と初期値が表示されます。設定する値を入力し、[Enter] キーを押します。

**備考**

設定する値を入力しないで[Enter] キーを押した場合は、初期値が設定されます。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----

選択してください (1-8,q,b,t):4
現在の送信可能な最大ファイルサイズ: 1024KB
(default: 1024)
サイズ(KB)を入力してください (1-1024)
(Enter=default):512↓
```

6. 入力した値を確認し「y」を入力し、[Enter] キーを押します。  
キャンセルする場合は、「n」を入力し、[Enter] キーを押します。  
操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):4  
現在の送信可能な最大ファイルサイズ: 1024KB  
(default: 1024)  
サイズ(KB)を入力してください (1-1024)  
(Enter=default):512  
送信可能な最大ファイルサイズに 512KB を設定しますか (y,n):y ↓

7. ユーザー設定処理が完了しました。

[Enter] キーを押し、[ユーザ設定管理] メニューに戻ります。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):4  
現在の送信可能な最大ファイルサイズ: 1024KB  
(default: 1024)  
サイズ(KB)を入力してください (1-1024)  
(Enter=default):512  
送信可能な最大ファイルサイズに 512KB を設定しますか (y,n):y  
送信可能な最大ファイルサイズに 512KB を設定しました。

[Enter キーを押してください]

## 6.4.5 送信ファイル最大合計サイズを設定する (n)

1. Administrator 権限でログインします。
2. SIRMS を起動します。

Windows Server 2019/Windows Server 2016/Windows Server 2008 R2 の場合：

[スタート] ボタン- [すべてのプログラム] - [REMCS SIRMS] - [ソフトウェア調査資料収集] の順にクリックします。

Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 の場合：

[チャーム] - [検索] 画面から[REMCS SIRMS] の[ソフトウェア調査資料収集] をクリックします。

コマンドプロンプトが開き、SIRMS が起動します。タイトルにバージョンが表示され、メニューが表示されます。

3. [ユーザ設定管理] の「1」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

1. 調査資料収集
2. 収集結果管理

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-2,q,b,t):1 ↓

4. [ユーザ設定管理] メニューが表示されます。

[送信可能な最大合計ファイルサイズの設定] の「5」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):5 ↓

5. ユーザ設定管理が表示されます。

現在設定されている値と初期値が表示されます。設定する値を入力し、[Enter] キーを押します。

**備考**

設定する値を入力しないで[Enter] キーを押した場合は、初期値が設定されます。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):5  
現在の送信可能な最大合計ファイルサイズ: 5120KB  
(default: 5120)  
サイズ(KB)を入力してください (1-5120)  
(Enter=default):512↓

6. 入力した値を確認し「y」を入力し、[Enter] キーを押します。  
キャンセルする場合は、「n」を入力し、[Enter] キーを押します。  
操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):5

現在の送信可能な最大合計ファイルサイズ: 5120KB  
(default: 5120)

サイズ(KB)を入力してください (1-5120)

(Enter=default):512

送信可能な最大合計ファイルサイズに 512KB を設定しますか (y,n):y ↓

7. ユーザー設定処理が完了しました。

[Enter] キーを押し、[ユーザ設定管理] メニューに戻ります。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):5

現在の送信可能な最大合計ファイルサイズ: 5120KB

(default: 5120)

サイズ(KB)を入力してください (1-5120)

(Enter=default):512

送信可能な最大合計ファイルサイズに 512KB を設定しますか (y,n):y

送信可能な最大合計ファイルサイズに 512KB を設定しました。

[Enter キーを押してください]



## 6.4.6 SIRMS の QSS 収集ツール実行待ち時間を設定する (o)

1. Administrator 権限でログインします。
2. SIRMS を起動します。

Windows Server 2019/Windows Server 2016/Windows Server 2008 R2 の場合：

[スタート] ボタン- [すべてのプログラム] - [REMCS SIRMS] - [ソフトウェア調査資料収集] の順にクリックします。

Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 の場合：

[チャーム] - [検索] 画面から[REMCS SIRMS] の[ソフトウェア調査資料収集] をクリックします。

コマンドプロンプトが開き、SIRMS が起動します。タイトルにバージョンが表示され、メニューが表示されます。

3. [ユーザ設定管理] の「1」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

1. 調査資料収集
2. 収集結果管理

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-2,q,b,t):1 ↓

4. [ユーザ設定管理] メニューが表示されます。

[収集ツール実行待ち時間の設定] の「6」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):6 ↓

5. ユーザ設定管理と現在の設定情報が表示されます。

現在設定されている値と初期値が表示されます。設定する値を入力し、[Enter] キーを押します。

**備考**

設定する値を入力しないで[Enter] キーを押した場合は、初期値が設定されます。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):6

現在の収集ツール実行待ち時間: 30 分

(default: 30)

時間(分)を入力してください (10-120)

(Enter=default):120 ↓

6. 入力した値を確認し「y」を入力し、[Enter] キーを押します。  
キャンセルする場合は、「n」を入力し、[Enter] キーを押します。  
操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):6

現在の収集ツール実行待ち時間: 30 分

(default: 30)

時間(分)を入力してください (10-120)

(Enter=default):120

収集ツール実行待ち時間に 120 分を設定しますか (y,n):y ↓

7. ユーザー設定処理が完了しました。

[Enter] キーを押し、[ユーザ設定管理] メニューに戻ります。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):6

現在の収集ツール実行待ち時間: 30 分

(default: 30)

時間(分)を入力してください (10-120)

(Enter=default):120

収集ツール実行待ち時間に 120 分を設定しますか (y,n):y

収集ツール実行待ち時間に 120 分を設定しました。

[Enter キーを押してください]

## 6.4.7 SIRMS の QSS 収集ツール判断待ち時間を設定する (p)

1. Administrator 権限でログインします。
2. SIRMS を起動します。

Windows Server 2019/Windows Server 2016/Windows Server 2008 R2 の場合：

[スタート] ボタン- [すべてのプログラム] - [REMCS SIRMS] - [ソフトウェア調査資料収集] の順にクリックします。

Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 の場合：

[チャーム] - [検索] 画面から[REMCS SIRMS] の[ソフトウェア調査資料収集] をクリックします。

コマンドプロンプトが開き、SIRMS が起動します。タイトルにバージョンが表示され、メニューが表示されます。

3. [ユーザ設定管理] の「1」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

1. 調査資料収集
2. 収集結果管理

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
 選択してください (1-2,q,b,t):1 ↓

4. [ユーザ設定管理] メニューが表示されます。

[収集ツール判断待ち時間の設定] の「7」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]
```

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
 選択してください (1-8,q,b,t):7 ↓

5. ユーザ設定管理が表示されます。

現在設定されている値と初期値が表示されます。設定する値を入力し、[Enter] キーを押します。

**備考**

設定する値を入力しないで[Enter] キーを押した場合は、初期値が設定されます。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):7  
現在の収集ツール判断待ち時間: 10 秒  
(default: 10)  
時間(秒)を入力してください (5-60)  
(Enter=default):20 ↓

6. 入力した値を確認し「y」を入力し、[Enter] キーを押します。  
キャンセルする場合は、「n」を入力し、[Enter] キーを押します。  
操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):7  
現在の収集ツール判断待ち時間: 10 秒  
(default: 10)  
時間(秒)を入力してください (5-60)  
(Enter=default):20 ↓  
収集ツール判断待ち時間に 20 秒を設定しますか (y,n):y ↓

7. ユーザー設定処理が完了しました。

[Enter] キーを押し、[ユーザ設定管理] メニューに戻ります。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):7  
現在の収集ツール判断待ち時間: 10 秒  
(default: 10)  
時間(秒)を入力してください (5-60)  
(Enter=default):20 ↓  
収集ツール判断待ち時間に 20 秒を設定しますか (y,n):y  
収集ツール判断待ち時間に 20 秒を設定しました。

[Enter キーを押してください]



## 6.4.8 ディスク空き領域を設定する (q)

1. Administrator 権限でログインします。
2. SIRMS を起動します。

Windows Server 2019/Windows Server 2016/Windows Server 2008 R2 の場合：

[スタート] ボタン- [すべてのプログラム] - [REMCS SIRMS] - [ソフトウェア調査資料収集] の順にクリックします。

Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 の場合：

[チャーム] - [検索] 画面から[REMCS SIRMS] の[ソフトウェア調査資料収集] をクリックします。

コマンドプロンプトが開き、SIRMS が起動します。タイトルにバージョンが表示され、メニューが表示されます。

3. [ユーザ設定管理] の「1」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

1. 調査資料収集
2. 収集結果管理

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
 選択してください (1-2,q,b,t):1 ↓

4. [ユーザ設定管理] メニューが表示されます。

[ディスク空き領域チェックの設定] の「8」を入力し、[Enter] キーを押します。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
 選択してください (1-8,q,b,t):8 ↓

5. ユーザ設定管理と現在の設定情報が表示されます。

現在設定されている値と初期値が表示されます。設定する値を入力し、[Enter] キーを押します。

**備考**

設定する値を入力しないで[Enter] キーを押した場合は、初期値が設定されます。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):8  
現在のディスク空き領域チェック: 100MB  
(default: 100)  
サイズ(MB)を入力してください (20-1024)  
(Enter=default):1024 ↓

6. 入力した値を確認して「y」を入力し、[Enter] キーを押します。  
キャンセルする場合は、「n」を入力し、[Enter] キーを押します。  
操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):8  
現在のディスク空き領域チェック: 100MB  
(default: 100)  
サイズ(MB)を入力してください (20-1024)  
(Enter=default):1024  
ディスク空き領域チェックに 1024MB を設定しますか(y,n):y ↓

7. ユーザー設定処理が完了しました。

[Enter] キーを押し、[ユーザ設定管理] メニューに戻ります。

操作例：

[ソフトウェア調査資料収集 4.X.X - オンライン]

ユーザ設定管理

1. 収集結果の出力先パスの設定 (C:\Documents and Settings\All Users\Application)
2. 収集結果保存領域の最大利用可能サイズの設定 (300MB)
3. 収集結果の最大保存数の設定 (5)
4. 送信可能な最大ファイルサイズの設定 (1024KB)
5. 送信可能な最大合計ファイルサイズの設定 (5120KB)
6. 収集ツール実行待ち時間の設定 (30Min)
7. 収集ツール判断待ち時間の設定 (10Sec)
8. ディスク空き領域チェックの設定 (100MB)

q:中止 b:前のメニュー t:トップメニュー

-----  
選択してください (1-8,q,b,t):8  
現在のディスク空き領域チェック: 100MB  
(default: 100)  
サイズ(MB)を入力してください (20-1024)  
(Enter=default):1024  
ディスク空き領域チェックに 1024MB を設定しますか(y,n):y ↓  
ディスク空き領域チェックに 1024MB を設定しました。

[Enter キーを押してください]

## 6.5 SIRMS のメッセージ

ここでは、画面に表示されるエラーメッセージと対処を説明します。

### 備考

詳細なエラーメッセージが動作ログに出力されます。

動作ログ出力先（環境変数を使用）：%ProgramFiles%・FUJITSU・SIRMS・Data・Log\sirms.log

例）C:\Program Files\FUJITSU・SIRMS・Data・Log\sirms.log

表 6.22 SIRMS のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
SRM0126E	Please execute as root.	管理者権限で起動する。
SRM0127E	*** failed to open (%PROGRAMFILES%\FUJITSU\SIRMS\Data \Log\sirms.log):*	動作ログが出力されていない場合はログ出力先有 無、およびセキュリティ権限が Administrator 権 限で書き込みが可能か確認する。
SRM0128E	Failed in reading of Message Files.	メッセージファイル (%PROGRAMFILES%\FUJITSU\SIRMS\locale) が存在 するか確認する。
SRM0124E	多重起動しました。	SIRMS の終了を待ち、起動する。
SRM0110E	SIRMS 定義の読み込みに失敗しまし た。	SIRMS の設定ファイルを開き、設定ミス部分を削 除する。
SRM0112E	指定したパラメーターが異常です。	パラメーターを見直す。

## 第7章 QSS 収集ツール

ここでは、ソフト障害発生時の調査データ収集ツールである QSS 収集ツールを説明します。

### 7.1 QSS 収集ツールの概要

QSS 収集ツールは、ソフト障害発生時の調査資料収集ツールです。操作の簡略化と迅速化、および調査資料の収集漏れをなくす目的で提供されます。ソフト障害発生時に担当保守員に連絡すると、状況に合った QSS 収集ツールの提供が受けられます。システム管理者は QSS 収集ツールを起動するだけで、調査に必要な情報を自動的に収集できます。QSS 収集ツールを使用した調査資料収集は、パーティションにインストールされている OS によって手順が異なります。以下のそれぞれの手順を参照してください。

- [7.2 調査資料収集 \(Windows\)](#)
- [7.3 調査資料収集 \(Linux : RHEL\)](#)

### 7.2 調査資料収集 (Windows)

1. QSS 収集ツールを PRIMEQUEST 2000 シリーズに保存します。
  - a. 担当保守員から入手した QSS 収集ツールを調査対象システムにコピーします。

#### 注意

- QSS 収集ツールのファイル名はインシデント番号を元に決定される。マニュアル中の例と同じではない。
  - QSS 収集ツールの拡張子が `ex_` になっている場合は、拡張子を `exe` に変更する。
  - 転送方法は `ftp/FDD` などの方法がある。作業環境により利用可能な方法が異なるので、不明の場合はシステム管理者に確認する。
  - `ftp` を使用する場合は必ずバイナリ転送する。
  - 転送先ディレクトリに十分な空き容量があることを確認する。収集ツール単体では約 600KB を使用する。調査資料の収集には 5~300 MB の空き容量が必要。必要な空き容量は、調査内容により異なる。上記は目安として参考にしてください。
  - Windows Server 2008 R2 以降の、JIS2004 規格第 3/4 水準漢字（以下、JIS2004 文字と記す）をフォルダ名やファイル名に使用しない。JIS2004 文字は、文字変換時の変換リスト一覧に[環境依存文字 (Unicode) ]と表示されているものを指す。
  - QSS 収集ツールのコピー先に JIS2004 文字を使用した場合、正しく収集処理ができない。
  - 収集結果の出力先ディレクトリ指定に JIS2004 文字を使用した場合、正しく収集処理ができない。  
例) `ERROR:ファイルのオープンに失敗しました (code=106,reason=0,123)`
- b. 調査対象システムに Administrator 権限でログインします。

2. QSS 収集ツールを実行します。

- a. [1. QSS 収集ツールを PRIMEQUEST 2000 シリーズに保存します。] を実行します。
- b. QSS 収集ツールを実行します。  
実行する方法を以下に示します。

表 7.1 収集ツール実行方法の一覧

オペレーション	一般ユーザー	管理者グループ	ビルトイン Administrator (*1)
- エクスプローラから実行 - コマンドプロンプトから実行¥	不可 (*2)	不可 (*2)	可 (*3)
右クリックから[管理者として実行]	可 (*4)	可 (*5)	可 (*3)
管理者コマンドプロンプトから実行	可 (*6)	可 (*7)	可 (*3)

- \*1: ビルトイン Administrator : インストール後の最初のログインユーザー
- \*2: 管理者権限がないためエラーメッセージを出力して終了する  
例) ERROR : 管理者権限がありません (code=3, reason=0,0)
- \*3: QSS 収集ツールが実行される

**備考**

以下の許可が必要になることがあります。

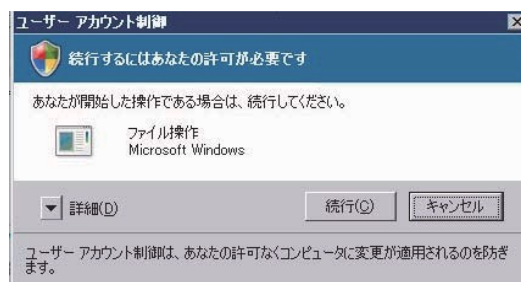
[対象フォルダへのアクセスは拒否されました] ダイアログボックスが表示された場合は、[続行] ボタンをクリックしてください。

図 7.1 [アクセス拒否] 画面



[ユーザーアカウント制御] ダイアログボックスが表示された場合は[続行] ボタンをクリックしてください。

図 7.2 [ユーザーアカウント制御] ダイアログボックス



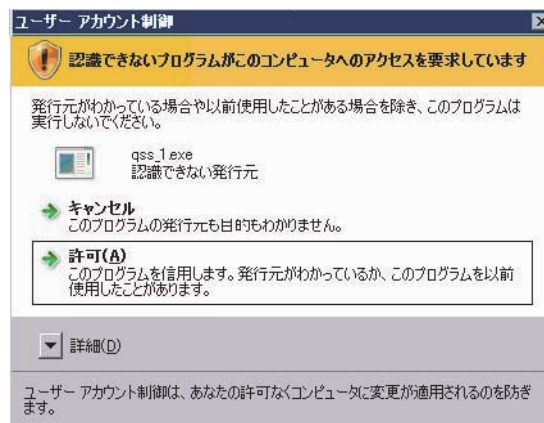
- \*4:以下のダイアログが表示されます。  
ユーザーが管理者パスワードを入力すると、QSS 収集ツールが実行されます。

図 7.3 [ユーザーアカウント制御] ダイアログボックス



\*5:以下のダイアログボックスが表示されます。  
 ユーザーが [許可] を選択すると、QSS 収集ツールが実行されます。

図 7.4 [ユーザーアカウント制御] ダイアログボックス



\*6:以下のダイアログボックスが表示されます。  
 ユーザーが管理者パスワードを入力すると、QSS 収集ツールが実行されます。

図 7.5 [ユーザーアカウント制御] ダイアログボックス





- \*7: 以下のダイアログボックスが表示されます。  
 ユーザーが [続行] ボタンをクリックすると、管理者コマンドプロンプトが起動され、QSS 収集ツールが実行されます。

図 7.6 [ユーザーアカウント制御] ダイアログボックス



3. QSS 収集ツールで、指定された情報に従い調査資料収集を開始します。
  - a. [1. QSS 収集ツールを PRIMEQUEST 2000 シリーズに保存します。] を実行します。
  - b. エクスプローラを開き、QSS 収集ツールをダブルクリックして実行します。収集する調査資料名が表示されません。
  - c. 実行する場合は、調査資料名を確認し「y」を入力し[Enter] キーを押します。キャンセルする場合は、「n」を入力し[Enter] キーを押します。

下記資料を収集します  
 Windows OS (OS 基本情報)  
 開始する場合は Y キーを、中止する場合は N キーを押下してください。(省略値=N):y ↓

調査資料収集が開始され、所要時間が表示されます。  
 所要時間は調査内容および調査対象システムの状態によって大きく異なるため、処理が終了するまでしばらく待つ必要があります。

下記資料を収集します  
 Windows OS (OS 基本情報)  
 開始する場合は Y キーを、中止する場合は N キーを押下してください。(省略値=N):y  
 収集中 : ##### 97%  
 [01:00]

**備考**

処理を途中で中断する場合

[Ctrl] + [C] キーを押すと、実行中の QSS 収集ツールの処理を中断できます。

終了する準備をしています。  
 : この間、しばらく時間がかかる場合があります。  
 中断しました。  
 [Enter]キーを押下してください↓

調査資料収集の結果が表示され、収集資料および収集結果がファイルに格納されます。

```

下記資料を収集します
  Windows OS (OS 基本情報)
開始する場合は Y キーを、中止する場合は N キーを押下してください。(省略値=N):y
収集中： ##### 100% [01:03]
正常終了しました。
収集資料は下記ファイルに格納されています
  ezcollect20030905150108\result20030905150108.ex_(128KB)
収集結果は下記ファイルに記述されています
  ezcollect20030905150108\result.txt
    
```

4. 収集した調査資料を取り出します。
 

調査資料をほかの媒体（DAT などの外部記憶装置）に保存する場合に収集した調査資料を取り出してください。取り出した調査資料は弊社サポート員の指示に従って、媒体の郵送、E-Mail での送信を行ってください。

  - a. QSS 収集ツールを実行したカレントディレクトリをエクスプローラなどで開きます。
  - b. 調査資料が収集されていることを確認し取り出します。

表 7.2 収集結果の出力先

名前	説明
カレントディレクトリ¥	QSS 収集ツール実行ディレクトリ
ezcollectYYYYMMDDHHMISS¥	収集した資料のディレクトリ
resultYYYYMMDDHHMISS.ex_	調査資料アーカイブ
result.txt	収集結果ログ
ez.log	QSS 収集ツールの動作ログ

**備考**

YYYYMMDDHHMISS は、調査資料収集を行った年月日時分秒です。

## 7.3 調査資料収集 (Linux : RHEL)

1. QSS 収集ツールを PRIMEQUEST 2000 シリーズに保存します。

a. 担当保守員から入手した QSS 収集ツールを調査対象システムに転送します。

### 注意

- QSS 収集ツールのファイル名はインシデント番号を元に決定される。マニュアル中の例と同じではない。
- 転送方法は ftp/FDD などの方法がある。作業環境により利用可能な方法が異なるため、不明の場合はシステム管理者に確認する。
- ftp を用いる場合は必ずバイナリ転送する。
- 転送先ディレクトリのパーティションに十分な空き容量があることを確認する。QSS 収集ツールは約 200 KB。調査資料の収集には 5~300 MB の空き容量が必要 (\*1)。

\*1: 必要な空き容量は、調査内容により異なるため、参考値。

b. 調査対象システムに login し、root ユーザーになります。QSS 収集ツールは root ユーザーで実行する必要があります。root ユーザーに昇格可能な一般ユーザーで login した後、su コマンドを実行するか、最初から root で login します。

操作例：一般ユーザーで login して su コマンドで root に昇格する場合

「↓」は [Enter] キーを押します。

```
Red Hat Enterprise Linux Server release 5.4 (Tikanga)
Kernel 2.6.18-164.el5 on an x86_64
login: ユーザーアカウント↓
Password:(パスワード)↓
Last login: Wed Mar 16 13:54:10 from XXX.XXX.XXX.XXX
[xxxx@svr ~]$ su ↓
Password:(root のパスワード) ↓
[root@svr root]#
```

c. カレントディレクトリを、手順 a で QSS 収集ツールを転送したディレクトリに変更します。

操作例：転送先ディレクトリが/tmp/の場合

```
[root@svr root]# cd /tmp
[root@svr /tmp]#
```

転送した QSS 収集ツールが正しく置かれているか確認します。

操作例：

```
[root@svr /tmp]# ls -l *.qss ↓
-rw-r--r-- 1 root root 100737 Mar 16 13:50 qss_009-9999-9999.qss
[root@svr /tmp]#
```

- d. QSS 収集ツールを実行可能にします。

操作例：

```
[root@svr /tmp]# chmod u+x qss_009-9999-9999.qss ↓
[root@svr /tmp]# ls -l *.qss ↓
-rwxr--r-- 1 root root 100737 Mar 16 13:50 qss_009-9999-9999.qss
[root@svr /tmp]#
```

2. QSS 収集ツールで、指定された情報に従い調査資料収集を実行する。

- a. [1. QSS 収集ツールを PRIMEQUEST 2000 シリーズに保存します。] を実行します。

- b. QSS 収集ツールを実行します。

操作例：

```
[root@svr /tmp]# ./qss_009-9999-9999.qss ↓
```

- c. 収集する調査資料名が表示されます。実行する場合は、調査資料名を確認し「y」を入力し↓[Enter] キーを押します。キャンセルする場合は、「n」を入力し↓[Enter] キーを押します。

操作例：

```
[root@svr /tmp]# ./qss_009-9999-9999.qss
下記資料を収集します
基本調査資料(fjsnap)

開始する場合は Y キーを、中止する場合は N キーを押下してください。(省略値=N):y ↓
```

- d. 調査資料収集が開始され、所要時間が表示されます。所要時間は調査内容および調査対象システムの状態によって大きく異なるため、処理が終了するまでしばらく待つ必要があります。

```
[root@svr /tmp]# ./qss_009-9999-9999.qss
下記資料を収集します
基本調査資料(fjsnap)

開始する場合は Y キーを、中止する場合は N キーを押下してください。(省略値=N):y
[ Basic ]
収集中： ##### 97% [00:01]
```

#### 備考

処理を途中で中断する場合は、[Ctrl] + [C] キーを押すと、実行中の QSS 収集ツールの処理を中断できます。

```
[ Basic ]
処理中： ##### 100% [00:01]
収集中： ### 008% [00:01]^C# ← [Ctrl] + [C] キーを押す
```

調査内容によっては中断が望ましくない処理を伴うケースがあり、処理の完了を待って中断します。  
[処理を中断します] のメッセージ表示後、停止するまでに数分から十数分かかる場合があります。

```
[[root@svr /tmp]# ./qss_009-9999-9999.qss
下記資料を収集します
基本調査資料(fjsnap)

開始する場合は Y キーを、中止する場合は N キーを押下してください。(省略値=N):y
[ Basic ]
処理中： [00:11]^C ← [Ctrl] + [C] キーを押す
処理を中断します。
しばらくお待ちください。

[root@svr /tmp]#
```

e. 調査資料収集の結果が表示されます。収集資料および収集結果がファイルに格納されます。

```
[root@svr /tmp]# ./qss_009-9999-9999.qss
下記資料を収集します
基本調査資料(fjsnap)

開始する場合は Y キーを、中止する場合は N キーを押下してください。(省略値=N):y
[ Basic ]
処理中： ##### 100% [00:01]
収集中： ##### 100% [00:09]
アーカイブ： ##### 100% [00:08]
圧縮： ##### 100% [00:14]
クリーニング： ##### 100% [00:01]
正常終了しました
収集資料は下記ファイルに格納されています
      ezcollect20050316141156/result20050316141156.tar.gz (2,754KB)
収集結果は下記ファイルに記述されています
      ezcollect20050316141156/result.txt
```

3. 収集した調査資料を取り出します。

調査資料をほかの媒体（DAT などの外部記憶装置）に保存する場合に収集した調査資料を取り出してください。取り出した調査資料は弊社サポート員の指示に従って、媒体の郵送、E-Mail での送信を行ってください。

- a. QSS 収集ツールを実行したカレントディレクトリのファイルを一覧表示します。
- b. 調査資料が収集されていることを確認し取り出します。

操作例：

収集結果の出力先が ezcollect20050316141156/だった場合の例です。

収集結果の出力先は変化しますので、実行後の画面出力を確認してください。

```
[root@svr /tmp]# ls -l ezcollect20050316141156 ↓
total 25234
-rw-r--r-- 1 root root 2820601 Mar 16 14:12 result20050316141156.tar.gz
-rw-r--r-- 1 root root      356 Mar 16 14:12 result.txt
[root@svr /tmp]#
```

表 7.3 収集結果の出力先

名前	説明
カレントディレクトリ/	QSS 収集ツール実行ディレクトリ
ezcollectYYYYMMDDHHMISS/	収集した資料のディレクトリ
resultYYYYMMDDHHMISS.tar.gz	調査資料アーカイブ
result.txt	収集結果ログ
ez.log	QSS 収集ツールの動作ログ

**備考**

YYYYMMDDHHMISS は、調査資料収集を行った年月日時分秒です。

## 第8章 REMCS のメッセージ

ここでは、画面に表示される主なエラーメッセージを説明します。

### 8.1 REMCS 画面のメッセージ

ここでは、REMCS 画面に表示されるメッセージを説明します。

メッセージの xxx は、復帰値などの文字列を置換して出力するために使用しています。

表 8.1 全画面共通のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0150	定義ファイル情報のアクセスに失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_1121	接続されていません。(xxx)	
RMG_1123	接続されていません。	REMCS 画面操作が必要であれば、REMCS 画面を再度起動する。
RMG_1125	一定時間アクセスがなかったためタイムアウトされました。	
RMG_1135	接続されていません。	

表 8.2 GUI 起動時のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0001	装置状態の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	
RMG_0007	装置 ID の取得に失敗しました。(xxx)	
RMG_0012	言語環境の切替えを行いました。	なし。
RMG_0018	登録情報の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0041	装置状態の設定に失敗しました。(xxx)	
RMG_0164	日本語の切替えに失敗しました。(xxx)	
RMG_0165	英語の切替えに失敗しました。(xxx)	引き続き、レジストレーションを行う。
RMG_0166	日本語切替え処理を行いました。	
RMG_0167	英語切替え処理を行いました。	
RMG_0172	出荷先取得処理に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0188	設定ファイルの異常を検出したため、初期化を行いました。	レジストレーションを実行する。
RMG_0193	REMCS のモジュールが動作していないため、REMCS 画面を使用できません。	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。

表 8.3 メニューフレームのメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0001	装置状態の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0005	フレーム画面展開に成功しました。	なし。
RMG_0006	接続形態の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0035	REMCS 操作を終了します。よろしいですか。	[OK] ボタンまたは[キャンセル] ボタンをクリックする。



表 8.4 状態表示フレームのメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0001	装置状態の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0006	接続形態の取得に失敗しました。(xxx)	
RMG_0065	お客様情報の取得に失敗しました。(xxx)	

表 8.5 設定進捗表示フレームのメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0001	装置状態の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0035	REMCS 操作を終了します。よろしいですか。	[OK] ボタンまたは[キャンセル] ボタンをクリックする。

表 8.6 [お客様登録のご案内] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0010	お客様登録のご案内画面表示処理に成功しました。	なし。
RMG_0018	登録情報の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。

表 8.7 初期画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0008	初期画面表示処理に成功しました。	なし。

表 8.8 [初期設定] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0001	装置状態の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0006	接続形態の取得に失敗しました。(xxx)	なし。
RMG_0011	初期設定画面表示処理に成功しました。	
RMG_0025	接続形態の設定に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0026	接続形態を xxx に変更しました。	なし。
RMG_0027	装置状態の変更に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。

表 8.9 [環境情報・お客様情報のインポート] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0015	入力値に指定できない文字が含まれています。	入力値を修正する。
RMG_0027	装置状態の変更に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0032	入力されたファイルはインポート対象外です。	正しいファイルを入力する。
RMG_0033	入力されたディレクトリが正しくありません。	正しいディレクトリを入力する。
RMG_0036	入力必須項目です。	正しく入力する。
RMG_0096	サポートしていない接続形態が含まれるため、環境情報をインポートできません。	接続方式が同じファイルを入力する。
RMG_0118	環境情報、お客様情報のインポートに失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0142	入力されたディレクトリにファイルが存在しません。	ファイルの存在するディレクトリを入力する。
RMG_0143	環境情報ファイルに誤りがあります。	正しいファイルを入力し再度実行する。
RMG_0144	お客様情報ファイルに誤りがあります。	
RMG_0194	お客様情報ファイルに必須項目が無いため、自動レジストレーションができません。	お客様情報ファイルの内容を確認し、誤りを修正後、再度実行する。
RMG_0196	個人情報の削除に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0210	個人情報削除画面表示処理に成功しました。	なし。

表 8.10 [入力情報の確認] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0150	定義ファイル情報のアクセスに失敗しました。(xxx)	
RMG_0215	入力情報の確認画面表示処理に成功しました。	なし。

表 8.11 [自動レジストレーション結果] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0038	自動レジストレーションを開始しました。	なし。
RMG_0039	自動レジストレーションに成功しました。	
RMG_0040	自動レジストレーションに失敗しました。 (xxx:xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。

表 8.12 [環境設定(インターネット(メールのみ))] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0001	装置状態の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	入力値を修正する。
RMG_0006	接続形態の取得に失敗しました。(xxx)	
RMG_0015	入力値に指定できない文字が含まれています。	
RMG_0016	入力値が範囲外です。	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0018	登録情報の取得に失敗しました。(xxx)	
RMG_0030	POP サーバ情報の指定に誤りがあります。 POP サーバを指定する場合は、【ユーザー ID】 / 【パスワード】 / 【POP サーバ】を指定して下さい。	POP サーバの指定を修正する。
RMG_0031	AUTH SMTP 認証情報の指定に誤りがあります。 AUTH SMTP 認証を指定する場合は、【ユーザー ID】 / 【パスワード】を指定して下さい。	AUTH SMTP 認証情報の指定を修正する。
RMG_0036	入力必須項目です。	正しく入力する。
RMG_0037	環境設定の登録を行います。よろしいですか。	[OK] ボタンまたは [キャンセル] ボタンをクリックする。
RMG_0041	装置状態の設定に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0042	環境設定(インターネット(メールのみ))画面表示処理に成功しました。	なし。
RMG_0043	環境設定(インターネット(メールのみ))の登録に失敗しました。(xxx)	入力した SMTP サーバの FQDN、または IP アドレスを確認する。また、ネットワークの状態が正常かどうか確認する。
RMG_0044	環境設定(インターネット(メールのみ))登録に成功しました。	なし。
RMG_0056	接続確認処理に失敗しました。(xxx)	ネットワークの状態が正常かどうか確認する。
RMG_0095	接続形態が異なるため実行できません。	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0181	E-mail アドレスに誤りがあります。	正しく入力する。
RMG_0189	環境設定が完了するまで REMCS センターへの通報は行われません。よろしいですか。	[OK] ボタンまたは [キャンセル] ボタンをクリックする。
RMG_0207	【分割サイズ】の入力値に誤りがあります。 10～100 の範囲で指定してください。	正しい値を入力する。
RMG_0208	【分割サイズ】の入力値に誤りがあります。 64～512 の範囲で指定してください。	

表 8.13 [環境設定(P-P)] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0001	装置状態の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0006	接続形態の取得に失敗しました。(xxx)	入力値を修正する。
RMG_0015	入力値に指定できない文字が含まれています。	
RMG_0018	登録情報の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0028	全ての項目を入力してください。	未入力の項目を入力する。
RMG_0037	環境設定の登録を行います。よろしいですか。	[OK] ボタンまたは[キャンセル] ボタンをクリックする。
RMG_0041	装置状態の設定に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0056	接続確認処理に失敗しました。(xxx)	ネットワークの状態が正常かどうか、確認する。
RMG_0079	環境設定(P-P)画面表示処理に成功しました。	なし。
RMG_0080	環境設定(P-P)の登録に失敗しました。(xxx)	入力した SMTP サーバの FQDN、または IP アドレスを確認する。また、ネットワークの状態が正常かどうか確認する。
RMG_0081	環境設定(P-P)登録に成功しました。	なし。
RMG_0095	接続形態が異なるため実行できません。	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0181	E-mail アドレスに誤りがあります。	正しく入力する。
RMG_0189	環境設定が完了するまで REMCS センターへの通報は行われません。よろしいですか。	[OK] ボタンまたは[キャンセル] ボタンをクリックする。
RMG_0207	【分割サイズ】の入力値に誤りがあります。10～100 の範囲で指定してください。	正しい値を入力する。
RMG_0208	【分割サイズ】の入力値に誤りがあります。64～512 の範囲で指定してください。	

表 8.14 [定期接続スケジュール設定] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0001	装置状態の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	入力値を修正する。
RMG_0006	接続形態の取得に失敗しました。(xxx)	
RMG_0015	入力値に指定できない文字が含まれています。	
RMG_0016	入力値が範囲外です。	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0018	登録情報の取得に失敗しました。(xxx)	
RMG_0027	装置状態の変更に失敗しました。(xxx)	
RMG_0036	入力必須項目です。	正しく入力する。
RMG_0048	運用終了時間の設定が正しくありません。	運用開始時間を確認し、正しい時間を設定する。
RMG_0049	定期接続スケジュールの登録を行います。よろしいですか。	[OK] ボタンまたは [キャンセル] ボタンをクリックする。
RMG_0050	定期接続スケジュール画面表示処理に成功しました。	なし。
RMG_0051	定期接続スケジュールの登録に失敗しました。(xxx)	ネットワークの状態が正常かどうか、確認する。
RMG_0052	定期接続スケジュールの設定に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0054	定期接続スケジュールの登録に成功しました。	定期接続スケジュールの登録に成功しました。
RMG_0056	接続確認処理に失敗しました。(xxx)	ネットワークの状態が正常かどうか、確認する。
RMG_0186	エージェント変更通知処理に失敗しました。(xxx)	
RMG_0187	エージェント情報送信処理に失敗しました。(xxx)	

表 8.15 [お客様情報] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0001	装置状態の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0006	接続形態の取得に失敗しました。(xxx)	
RMG_0015	入力値に指定できない文字が含まれています。	入力値を修正する。
RMG_0018	登録情報の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0029	入力桁数に誤りがあります。	正しい桁数で入力する。
RMG_0036	入力必須項目です。	正しく入力する。
RMG_0065	お客様情報の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0066	お客様情報画面表示処理に成功しました。	なし。
RMG_0068	お客様情報の【法人名】に指定できない文字が含まれています。	指定できる文字を確認し修正する。
RMG_0069	お客様情報の【部署名】に指定できない文字が含まれています。	
RMG_0070	お客様情報の【ご住所】に指定できない文字が含まれています。	
RMG_0071	お客様情報の【ビル名称】に指定できない文字が含まれています。	
RMG_0072	お客様情報の【管理者のお名前】に指定できない文字が含まれています。	
RMG_0073	お客様情報の【設置場所】に指定できない文字が含まれています。	
RMG_0074	お客様情報の【設置場所のビル名称】に指定できない文字が含まれています。	
RMG_0075	お客様情報の【法人名(カナ)】に指定できない文字が含まれています。	
RMG_0076	お客様情報の【管理者のお名前(カナ)】に指定できない文字が含まれています。	
RMG_0181	E-mail アドレスに誤りがあります。	正しく入力する。



表 8.16 [お客様情報確認] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0001	装置状態の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0041	装置状態の設定に失敗しました。(xxx)	
RMG_0067	お客様情報確認画面表示処理に成功しました。	なし。
RMG_0077	お客様情報の登録に失敗しました。(xxx)	MMB の Network Interface 設定で HOSTNAME が設定されているか確認する。再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0078	お客様情報の登録に成功しました。	なし。

表 8.17 [情報送信に関する合意事項] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0001	装置状態の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0006	接続形態の取得に失敗しました。(xxx)	
RMG_0041	装置状態の設定に失敗しました。(xxx)	ネットワークの状態が正常かどうか、確認する。
RMG_0056	接続確認処理に失敗しました。(xxx)	
RMG_0082	新規レジストレーションを起動しました。	なし。
RMG_0083	更新レジストレーションを起動しました。	
RMG_0084	情報送信に関する合意事項画面表示処理に成功しました。	
RMG_0085	新規レジストレーション処理に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0086	新規レジストレーションを行いました。	なし。
RMG_0088	更新レジストレーション処理に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0089	更新レジストレーションを行いました。	なし。
RMG_0128	レジストレーション処理を呼び出しました。	

表 8.18 [レジストレーション結果] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0001	装置状態の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0082	新規レジストレーションを起動しました。	なし。
RMG_0083	更新レジストレーションを起動しました。	
RMG_0085	新規レジストレーション処理に失敗しました。(xxx)	ネットワークの状態が正常かどうか、確認する。
RMG_0086	新規レジストレーションを行いました。	なし。
RMG_0087	レジストレーション結果画面表示処理に成功しました。	
RMG_0088	更新レジストレーション処理に失敗しました。(xxx)	ネットワークの状態が正常かどうか、確認する。
RMG_0089	更新レジストレーションを行いました。	なし。

表 8.19 [環境情報・お客様情報のエクスポート] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0015	入力値に指定できない文字が含まれています。	
RMG_0033	入力されたディレクトリが正しくありません。	正しくディレクトリを入力する。
RMG_0036	入力必須項目です。	項目の入力をする。
RMG_0120	環境情報・お客様情報エクスポート画面表示処理に成功しました。	なし。
RMG_0121	環境情報のエクスポートに失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0122	お客様情報のエクスポートに失敗しました。(xxx)	
RMG_0123	環境情報をエクスポートしました。	なし。
RMG_0124	お客様情報をエクスポートしました。	
RMG_0125	お客様情報をエクスポートします。	[OK] ボタンまたは[キャンセル] ボタンをクリックする。
RMG_0126	環境情報をエクスポートします。	
-	エクスポート終了後、この画面を閉じてください	エクスポート終了後に画面を閉じる。

表 8.20 [接続確認] 画面または[接続確認情報] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0001	装置状態の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0015	入力値に指定できない文字が含まれています。	入力値を修正する。
RMG_0041	装置状態の設定に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0053	接続確認を行います。よろしいですか。	[OK] ボタンまたは[キャンセル] ボタンをクリックする。
RMG_0055	接続確認画面表示処理に成功しました。	なし。
RMG_0056	接続確認処理に失敗しました。(xxx)	ネットワークの状態が正常かどうか、確認する。
RMG_0058	接続確認に成功しました。	なし。
RMG_0181	E-mail アドレスに誤りがあります。	正しく入力する。
RMG_0182	管理者か実施者少なくとも一方は「通知する」に設定してください。	正しく指定する。
RMG_0183	【結果通知先 E-mail アドレス】を入力してください。	正しく入力する。

表 8.21 [接続確認結果] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0041	装置状態の設定に失敗しました。(xxx)	
RMG_0056	接続確認処理に失敗しました。(xxx)	ネットワークの状態が正常かどうか、確認する。
RMG_0058	接続確認に成功しました。	なし。
RMG_0185	接続確認結果画面表示処理に成功しました。	

表 8.22 [センター接続一時停止] 画面または[センター接続再開] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0001	装置状態の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	[OK] ボタンまたは[キャンセル] ボタンをクリックする。
RMG_0041	装置状態の設定に失敗しました。(xxx)	
RMG_0059	REMCS センターとの接続を停止しますか。	なし。
RMG_0060	REMCS センターとの接続を再開しました。	
RMG_0061	REMCS センターとの接続を停止しました。	
RMG_0062	REMCS センター接続停止画面表示処理に成功しました。	
RMG_0063	REMCS センター接続再開画面表示処理に成功しました。	
RMG_0064	REMCS センターとの接続を再開しますか。	[OK] ボタンまたは[キャンセル] ボタンをクリックする。
RMG_0092	現在、設定未完了のため実行できません。	レジストレーションが完了してから実行する。

表 8.23 [ハード構成情報送信] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0130	ハード構成情報送信画面表示処理に成功しました。	なし。
RMG_0132	ハード構成情報の送信を行いました。	
RMG_0133	ハード構成情報の送信に失敗しました。(xxx)	ネットワークの状態が正常かどうか、確認する。
RMG_0136	REMCS センターにハード構成情報を送信します。	[OK] ボタンまたは[キャンセル] ボタンをクリックする。
RMG_0138	ハード構成情報送信処理を起動しました。送信結果は、イベントログ参照画面で確認して下さい。	送信結果をイベントログ参照画面で確認する。
RMG_0140	ハード構成情報送信処理を起動しました。	なし。

表 8.24 [ソフト構成情報送信] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0131	ソフト構成情報送信画面表示処理に成功しました。	なし。
RMG_0134	ソフト構成情報の送信を行いました。	
RMG_0135	ソフト構成情報の送信に失敗しました。	ネットワークの状態が正常かどうか、確認する
RMG_0137	REMCS センターにソフト構成情報を送信します。	[OK] ボタンまたは[キャンセル] ボタンをクリックする。
RMG_0139	ソフト構成情報送信処理を起動しました。送信結果は、イベントログ参照画面で確認して下さい。	送信結果をイベントログ参照画面で確認する。
RMG_0141	ソフト構成情報送信処理を起動しました。	なし。

表 8.25 CE 操作初期画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0009	CE 操作初期画面表示処理に成功しました。	なし。

表 8.26 [環境詳細設定] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0001	装置状態の取得に失敗しました。(xxx)\n(装置 ID=xxxxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0015	入力値に指定できない文字が含まれています。	入力値を修正する。
RMG_0016	入力値が範囲外です。	
RMG_0018	登録情報の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0019	環境詳細設定画面表示処理に成功しました。	なし。
RMG_0021	環境設定の登録に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0022	環境設定の登録を行いました。	なし。
RMG_0023	環境設定の登録に成功しました。	
RMG_0036	入力必須項目です。	正しく入力する。
RMG_0037	環境設定の登録を行います。よろしいですか。	[OK] ボタンまたは[キャンセル] ボタンをクリック
RMG_0189	環境設定が完了するまで REMCS センターへの通報は行われません。よろしいですか。	する。

表 8.27 [接続先 REMCS センター設定] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0018	登録情報の取得に失敗しました。(xxx)	
RMG_0027	装置状態の変更に失敗しました。(xxx)	
RMG_0097	接続先一覧ファイル情報の取得に失敗しました。(xxx)	
RMG_0098	接続先 REMCS センター変更画面表示処理に成功しました。	なし。
RMG_0099	接続先 REMCS センターの設定に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0100	接続先 REMCS センターの設定処理に成功しました。	なし。
RMG_0101	接続先 REMCS センターを設定しました。	
RMG_0102	接続先 REMCS センターを設定しました。レジストレーションを実行してください。	レジストレーションを実行する。
RMG_0103	接続先 REMCS センターを設定します。よろしいですか。	[OK] ボタンまたは [キャンセル] ボタンをクリックする。
RMG_0150	定義ファイル情報のアクセスに失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0172	出荷先取得処理に失敗しました。(xxx)	

表 8.28 [日本語/英語の切替え] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0041	装置状態の設定に失敗しました。(xxx)	
RMG_0162	日本語/英語切替え画面表示処理に成功しました。	なし。
RMG_0163	日本語/英語切替えを行います。  切り替えを行うと再度レジストレーションが必要になります。よろしいですか。	[OK] ボタンまたは [キャンセル] ボタンをクリックする。
RMG_0164	日本語の切替えに失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0165	英語の切替えに失敗しました。(xxx)	
RMG_0166	日本語切替え処理を行いました。	引き続き、レジストレーションを行う。
RMG_0167	英語切替え処理を行いました。	
RMG_0190	日本語/英語切替えを行います。よろしいですか。	[OK] ボタンまたは [キャンセル] ボタンをクリックする。

表 8.29 [装置 ID/ユニーク名の切替え] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0104	装置名表示の切替えを行います。よろしいですか。	[OK] ボタンまたは [キャンセル] ボタンをクリックする。
RMG_0105	装置名切替え画面開設に成功しました。	なし。
RMG_0106	装置名表示の切替えを行いました。	

表 8.30 処理進捗表示画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	



表 8.31 [個人情報削除] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0195	個人情報を削除します。よろしいですか。	[OK] ボタンまたは [キャンセル] ボタンをクリックする。
RMG_0196	個人情報の削除に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0209	個人情報を削除しました。	なし。
RMG_0210	個人情報画面表示処理に成功しました。	

表 8.32 [証明書の入れ替え] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0033	入力されたディレクトリが正しくありません。	正しくディレクトリを入力する。
RMG_0036	入力必須項目です。	項目の入力をする。
RMG_0142	入力されたディレクトリにファイルが存在しません。	入力したディレクトリ名およびファイル名を確認し、正しく入力する。
RMG_0211	入力されたファイルはアップロード対象外です。	ファイル名を正しく入力する。
RMG_0212	証明書のアップロードに失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0213	証明書をアップロードしました。	なし。
RMG_0214	証明書の入れ替え画面表示処理に成功しました。	
RMG_0215	CA 局証明書の認証に失敗しました。	指定した証明書が正しいかを確認する。
RMG_0224	現在使用している証明書と同じため、インポートする必要がありません。	インポートしようとしているファイルを確認する。

表 8.33 [証明書の確認] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0001	装置状態の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0041	装置状態の設定に失敗しました。(xxx)	
RMG_0216	証明書の入れ替えを行います。証明書の入れ替えを行うと、接続確認が完了するまで REMCS センターへの通報は行われません。よろしいですか。	[OK] ボタンまたは[キャンセル] ボタンをクリックする。
RMG_0217	証明書の確認画面表示処理に成功しました。	なし。
RMG_0218	証明書の入れ替えに失敗しました。証明書の入れ替えをやり直して下さい。(xxx)	証明書の入れ替えを再度行う。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0219	証明書の入れ替えに成功しました。	なし。

表 8.34 [前証明書への復元] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0001	装置状態の取得に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0041	装置状態の設定に失敗しました。(xxx)	
RMG_0216	証明書の入れ替えを行います。証明書の入れ替えを行うと、接続確認が完了するまで REMCS センターへの通報は行われません。よろしいですか。	[OK] ボタンまたは[キャンセル] ボタンをクリックする。
RMG_0220	前証明書への復元画面表示処理に成功しました。	なし。
RMG_0221	前証明書への復元に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0222	前証明書への復元に成功しました。	なし。

表 8.35 [証明書の表示] 画面のメッセージ

メッセージコード	メッセージ	対処
RMG_0002	画面データの展開に失敗しました。(xxx)	再度実行して失敗する場合は、REMCS の画面を終了し、再度画面を起動し実行する。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡する。
RMG_0004	CGI パラメーターに誤りがあります。	
RMG_0223	証明書の表示画面表示処理に成功しました。	なし。

## 8.2 通信エラーメッセージ (SMTP 通信)

通信処理でエラーが発生した場合に画面に表示されるエラーメッセージを、以下に示します。通信エラーメッセージには対処方法も表示されるので、参照して対処してください。対処しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡してください。

なお、メッセージの RL は REMCS ライブラリ復帰値、ML はメール送信部復帰値です。

表 8.36 通信エラーメッセージ (SMTP 通信) 一覧

メッセージコード	メッセージ
RMG_2000	(SMTP)有効なメールアドレスがありません。 E-Mail アドレスが正しく設定されていません。 RL:xxx,ML:xxx
RMG_2001	(SMTP)メモリが不足しています。 不要なアプリケーションを終了後、再度操作を実施してください。 RL:xxx,ML:xxx
RMG_2002	(SMTP)ファイルアクセスエラー。ファイルがありません。 以下のことを確認してください。 - /var/配下の残りディスク容量は十分か RL:xxx,ML:xxx
RMG_2003	(SMTP)通信のタイムアウトエラーです。数分後に再度トライしてください。 再度トライしても同じ現象の場合は、メール(SMTP)サーバとの通信回線および SMTP サーバの起動状態を確認してください。 RL:xxx,ML:xxx
RMG_2004	(SMTP)メール(SMTP)サーバ上のエラーです。 以下のメッセージを参照して、環境を見直してください。 (SMTP サーバのエラーメッセージ) XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX RL:xxx,ML:xxx
RMG_2005	(SMTP)メール(SMTP)サーバに接続できません。 SMTP サーバとの通信処理でエラーが発生しました。 以下の原因が考えられます。 - SMTP サーバ名が間違っている - DNS 運用している場合に DNS サーバが動作していない - SMTP サーバとの通信回線の異常 (SMTP サーバのエラーメッセージ) XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX RL:xxx,ML:xxx
RMG_2006	(SMTP)メール(SMTP)サーバに接続できません。 SMTP サーバ名に誤りがあるか、SMTP サーバが起動していません。 以下の原因が考えられます。 - SMTP サーバ名が間違っている - DNS 運用している場合に DNS サーバが動作していない - SMTP サーバとの通信回線の異常 (SMTP サーバのエラーメッセージ) XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX RL:xxx,ML:xxx

メッセージコード	メッセージ
RMG_2007	<p>(SMTP)メール(POP3)サーバとの間でエラーが発生しました。                      POP before SMTP の認証に失敗しました。                      以下の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>–POP3 サーバ名が間違っている</li> <li>–ユーザ名に誤りがある</li> <li>–パスワードに誤りがある</li> </ul> <p>(POP3 サーバのエラーメッセージ)                      xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx                      RL:xxx,ML:xxx</p>
RMG_2008	<p>(SMTP)メール(POP3)サーバとの間でエラーが発生しました。                      POP3 サーバとの通信処理でエラーが発生しました。                      以下の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>–POP3 サーバ名が間違っている</li> <li>–DNS 運用している場合に DNS サーバが動作していない</li> <li>–POP3 サーバとの通信回線の異常</li> </ul> <p>(POP3 サーバのエラーメッセージ)                      xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx                      RL:xxx,ML:xxx</p>
RMG_2009	<p>(SMTP)メール(POP3)サーバとの間でエラーが発生しました。                      POP3 サーバとの通信でタイムアウトが発生しました。                      以下の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>–POP3 サーバとの通信回線の異常</li> <li>–POP3 サーバが起動していない</li> </ul> <p>RL:xxx,ML:xxx</p>
RMG_2010	<p>(SMTP)メール(POP3)サーバとの間でエラーが発生しました。                      POP3 サーバ名に誤りがあるか、POP3 サーバが起動していません。                      以下の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>–POP3 サーバ名が間違っている</li> <li>–DNS 運用している場合に DNS サーバが動作していない</li> <li>–POP3 サーバとの通信回線の異常</li> </ul> <p>(POP3 サーバのエラーメッセージ)                      xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx                      RL:xxx,ML:xxx</p>
RMG_2011	<p>(SMTP)メール(SMTP)サーバとの間でエラーが発生しました。                      SMTP サーバで認証エラーが発生しました。                      指定されたユーザ名、パスワードに誤りがあり、                      SMTP サーバで認証できませんでした。                      (SMTP サーバのエラーメッセージ)                      xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx                      RL:xxx,ML:xxx</p>
RMG_2012	<p>(SMTP)メール(SMTP)サーバとの間でエラーが発生しました。                      指定された SMTP サーバが AUTH 認証に対応していません。                      または、指定された AUTH 認証形式に SMTP サーバが対応していません。                      以下の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>–SMTP サーバの指定が間違っている</li> <li>–指定した AUTH 認証形式が間違っている</li> </ul> <p>(SMTP サーバのエラーメッセージ)                      xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx                      RL:xxx,ML:xxx</p>

メッセージコード	メッセージ
RMG_2013	SMTP)メール(SMTP)サーバとの間でエラーが発生しました。 SMTP サーバは指定した暗号化接続の形式に対応していません。 暗号化接続の形式を確認してください。 RL:xxx,ML:xxx

## 8.3 その他のエラーメッセージ

上記以外のエラーメッセージが表示された場合は、REMCS 画面を終了し、再度 REMCS 画面を起動し実行してください。再度実行しても現象が変わらない場合はサポートセンターに連絡してください。

## 第9章 MMB のログ収集について

ここでは、MMB のログ収集を説明します。

OSC にメール送信ができない場合などのトラブル発生時に、調査資料として MMB の動作ログが必要になることがあります。サポートセンターからの指示により、MMB Web-UI のメニュー[System] - [System Event Log] で、MMB が保持しているログをダウンロードします。操作について詳しくは『PRIMEQUEST 2000 シリーズ運用管理ツールリファレンス』（CA92344-0529）の「1.2.2 [System Event Log] 画面」を参照してください。

ダウンロードしたログファイルは、担当保守員に渡してください。

## 第10章 REMCS GUI 使用上の注意点

ここでは、REMCS の GUI を使用するときの注意点を説明します。

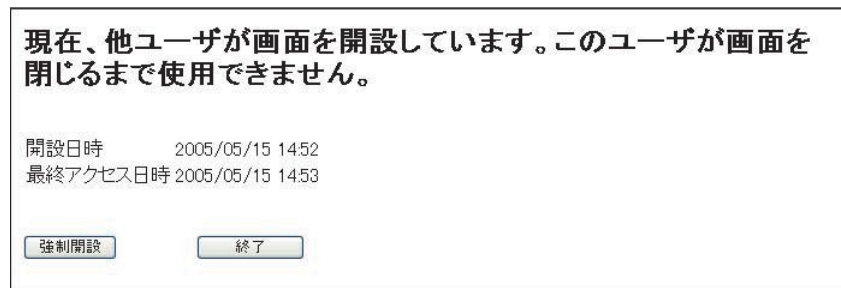
REMCS の GUI は MMB の Web UI から REMCS のメニューを選択すると別ウィンドウが開き、表示されます。このとき、WWW ブラウザを使用する PC などに Symantec 社の「Symantec Client Firewall」や「Norton Internet Security」などの Firewall 機能を持つセキュリティソフトウェア製品をインストールしている場合、初期値設定により Cookie や参照元の情報を遮断することがあります。この場合、[接続されていません。] のメッセージ画面が表示され、REMCS の画面は表示されません。Cookie や参照元の情報をブロックしないように設定を変更する必要があります。

「Symantec Client Firewall」を使用している場合の設定手順は以下のとおりです。その他のソフトウェア製品につきましては、各製品のマニュアルおよび HELP を参照してください。

1. 「Symantec Client Firewall」を起動し画面を表示します。
2. [プライバシー制御] を選択し、[設定] ボタンをクリックします。
3. [プライバシー制御] 画面が表示されるので、[カスタムレベル] ボタンをクリックします。
4. [プライバシー設定のカスタマイズ] 画面が表示されるので、[Cookie 遮断] を[なし：Cookie を許可します] を選択し、[ブラウザプライバシーを有効にする] のチェックボックスをオフにして[OK] ボタンをクリックします。
5. [プライバシー制御] 画面に戻りますので、[OK] ボタンをクリックして完了します。

REMCS の GUI を表示後、MMB Web-UI の[Network Configuration] - [Network Protocols] の Web (HTTP/HTTPS) の Timeout で設定された時間内に何も入力がない場合は、接続が切断されます。REMCS の GUI は同時に 1 ユーザーしか使用できません。すでにほかのユーザーがログインしている場合には、以下の画面が表示されます。

図 10.1 REMCS メッセージ画面



[強制開設] ボタンをクリックすると、現在ログイン中ユーザーを強制的にログアウトして、ログインします。

[終了] ボタンをクリックすると、画面を閉じます。

MMB の Web-UI でタイムゾーンを変更した場合、OSC の情報を更新するため、以下の操作を実行してください。

- 定期接続スケジュール設定を実行する。

REMCS の定期接続スケジュールは、現在設定されているタイムゾーンで解釈される。

**FUJITSU**